

個人情報保護の観点から、
生徒名を削除しました

令和3年度
新潟県立高田高等学校

第2学年

東京企業研修
ベトナム・サイエンス研修
報告集

巻頭言

協働して取り組んだ経験を大切に！

校長 加藤 徹男

本校では、多様な体験活動をとおして自己理解を深め、社会を知り、そして自分自身を社会で活かすためのキャリアアップを目的として、体系的なキャリア教育「高高未来Clue Plan（高高ミラクルプラン）」を立ち上げ取り組んできました。そして、その中核となるものが「東京企業研修」であり、平成21年に最初の研修を実施してから今年度で13回目となりました。

また、平成25年に本校が文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けたことで、「高高未来Clue Plan」をSSH事業の一部として組み込み、引き続き東京企業研修に取り組むとともに、海外との科学的な交流を通じて国際性や国際社会に貢献する意識を高めるため、8年前から「ベトナム研修」を実施してきました。

しかしながら、令和2年1月以降、世界規模で新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いていることから、今年度も東京の企業やベトナムの学校を実際に訪問することができませんでした。そうした中、10月6日に研修先の企業とオンラインで接続し、SDGs実現に向けたアイデアをプレゼンテーションするとともに企業からアドバイスをいただきました。また、ベトナムの学校ともオンラインで接続し交流することができました。さらに、10月26日には、全てのグループを対象とした校内選考会を行い、その結果を踏まえて、翌27日に探究学習ゼミ発表会を開催しました。このような活動を通じて、探究学習の当初の目的を十分に達成できたと感じています。

ところで、この探究学習ゼミの活動を通して、生徒の皆さんはどんなことを学んだでしょうか。強く感じたことや印象に残ったことは、一人ひとり違うと思いますが、この探究学習でSDGs実現に向けたアイデアを仲間と考え、プレゼンテーションの準備に協働して取り組んだ経験を大切にしてほしいと思います。今回取り上げたSDGsをはじめ、現在の世界は多くの課題を抱えており、さらに情報化やグローバル化の進展、AIやロボット技術の急速な進歩によって、社会はこれから大きく変化していくと多くの研究者が予測しています。すでにコロナ禍による在宅勤務の増加など、身近なところでも変化が始まっています。このような「予測困難な時代」には、個人の力だけで対応するには限界があり、多くの仲間と協働することが重要になってきます。さらに、地球規模の課題や正解のない難問に対しては、関係する多くの分野の専門家によるプロジェクトチームで対応することになりますが、チームの構成メンバー全員が常に同じ意見を持っているとは限りません。課題によっては、それぞれの思惑や利害関係から意見が対立する可能性もあり、そうした中で多様な相手と協働して納得解を導いていくことが大切になります。将来、皆さんがそうしたチームの中で各自の持ち味を最大限に発揮しながら、協働していくためには何が必要か、今から考えてほしいと思います。外国語の能力を高めればよいというような単純なことではありません。対話や議論を通じて、根拠を示しながら自分の考えを伝えたり、意見や立場の異なる相手を尊重し相手の考えを受け入れて自分の考えを広げ深めたり、そうした繰り返して集団としての考えを発展させていくことが必要になります。今回、グループで協働して課題に取り組んだ経験を踏まえ、今後そうした力を意識して高めてほしいと思います。

最後になりましたが、この研修の実施に当たり、ご尽力をいただきました校友会東京支部長の内山郁夫様、元支部長の佐久間昇二様、探究ゼミ発表会に審査員としてオンラインでご出席いただいた久島士郎様と川堀昌樹様をはじめ、この研修にご協力いただいた企業の各担当者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

〔目 次〕

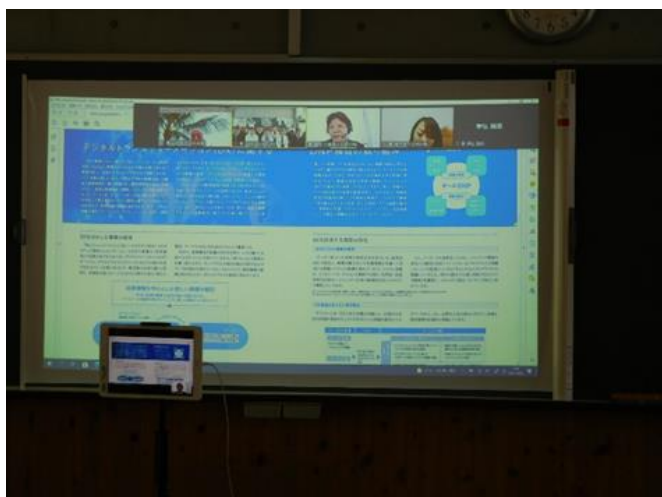
巻頭言	1
中間発表・オンライン発表 写真	4
【企業班】	
ゼミ活動概要	5
探求活動ゼミ発表会（予選）写真	6
企業訪問報告書（3 ページ参照）	8～85
【グローバル班】	
ゼミ活動概要	88
活動報告書（3 ページ参照）	89～101
探求活動ゼミ発表会	102～106
生徒アンケート結果	107
第13回研修を振り返って（成果と課題）	108～109

企業名	掲載ページ
大日本印刷株式会社	8 ~ 11
株式会社みずほフィナンシャルグループ	12 ~ 15
野村ホールディングス株式会社	16 ~ 19
住友生命保険相互会社	20 ~ 23
日本ケミコン株式会社	24 ~ 25
日本電気株式会社 (NEC)	26 ~ 29
シティユーワ法律事務所	30 ~ 33
信越化学工業株式会社	34 ~ 37
株式会社東芝	38 ~ 41
富士通株式会社	42 ~ 45
大成建設株式会社	46 ~ 49
株式会社ぐるなび	50 ~ 53
キヤノン株式会社	54 ~ 57
石油資源開発株式会社 (JAPEx)	58 ~ 61
株式会社朝日新聞社	62 ~ 65
横浜ゴム株式会社	66 ~ 69
株式会社日立製作所	70 ~ 73
株式会社ベネッセコーポレーション	74 ~ 77
パナソニック株式会社	78 ~ 81
株式会社テラスカイ	82 ~ 85
グローバル班	掲載ページ
グローバル A班	89 ~ 93
グローバル B班	94 ~ 97
グローバル C班	98 ~ 101

中間発表 7月16日



オンライン発表 10月6日



企業訪問・ゼミ活動概要

《企業訪問の目的・ねらい》

企業で提案するプレゼンテーションをグループで作成することで、情報を集め、分析し、課題を設定し、問題を解決し、それを適切に伝えるための能力を伸ばす。また、社会の仕組みを知り自らの進路を考える一つの契機とする。

《活動概要》

1年2学期

オリエンテーション

- ・プレゼミ活動

2年1学期

ゼミ活動

- ・訪問企業決定、グルーピング
- ・解決したい課題の設定
- ・課題解決に向け予備提案書・質問書の作成
- ・中間発表に向けたプレゼンテーションの準備

7月16日(金)

中間発表

夏季休業中

グループ研究

- ・提案内容の見直し、プレゼンテーション資料作成

2年2学期

ゼミ活動

- ・スライド原案の修正・検討、発表原稿の検討

10月1日(金)

最終リハーサル

10月6日(水)

オンライン発表(9:00~16:00)

- ・企業毎にプレゼンテーションを行う。
- ・オンラインで企業の方とプレゼンテーションに関する意見交換、訪問先の業務内容や施設の見学、働くこと・社会で活躍することについての懇談等を行う。

10月26日(火)

午前 高田高校探究学習ゼミ発表会(予選) 会場 高田高校

- ・企業ゼミ(39班)、グローバル(3班)を4グループに分け、発表を行う。
- ・グループごとに最も優れたプレゼンテーションを投票で選ぶ。選ばれた班は本選で発表。

10月27日(水)

午後 高田高校探究学習ゼミ発表会(本選) 会場 高田城址公園オーレンプラザ

審査結果

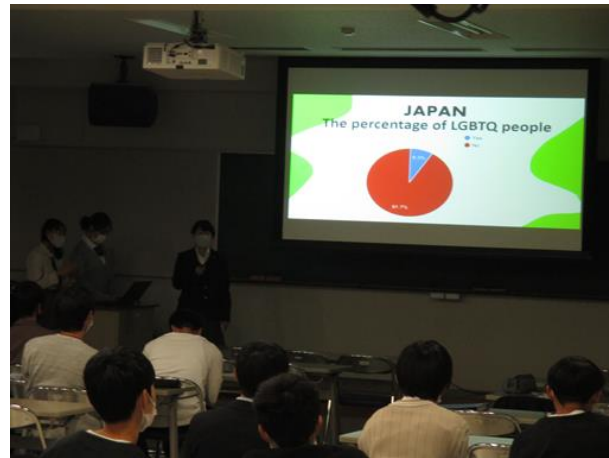
★優 秀 (庄山 悦彦杯) 「総合的」に秀でているもの

石油資源開発株式会社(JAPEX) A班

★秀 逸 (佐久間昇二杯) 「独自性・創造性」に秀でているもの

横浜ゴム株式会社 B班

探求活動ゼミ発表会（予選） 10月26日



ゼミ活動報告書

スクリーン

【大日本印刷株式会社 A 班】

～ 有機 EL で Let's Educational Life ～

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

明治9年創業以来、印刷技術と情報技術を強みとして、建材分野、情報産業、生活産業、エレクトロニクス分野に進出。事業は、情報コミュニケーション部門、生活・産業部門、エレクトロニクス部門からなる印刷事業と飲料事業から構成される。偏光板用機能性フィルムの製造は世界シェア一位であり、大日本印刷様の強みである。

3 提案の概要

私たちの班は、学校の学習環境を発展させ、企業の強みを生かした、学校のためのスクリーン「スクリーン」を提案する。「スクリーン」は、有機 EL を利用した薄型スクリーンである。有機 EL とは、有機物質に電圧をかけると、有機物自体が発光する現象ことであり、有機 EL 利用したディスプレイは薄くて軽い、映像が綺麗、さらに発せられるブルーライトの量が少ないため目に優しいという特徴がある。現在スマートフォンの使用率の増加により学生の視力低下が問題となっている。そこで、学校での電子機器を使う機会を増やすために私たちは「スクリーン」を考案した。また、まず全国の小中学校、高等学校に割安な値段で販売し、使用校から改善点を指摘してもらうことによって更なる製品改善につながると私たちは考える。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

1 授業が快適になる

スクリーンを学校の授業や活動で使うことで有機 EL の機能を生かし目への負担を減らすことができる。それにより快適な授業に繋がる。

2 有機 EL が普及される

有機 EL の需要が上がってくると考えられる今、教育の現場にスクリーンを導入することで有機 EL 普及の第 1 歩になる。また有機 EL が普及され、多くの人に知ってもらうことが、大日本印刷様の利益に繋がる。

3 学校に影響がもたらされる

この事業がうまくいけば、後に「スクリーン」としてではなく、「タブレット型」に形を変え、学生のより良い学習に役立てていきたい。今の時代、学校でのタブレット学習の必要性は高いと考えられる。

○ 解決されると考える SDGs

4 質の高い教育をみんなに

社会を作る基礎となる人材の育成のためにより良い教材を提供したい

5 企業への発表を終えて

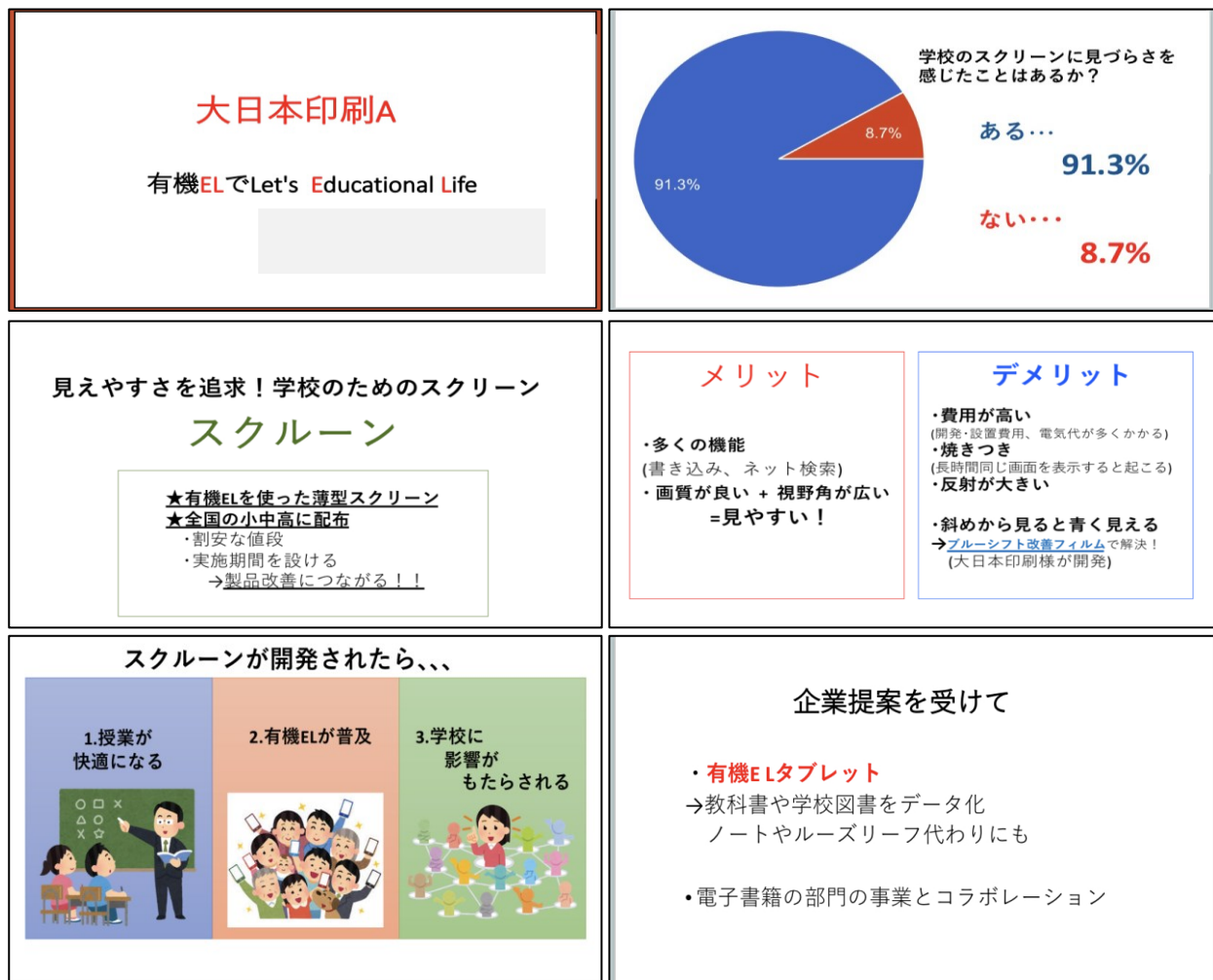
○ 企業からいただいた指摘や意見

- ・ 企業の事業内容から、SDGs と絡めて、企業が出来ることを考えるのではなく、叶えたい未来と現在との違いから問題点を見つけ、企業が出来ることを考える考え方をした方がよい。
- ・ 身近な問題について考えていてよい。
- ・ パワーポイントが分かりやすくしてよい。

○ 発表を終えて考えたこと

- ・ 有機 EL についてもっとよく調べて知りたい。
- ・ パワーポイントを原稿を分かりやすくするために文字を減らす。
- ・ SDGs についてもっと深く考え直す。

6 資料抜粋



7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

プレゼンを説得力のあるものにするためには、提案の概要を班のメンバーと何回も確認し合うことが大切。また、どんなにいい提案を考えついたとしても、それを人に伝えられなければ意味がないから、人前でなくとも沢山練習をすることが大切だと学んだ。

○ 感想

活動開始時は考えがまとまらず苦戦したが、授業だけでなく放課後、昼休みなどに班のメンバーで何度も話し合いを重ね、自分たちの納得のいく提案、プレゼンができた。提案を考え、根拠を探し、それを人に伝えるという過程は難しいと感じることも多かったが、とても充実した活動であったと思う。

○ 後輩へ

まずひとつ絶対に伝えたいことは「本気で取り組んだ方が確実に楽しい」ということ。最終的に自分たちがどういうプレゼンテーションをしたいのか、理想形を考えておくことが大切。そうすることでその姿に向けて頑張ろうというモチベーションになる。次に「チームワークを高める」ということ。仲間と力を合わせて自分たちの納得のいくプレゼンテーションをすることがゼミ活動成功の鍵となる。そして、「資料の提出締切を守る」ということ。人の信頼を失わないためだけでなく、東京研修というゼミ活動を通して高められる人間性にも繋がってくる。約5ヶ月間の活動時間があるが、思ったより短いと感じるはず。終盤間際になって焦り始めても遅い。余裕をもってパワーポイントや原稿を完成させるようにした方がよい。多くのことで悩んだり迷ったりすると思うが、自分たちが「楽しい」と思うことができたなら本望だと思う。みんなも10月の最終プレゼンテーションが終わったあと「やり切った！」と自信を持って言えるような活動にしてほしい。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1876(明治9)年10月9日創業。企業理念は「人と社会をつなぎ新しい価値を提供する」。印刷と情報技術を基盤に、現在はデジタルマーケティング、包装材、フィルム、飲料等様々な事業を行う。独自の「P&I」(情報と技術)の強みを掛け合わせ、パートナーとの連携を深めている。拠点は、アメリカ、中国、フランス等全世界に広がる。

3 提案の概要 (企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く)

私達は、大日本印刷の洗練された技術を利用し、企業理念と、環境保全を組み合わせた繊維を提案する。現在、地球温暖化が進んでいることや海や砂浜がプラスチック製品により汚れていることが問題となっている。この2つに共通する原因を解決すべく、プラスチックの排出を抑えることのできる商品を作りたいと考えた。私達が注目したのはアパレル業界のCO2排出量が多いことである。衣服の原料調達から製造段階までに排出されるCO2は約9万キロンである。大きな問題であるにも関わらず、取り上げられることは少ない。

そこで私達はCO2の排出を抑えることのできる繊維を開発することでアパレル業界の環境問題への対策をできると考えた。大日本印刷ではサトウキビの廃糖蜜を利用して循環型プラスチック「バイオマテック」を開発し、包装材の材料として使用している。私達は、バイオマテックを繊維として活用すること、また繊維の段階で他企業に提供し、連携を図り、様々な商品制作をしていただくことを提案する。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

社会に与える影響として、第一に環境保全がある。大日本印刷の調査より、バイオマテックは石油由来のものよりCO2排出量が3,300t以上減少したことが分かる。また、ライフサイクル全体で10%以上のCO2を削減可能であり、循環型であるため持続可能である。これらのことから、繊維という日常生活に多く用いられる製品で多くのCO2削減が可能になり、地球温暖化等の今ある環境問題の解決に貢献できる。開発にかかる時間と労力は必要だが、挑戦してみる価値はあるだろう。

また、バイオマテックは生産サイクルの中でCO2を削減し、持続可能な生産ができるという特徴からSDGsの⑨⑩⑬⑭の項目に、様々な企業でバイオマテック繊維を使用した商品を展開できるという点から⑯の項目に当てはまる。これまで間接的にCO2排出を削減する製品はあったが、直接的に削減できる製品がなかった。直接的に削減できるのであれば企業も取り入れることに前向きであると考えられる。企業と連携することで大日本印刷だけでなく連携企業のイメージアップに繋がり、より消費者が連携企業を選択しやすくなる。繊維としての需要が上がれば製品を改善したり、企業へのサポートも厚くできるようになる。

5 企業への発表を終えて

○企業からいただいた指摘や意見

- ・提案は現在ある原因から発展した案だが、加えて10年後20年後の未来の問題のよさから案を考えると良いと思います。
- ・他のCO2削減商品との比較を明確にしてみてください。
- ・アパレル業界のCO2排出量に重点を置いたことは良かったです。
- ・高校生らしく独創性のある提案でした。

○発表を終えて考えたこと

- ・10年後20年後は色々な技術が発展しCO2が削減されている可能性はあるが、蓄積しさらに増加すると予想されるため日常的なものから解決策を探っていくべきである。
- ・CO2削減に直接的に関与すること。植物由来であるため循環し、持続可能であること。これに加えて連携企業がさらに受け入れやすいようなポイントを見つけたい。

6 資料抜粋

バイオマテックから始まる未来
Crafters (大日本印刷B)

プラスチックの排出を抑えられる製品を作りたい！

バイオマテック

サトウキビ → 糖液 → 廃糖蜜 → エタノール → 分子内転位 → エチレン → 付加重合 → ポリエチレン

サトウキビから砂糖を精製した際の副産物(廃糖蜜)を原料の一部に使用して、石油資源の使用量を削減できるプラスチック

東京金融賞2020-ESG投資部門 (SDGsカテゴリ) 受賞

2019年度までにCO₂累計5,500トン削減

石油由来のものよりCO₂排出量が3,300トン以上減少

特許・エコマーク取得済

バイオマテックを利用した繊維を開発する

今あるバイオマテック商品は包材、インク

↓

新しいバイオマテックの商品を考えたい

↓

活用の幅が広いものがない

↓

繊維

その繊維を利用し、他の企業と連携して商品をつくる

連携企業が各企業の特徴を生かして環境に良い商品をも！

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> 持続可能 リサイクル可能 脱炭素への取り組み 企業のイメージアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 開発にかかる時間と労力 着心地や触り心地 原材料の作地面積

SDGsとの関わり

9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 12 つくる責任 つかう責任 | 13 気候変動に具体的な対策を | 14 海の豊かさを守ろう | 17 パートナリシップで目標を達成しよう

使用例

- ポリエステルやナイロンなど化学繊維で作られた服
- タオル
- 椅子・カーテン

循環型布製品開発を企業と連携して実施

見える未来

- 商品の制作は各企業で自由に
- 環境によい
- バイオマテックの実績=安心感
- 事業の拡大が可能

地球温暖化への貢献

両企業のイメージアップ

事業の可能性拡大

バイオマテックから始まる未来

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、よく調べて企業について細かく知ること、確実なデータ集め、チームワークが重要だと感じた。細かく知るためには早くから調べ始めること。確実なデータなどは他の類似の商品との相違点を表す際にも役立つため多く集めること。チームメイトの話をよく聞き、色々な視点で見ること、客観視をすることが大切だと思う。多様な意見が集まると良い案が生まれるということを実感した。

○ 感想

途中で大幅に変更をしたり、大変なことも多かったが、チームで意見を出し合ったり、役割を分担したりして一人だけでは感じられない貴重な経験ができた。また、社会問題についてじっくりと考え、向き合うことができた。SDGsと関連させることで普段見ない視点からも考えるように意識することができた。企業の方々やチームメイトとつながりを持てたことを有り難く思う。

○ 後輩へ

ゼミ活動の中で予想していないハプニングや上手く行かないことが出てくると思います。何事も早め早めに始めると良いと思います。後でパワポや原稿を工夫する余裕ができます。行き詰まったときには今あるものと掛け合わせたり、2つのことをミックスさせたりすることをお勧めします。アンケートなどの取り方や人数や誰に取るかも重要なのでじっくりと考えてみてください。何よりも、チームメイトを尊重しながら、沢山話し合うことです！

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

みずほフィナンシャルグループは、銀行持株会社として、銀行持株会社、銀行、証券専門会社、その他銀行法により子会社とすることができる会社の経営管理およびこれに附帯する業務、その他銀行法により銀行持株会社が営むことのできる業務を行うことを事業目的とし、グループの経営効率の向上と事業分野、機能面における特色・強みの結合を実現するために必要な経営管理等を行っています。さらに、みずほ銀行のイノベーション企業支援部では「M's salon」と言う会員サービスがある。これは、スタートアップ企業を様々な角度から支援することで新しい企業を育てるためのものである。

3 提案の概要

まずみずほグループ主催で、デジネスコンテスト「スタンドアップウーマン」を開催する。そして、コンテストで集まったプランの中からよかったプランをエンジェル投資家の皆さんに選んでもらい、投資していただく。その後、選定されたプランをみずほさんの「M's salon」によって経営面での支援をしていただき、エンジェル投資家による投資で運営していく。そして、発展したプランをみずほさんによって融資していく。

このビジネスプランコンテストの参加対象は創業予定の18歳以上の女性である。そして、募集するプランは女性にとって働きやすい環境を実現できるビジネスプラン、例えば、女性と男性の役員の割合が等しい、女性にとって働きやすい環境が整っているなどである。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現された時に社会に与える影響は主に、ジェンダー格差がなくなることである。今、日本では様々なジェンダー問題がある。例えば、女性の役員が少なかったり、女性の意思が通りづらかったりする。原因として、女性は妊娠したり育児をしなければいけないということが上げられる。しかし、この提案はそんな女性を助けることができる。女性の意思を聞いて、実行することで女性の案が通りやすくなり、男女平等に近づけると考えられる。そして、今までは出てこなかった女性による案が出ることで、より新しくたくさん集めることができ、これにより経済成長にもつながると考えられる。


5 企業への発表を終えて

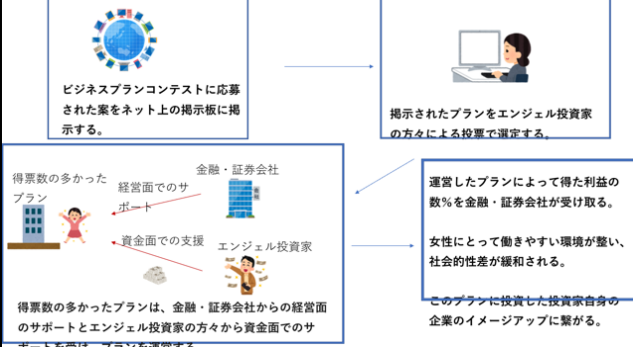
- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・視点をジェンダー問題に絞ったことで提案内容をわかりやすくまとめられている。
 - ・原因をもっと詳しく調べることでよりこの問題について知ることができる。
 - ・マインドマップを使うことでわかりやすくまとめることができる。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・日本のジェンダーギャップ指数のランキングが思っていたよりも低かった。
 - ・妊娠した女性へのサポートなども男女平等につなげることができたかもしれない。
 - ・参加対象を男女にすることでより多い意見を集めることができると考えた。

6 資料抜粋

私たちが考える社会の課題

女性の就業率が低い





ビジネスプランコンテストに応募された案をネット上の掲示板に掲載する。

掲示されたプランをエンジェル投資家の方々の投票で選定する。

得票数の多かったプランは、金融・証券会社からの経営面のサポートとエンジェル投資家の方々の資金面でのサポートを受ける。

運営したプランによって得た利益の数%を金融・証券会社が受け取る。

女性にとって働きやすい環境が整い、社会的性差が緩和される。

このプランに投資した投資家自身の企業のイメージアップに繋がる。

SDGSに貢献できること

- ジェンダー平等を達成する
- 働きがいも経済成長も促進する

企業訪問を終えて

頂いたアドバイス

- マインドマップを活用
- 女性の活躍が少ない状況の原因

アドバイスを受けて

- 労働時間が少ない

→ 女性がアイデアを示す機会や考え実行する時間が少ない

↓

育児を行う女性に対するサービス(保育施設など)もプランに取り入れたを募集する

探求を終えて・感想・気づき

- 自分が今まで知ろうともしていなかった分野についての知識を獲得できたことは良かった
- 将来、自分たちがどのような分野の仕事に就こうと、専門的な知識は必ず必要であり、それを自ら調べ探究することが成長につながっていくと実感できたこと
- 他の班とのクオリティの差を気にするのではなく自分たちのアイデアを最大限磨いていくことが大切だということ

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

意見をまとめるには、マインドマップなどを使いわかりやすくすることで新しい意見やより良い意見を創出しやすくなる。動きなどを取り入れることによって、相手に強く印象を持ってもらうことができる。原稿を覚えるには、自分たちの提案を理解することが重要である。

○ 感想

初めは、意見がまとまらないまま焦点が多方面に行っていて中間発表の時もうまく行っていなかった。しかし、何度も班で話し合いをすることによって提案内容がまとまり、班のみんなとの仲も深まっていった。ビジネスプラン甲子園でも、トラブルはあったが、最終的には納得のいくものができてよかった。

企業の方も優しく対応してくださり、本番でもうまく成し遂げることができた。

○ 後輩へ

締め切りよりも前から班員とよく相談することをお勧めします。私たちの班は、期限がまだ遠いからといって後回しにすることが多かったです。夏休みなどを活用して、部活動がないときなどは積極的に班員で集まりましょう。そうすることで、もっと良いものができます。特に時間をかけるべきなのは、一番最初の提案内容を決めることです。そこで、相談をたくさんすることで、後の見通しを持つことができ、活動がスムーズに進みます。

みんな株

～みんなで株取引シュミレーション～

【みずほフィナンシャルグループ B 班】

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

みずほフィナンシャルグループは、銀行持株会社として、銀行持株会社、銀行、証券専門会社、その他銀行法により子会社とすることができる会社の経営管理およびこれに附帯する業務、その他銀行法により銀行持株会社が営むことのできる業務を行うことを事業目的とし、グループの経営効率の向上と事業分野、機能面における特色・強みの結合を実現するために必要な経営管理等を行っている。

3 提案の概要

私達は、活動を行うにあたり、始めにみずほフィナンシャルグループ様について調べた。そこで私達が注目したのは証券部門である。ここで考えたことは「若者は株取引についてよくわかっていない。」ということである。実際に自分達で行ったアンケートの結果からも、株取引について大まかなことはわかるが、実際の進め方や細かい概要についてはよくわかっていない人が大半だった。しかし、近年株取引に対する世間の注目度は増している。そこで私達は中高生をターゲットにし、株取引に対する関心を高める提案をしようと考えた。また、最近の中高生はスマホをよく使うことから、株取引体験をゲームとして行えるアプリを作るという考えに至った。アプリ名は「みんなで株取引シュミレーション」である。このアプリでは架空のお金を用いて株取引を行い、ランキング形式で競う。みずほ様からこのアプリをリリースすることで、中高生に対してみずほフィナンシャルグループ様の知名度をあげることができ、最終的にはみずほ様の利益増加に繋がると考える。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

この提案が実現した時に貢献出来ると考えられる SDGs のゴールは「8. 働きがいも経済成長も」である。このアプリを使うことに多くの人が株取引をより身近なものと考えられるようになる。その結果今よりも多くの人が株取引をはじめ、それによって会社側はより多くの資金を手にすることが出来る。そして会社側はその資金を使って今までよりもさらに各々の技術の研究、開発などに尽力することが期待でき、その結果経済成長に貢献できるのではないかと考えた。また、現状、株取引が難しいものだという先入観から、株取引を始めるのを躊躇し、困っている人たちへもこのアプリは良い道になるのではないかと私たちは考えた。そして、アンケートをとった結果から私たちは株取引をしたことがある人が少ないにもかかわらず、将来株取引をしたいという人が多いということが分かった。そういう考えを持つ人たちが株取引に手を出す取っ掛りにこのアプリはなるのではないかと考える。

5 企業への提案を終えて

○企業からいただいた指摘や意見

○良かった点

- ・ターゲットを若者に絞ったこと。
- ・アプリに使用者を引き込むため様々な工夫が施されていたこと。


○悪かった点

- ・このアプリ自体をどう若者に知ってもらうのか。

○発表を終えて考えたこと

- ・企業の方から指摘された通り、アプリをよくしようとばかり考えてしまっていたせいで、具体的にどんな形で使用者に使ってもらうのかという所まで頭が回らなかった。実用化に向けての第一歩として、細部までしっかり考える必要があると感じた。

6 資料抜粋

<p>私たちが考えるアプリは…</p> <p>みんなで株取引 シュミレーション!!</p> <p>略して「みんカブ！」</p>	<p>アプリの概要</p> <ul style="list-style-type: none">・現実世界の株取引情報をアプリに反映して実際の株取引と同じようにアプリ内のポイントで体験できる。 <p>→誰でも手軽に株取引経験が積める →実際の株取引と同じ体験ができる</p>
<p>アプリの内容～機能～</p> <ul style="list-style-type: none">・ネットを通じて地域の人や友達とランキングを競い合う。 →このアプリで得た利益の大きさをランキング化 →ランキング上位者には景品	<p>企業のメリット</p> <ul style="list-style-type: none">・アプリを通して御社を通じた株取引をする人が増える。・アプリを通じて広告効果が期待できる。
<p>SDGSとの関わり この提案で解決されると考えられる課題…</p> <p>多くの人が株取引をする。</p> <p>↓</p> <p>企業はより多くの資金を得られる</p> <p>↓</p> <p>経済成長に貢献することが予想される。</p> 	<p>まとめ・感想</p> <ul style="list-style-type: none">・みずほフィナンシャルグループ様はものを作っている会社では無いため、提案内容を考えるのが非常に難しかった。・リサーチ不足が原因で何度も壁にぶつかったため、事前準備がとても大事だと感じた。

7 感想・後輩への一言

○学んだこと

私たちがこの活動を通して学んだことは、自分達が伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることの難しさ、そしてチームで協力し合うことの大切さである。どれだけ魅力的な発想を考えても、その魅力を相手に伝える工夫がなければ意味がなく、発表の際の喋る早さや抑揚の付け方、パワーポイントの見せ方などを何度も考えた。また、アイデアが中々出せず行き詰まったとき、チームで考えることで新たなアイデアを生み出すことができた。この活動を通して得た学びをこれからに活かしたいと思う。

○感想

私たちはみずほフィナンシャルグループ様に提案するにあたり、たくさんの課題に直面した。考え始めて直後には、自分たちのリサーチ不足でみずほ様が具体的にどのようなことをしているのか分からないということがあった。みずほ様が普段行っている業務内容は私たち高校生が関わる機会がほとんどないものばかり。班のメンバーでインターネットを使い、時間をかけて調べたのをよく覚えている。班員で何度も意見を出し合い、そして無駄なものを削ぎ落とし、最終的にたどり着いたのが今回の提案だ。途中みずほ様に一次提案として渡した時にも、提案の一部が拒否され、途中悩んだことも沢山あったが、班員全員で課題解決に向けて全力で取り組むことが出来た。今回の学習では課題解決に向けてのプロセスを繰り返すを行い、その力を学習以前より高めることが出来た。また、このような機会をくださったみずほフィナンシャルグループの皆様に感謝したい。ありがとうございました。

○後輩へ

まずは提案をする相手の企業について良く調べることが大事だと思う。そうすることで提案の糸口を見つけることができる。そして、出されたアイデアの論理的根拠と内容の具体性をしっかりとすることが成功へ繋がると思う。後輩の皆さんは先輩達のアドバイスも参考にしながらこれから頑張ってもらいたい。

投資による世界貢献

【野村ホールディングス株式会社 A班】

～Business for the future～

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

1925年に設立された大手金融会社で、国内外に多数の支社がありグループ全体での従業員数は約26,000人を数える。主な事業には金融・証券サービスや投資の斡旋などがあり、世界経済・金融指標の86%をカバーする一方、グループ会社には野村証券、野村不動産などがあり事業は非常に多角的となっている。

3 提案の概要

私たちの班は、野村ホールディングス株式会社の強みを生かし、企業価値を高め、企業の課題である「野村ホールディングスの認知度」、「投資に対する負のイメージ」、社会の課題である「経済格差による発展度合いの差」を解決するために、「New Fund For SDGs」というものを提案する。この提案は、野村ホールディングスが持つ AI 技術や投資事業を組み合わせ、SDGsに取り組む企業を支援するファンドを立ち上げ、投資を通じて SDGsに貢献していこうというものとなっている。

ファンドの内容としては「ESG 投資への支援」、「AI 技術による景況の可視化」、「投資の際の初期費用低減によるリスクの軽減」を主な柱とし、企業が発展途上の国・地域へ投資をしやすくなるような形にすることで、投資を行う企業、投資先や社会、野村ホールディングス様の3者にメリットがあり、投資によって SDGsに貢献でき、社会の経済格差の問題を改善できると考えた。また、景況の可視化では SNS の投稿から得たデータを可視化する際に、投資だけではなく学校での授業等でも使用してもらうことで、景況や投資について若者世代にアピールすることができ、野村ホールディングス様の認知度向上にもつながると考える。

また、発展途上の国・地域へ投資するリスクに関しても、野村ホールディングス様が初期投資額の一部を負担することで企業はこのようなリスクのある投資を行いやすくなり、また投資によって利益が出た場合、負担した分の額を返却してもらうことで損失を無くすことができ、仮に想定以上の利益が出た際には仲介料を頂くことで野村ホールディングスにも利益が生まれるため、初期投資額の一部を負担するというデメリットよりも仲介料や投資による認知度向上などによる様々な利益が生まれるというメリットの方が大きいと考える。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献


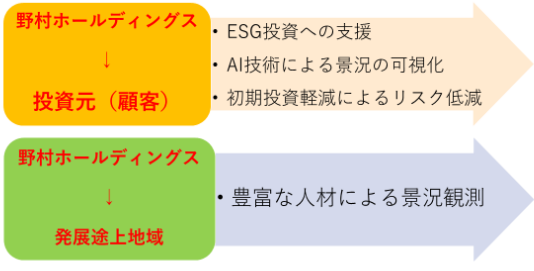
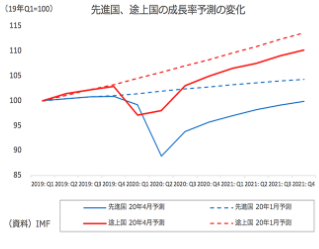
実現されたときに社会に与える影響としては、「途上国への発展に貢献できる」ということが挙げられる。現代の社会においても、先進国と発展途上国との経済格差は激しく、途上国では貧困で満足な生活を送ることのできない人々が多く存在している。この提案によって発展途上国への投資が促進され経済が活発になれば、現地で新たな雇用を創出することができるため、貧困に苦しむ人は少なくなると考えられる。

また、この提案では投資を行う企業に対しての評価なども行うため、企業の社内環境など従業員の権利などといった面でも社会へ貢献できると考える。このことから、持続可能な開発目標 (SDGs) の1番〔貧困をなくそう〕、9番〔産業と技術革新の基礎を作ろう〕、10番〔人や国の不平等をなくそう〕の達成が見込まれると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ 会社主体よりも高校生などの「若い力」が活躍できる内容だとさらに良い。
 - ・ 会社に直接投資するとSDGs以外の事業にも資金が回ってしまうのではないかと。
- SDGsへの取り組みに直接投資する「インパクト投資」を活用してはどうか。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 企業と中高生などとの意見交流の場を設ける。
 - ・ 「インパクト投資」を活用した仕組みを取り入れる。

6 資料抜粋

<p>企業について</p> <p>野村ホールディングス(株)</p>  <p>国内外に支社を持つ大手金融会社</p> <p><u>国内外に約25,000人以上の豊富な人材を保有している。</u> <u>グループ会社には野村証券、野村不動産などがある。</u></p> <p>コーポレート・スローガン「目指すのは、“今”以上の“未来”」</p>	<p>提案内容</p> <p>New Fund For SDGs</p> <p>ターゲット…投資家の方々や大企業</p> <p>概要…野村の既存の技術を利用してSDGsに取り組む企業を支援するファンドを立ち上げる</p> <p>目的…①景気を可視化して、投資の参考としてもらう ②投資を通して、SDGsに取り組む</p>
<p>提案の詳細</p>  <p>野村ホールディングス ↓ 投資元（顧客） ↓ 野村ホールディングス ↓ 発展途上地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ESG投資への支援 AI技術による景況の可視化 初期投資軽減によるリスク低減 豊富な人材による景況観測 	<p>リスクを下げる方策</p> <p>問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 発展途上地域 = <u>経済が不安定な場所に投資するリスク</u> <p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期投資額を減らし、<u>損失が生まれる可能性を減らす</u> <p>具体案</p> <ul style="list-style-type: none"> 野村ホールディングスが<u>初期投資の一部を負担し</u>、投資者に利益が出た場合、費用を返却してもらう。
<p>期待される利益・効果</p> <p>投資者の利益</p> <ul style="list-style-type: none"> 途上国は先進国に比べて成長率が大きくなると予想されているので<u>大きな利益を期待できる。</u> <p>社会への効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 途上国の発展に貢献できる。  <p>(資料) IMF</p>	<p>まとめ・感想</p> <p><まとめ></p> <p>課題…<u>経済格差による地域の発展度の違い</u></p> <p>↓</p> <p>解決策…<u>SDGsの取り組みを支援するファンド</u>を設立 →企業や投資家が発展途上の地域へ投資しやすくする</p> <p>↓</p> <p>未来の姿…①世界全体の発展による<u>経済格差の縮小</u> ②SDGsや野村ホールディングスがより身近に!</p> <p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> 経済や景気に対する知識をこの探求活動を通して身に付けることができた。 自分達で課題を考え、解決策を考える論理的な力を今回のゼミ活動を通して向上させることができた。 野村ホールディングスの皆さんが、私たちの質問に対してとても丁寧に回答してくださったので、とてもありがたかったです!

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、新しく何かを考えることの難しさを学んだ。特に企業の強みをどう活かして問題を解決するか考えることが難しかった。新しい事業を始める、新しい商品を開発するなどするときにも様々な事への影響や利益を考える必要があること学んだ。このことで新しい視点で問題について考えることができるようになった。また、問題解決のためのリサーチをする中で投資の仕組みや投資に関する用語、考え方を学んだ。

これらのことをこれからの生活に活かしていきたい。

○ 感想

ゼミ活動の当初は投資やSDGsへの理解が少なくテーマや解決策を考えることが大変で何回も構想を練り直したが、グループ活動の大切さやビジネスの大変さを実感することができ、自分たちにとって良い経験になった。忙しい中私たちの質問に丁寧にお答えして下さり、プレゼンの為に協力して下さった野村ホールディングスの皆さんに感謝します。ありがとうございました。

○ 後輩へ

課題を設定したら、まず自分たちの解決策の方向性を決めましょう。具体案だけ出しても、方向性が定まっていなくて一貫性の無いものになり、後でプレゼンを作っていく際に論点が分かりづらくなります。また、自分たちでの情報リサーチに行き詰った際は、企業の方に質問してみるのもよいと思います。プレゼンの際は、スライドにアニメーションなどを入れ、構成を分かりやすいものにするとうまく理解しやすくなると思います。

Free Stock Game

～無料で株体験 アイテムゲット～

【野村ホールディングス株式会社 B班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

大正15年設立の伝統ある大手証券会社。「目指すのは“今”以上の“未来”」というスローガンを掲げ、あらゆる企業活動を行なっている。顧客資産残高は国内最大の127兆円、全国証券会社お預かり口座数は野村ホールディングスが全体の20%を占め、また国外に30カ国以上の拠点を持っている国内最大の証券会社であり、その圧倒的な資金力が強みとなっている。

3 提案の概要

私たちはこの圧倒的な顧客数が強みと感じた一方、その顧客の大半が高齢者だということだと考え中高生などの若者からの認知度が低いことが問題だと考えた。そこで私たちは若者への認知度を高め、若者の顧客数を増やし会社の持続的な成長ができるような提案をしようと考えた。私たちは若者の好きなものの中から“ゲーム”に焦点を当て、無料で株体験ができるアプリを製作しようと考えた。

詳細を説明すると、ゲームの好きな若者を対象とし、あらゆるゲーム会社の中から1社を選択し株を買う体験をしてもらう。その会社の利益に応じてゲーム内でアイテムをゲットできる仕組みとなっている。将来的にはゲームにあまり興味のない女性や大人を対象とした会社とも提携し様々な世代が利用可能となるものに進化していこうと考えている。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

この提案が現実となりアプリが普及した時、アプリを利用し株に興味を持った若者たちが野村を通して株を購入することで、今以上にお金回り経済が発展し、また野村の発展も見込める。また若者の株知識を増やすきっかけとなる。このことからSDGsの16番「平和と公平を全ての人に」、9番「産業と技術革新の基盤を作ろう」、4番「質の高い教育をみんなに」、8番「働きがいも経済成長も」が達成される。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ゲームといってもスマホゲーム、テレビゲームなど様々な種類のゲームがあるのでどのようなゲームを対象とするか考えると良い
 - ・全体的にパワーポイントの文字が大きく伝えたい言葉が分かりにくかったので、伝えたい言葉のみを大きくするなどメリハリをつける。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・事前に質問されそうな内容をチームで相談し対策したほうが良かった。
 - ・原稿は丸暗記すると、台詞が飛んだ時に話せなくなってしまうため、パワポの内容から原稿を覚えたほうが良かった。

6 資料抜粋

Free stock game

～無料で株体験・アイテムゲット～

無料×株×ゲームで若者の株使用率をアップする

野村ホールディングスについて

野村ホールディングス



スローガン 目指すのは、“今”以上の“未来”。

主な取り組み 証券事業 株取引の仲介・手助け

強み 圧倒的な顧客数 **535万口座**

受賞実績 環境省ESGファイナンスアワード・ジャパン **2部門で銀賞（環境大臣賞）を受賞**

サステナブル ファイナンス大賞 **2年連続受賞**

提案詳細 Free stock game

～無料で株体験・アイテムゲット～

ターゲット 学生などのゲーム好きな若者

提案内容 スマホアプリ**Free stock game**を提供

アプリ内でアイテムが欲しいゲームの会社の株を選ぶ

本物の株価を利用して無料で株投資体験を行う

株の利益に応じてアイテムゲット




解決する課題 → 若者からの知名度

野村ホールディングスの事業について知っていますか？



知っている	19%
知らない	81%

今後株をやる予定はありますか？

今も行っていないが将来したい	30%
今も行ってない	3%
今も行ってなく将来もする予定はない	67%

中高生の認知率は低い傾向に

利点・効果

<p>若者</p> 	<p>野村様</p> 
<ul style="list-style-type: none"> リスクなしで株体験 無料でアイテムゲット 	<ul style="list-style-type: none"> 株を知ってもらう 将来の顧客に 若者の株利用率がアップ

まとめ・感想

- まとめ
 - 無料で株体験・アイテムゲットで若者たちが多く株を利用し、若者の株の利用率が上がることを確信した。
 - 楽しく株を体験できる素晴らしいアプリである。
- 感想
 - 野村ホールディングスの皆様がとても分かりやすく対応していただき、いい経験をさせていただくことができ、大変感謝している。
 - SDGsについて深く学ぶことができた。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

この活動を通じて私たちは、課題解決には既存のアイデアを融合させることが重要だということを学んだ。私たちは企業への提案概要は決まっていたのですが具体的な内容が決まっておらず、課題をどのように解決すればいいかわからず悩んでいたのだが、そこで既存の使えるようなアイデアを出してそれらを融合することで、作れることを学んだ。

○ 感想

オンライン東京研修を通じて企業の方から、パワーポイントをより伝わりやすくする方法や、ゲームというカテゴリーをさらに絞ってターゲットをより明確にした方が良いなどの私達には気づけなかったアドバイスを頂いて、提案をより良いものにできました。本当にありがとうございました。

校内発表では、企業の方からのアドバイスを生かし納得できるような発表をすることができた。

○ 後輩へ

まずは証券会社について調べる事をお勧めします。証券会社という高校生には馴染みのあまりない会社では、どの点が強みで、解決すべき点なのかが分かりません。なのでまずは1から事業内容や顧客層など証券会社についての知識をつけてから、皆で課題などについて話し合う方法を私たちはお勧めします。難しいものもありますが頑張ってください！

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

創業1907年の住友グループに属する相互会社による生命保険会社。保険料収入・総資産は4位。従業員数は約4万人で、そのうち約9割は女性。そのため、育児優先で働ける職場環境が整っている。代表的な商品として、Vitality や1UP があり、周知度が高い。

3 提案の概要（企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く）

私たちは、住友生命保険相互会社の強みを生かして、人生をよりよく生きるための100年時代の保険を提唱した。貯蓄型のノーリスクな保険になっている。ターゲットを若者にし、難しい保険をわかりやすくして、若者でも理解できるようにすることで、安全にお金を貯めることが出来る。月々の保険料を自由に設定できるため、収入の増減に合わせて変更出来る。貯めた保険料によって専用のポイントが溜まったり、50万円貯まる事にご褒美プレゼントが付与されたり、退職後からの引き出しとなるため、貯金が苦手な人でも続けられる。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、第一に早くから自分の将来について関心をもてることだ。今、世の中にある保険は構造が難しく、また使い道が決まっているのだが、私たちが提案した保険は「誰でも入れる」をモットーとしているため従来の保険よりも簡単なくみに、そして、子供の学費や病気になった時の治療費など自分が必要だと思ったタイミングで下ろせるようにした。その結果、自分の将来を見据えて早い段階からお金を貯められるので、いざ定年となった時でも余裕を持つことができ、定年後も自分の思い描いていたセカンドライフを送ることが出来る。そのようなサイクルを送る人が増え、社会全体にプラスの空気が流れ込むと思われる。

また、自分だけの充実したセカンドライフを想像しながら保険金を積み立てていくことで、働きがいや生きがい生まれ、心の健康にも繋がる。その後の人生においてプラスな気持ちになり、それは自分以外の周りの人にもいい影響をもたらす、肉体的・精神的・社会的に満たされる。このことから、持続可能な開発目標(SDGs)の3番(すべての人に健康と福祉を)の達成が見込まれると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ 提案する保険と競合する商品との差異を明確にする点がとても良かった。
 - ・ 提案する保険の仕組みが簡潔すぎる。それだと「預金」と似たものになってしまう。
 - ・ SDGs の3番以外にもターゲットとした目標はあるのか。
 - ・ 提案する保険としてあげた具体例の数値が単純すぎる。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 「預金」との差異を明確にしなければならない。→特典などを工夫できるのではないかな
 - ・ 具体例の数値を複雑化する方法を考えなければならない。

6 資料抜粋

<h3 style="text-align: center;">100年時代の保険</h3> <ul style="list-style-type: none"> 人生100年といわれる時代の中でいかに充実した人生を過ごすかが重要視され始めている 変化する時代の中で自分なりのライフスタイルを確立することが大切にされ始めている 急速に変化している時代に対応できる多様に機能する保険が必要 将来のお金について心配がある 若者にとって保険は難しいため、関心が少ない 	<h3 style="text-align: center;">住友生命保険相互会社の強み</h3> <ol style="list-style-type: none"> 世間での周知度 顧客基盤がある 商品のバリエーションが豊富 社員の9割が女性 <div style="text-align: center;">  <p>あなたの未来を強くする</p> <p>住友生命</p> </div>										
<h3 style="text-align: center;">100年時代の保険</h3> <table border="1"> <tr><td>ターゲット</td></tr> <tr><td>10代後半～20代（働き始めの若者）</td></tr> <tr><td>保険料</td></tr> <tr><td>月々 5,000円～50,000円+付加保険料 ※年に3回変更可能</td></tr> <tr><td>契約年齢範囲</td></tr> <tr><td>18歳～50歳</td></tr> <tr><td>満期</td></tr> <tr><td>75歳</td></tr> <tr><td>受け取り</td></tr> <tr><td>仕事を退職または定年退職した後であれば、いつでも受け取れる</td></tr> </table>	ターゲット	10代後半～20代（働き始めの若者）	保険料	月々 5,000円～50,000円+付加保険料 ※年に3回変更可能	契約年齢範囲	18歳～50歳	満期	75歳	受け取り	仕事を退職または定年退職した後であれば、いつでも受け取れる	<p>特典</p> <ul style="list-style-type: none"> 独自のポイント →1,000円につき1ポイント貯まると健康増進のためのサービスを受けられる 50万円ごとにご褒美プレゼント（例）旅行券、高級品 <p>『セカンドライフ』を支援してくれる保険があったら、入ってみたいか</p> <div style="text-align: center;">  <p>78人 はい</p> <p>22人 いいえ</p> </div>
ターゲット											
10代後半～20代（働き始めの若者）											
保険料											
月々 5,000円～50,000円+付加保険料 ※年に3回変更可能											
契約年齢範囲											
18歳～50歳											
満期											
75歳											
受け取り											
仕事を退職または定年退職した後であれば、いつでも受け取れる											
<h3 style="text-align: center;">提案実現のメリット</h3> <p>○企業の 保険会社の新しい取り組みであり、時代の変化に対応した商品なので、注目を集めることができ会社の周知度UPにつながる。特に若い世代。</p> <p>○社会的 ニーズに併せて保険料を変更できるので、自分の収入に保険料を併せられる。簡易なシステムなので、保険についてよくわからない若者が保険に触れるきっかけとなる。投資などに比べるとリスクが少なく気軽に始められる。</p> <p>○SDGs 早くから将来について考えることで、目標を持ち充実した人生を想像するので、働きがいや生きがいを感じることができる。そのため、心の健康につながり、自分以外へも良い影響をもたらす。肉体的・精神的・社会的に全てが満たされるため真の健康へとつながる。</p>	<h3 style="text-align: center;">まとめ・感想</h3> <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 低額で簡単に始められるので、若者にもわかりやすい。 セカンドライフへの不安が減る。 特典でさらに健康になる。 <p>○感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 保険のシステムが難しかった。 企画にSDGsを絡めて達成するのは意外と難しかった。 今までにない新たな保険を創れたと思う。 住友生命保険相互会社の皆さんが、Vitalityなどの説明をわかりやすくしていただいたので、ありがたかった。 										

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、このゼミ活動を通じて、仲間と意見を共有することはとても大事なことだと思った。自分の意見だけではなく相手の意見も取り入れることで、自分で考えた時以上に良いアイデアになり、いい方向に持っていくことができた。そしてたくさんの情報を扱ったことで、情報の正しい扱い方や情報の整理の仕方を知ることができた。また発表の際は、身振り手振り相手に伝わりやすいように工夫した。

○ 感想

MC 探求の時間以外にも、グループのみんなでも何回も何回も集まり提案の内容を考えていく中で、次第にグループの仲が深まっていく気がした。本提案に至るまでがとても大変で、中間発表などで頂いた先生方のご意見や、企業の方々からのアドバイスを参考に、なんとか納得のいく提案を作ることができた。私たちのために協力して下さった先生方や、住友生命保険相互会社の方々には大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

早い段階からその企業がどのような事業を進めているのかをたくさん調べておくことをお勧めします。後々提案内容を決めていく際、この企業はもう既にその事業を行っていた！なんてことがないように初めのうちにできる限りたくさん下調べをするべきだと思います。またアドバイスをもらえる機会は少ないのでその少ない機会を大切にしたいと思います。ここで頂いたアドバイスを活用することで、自分たちの提案をもっとより良いものにすることができると思います。

広告から始まるあなたの人生物語

【住友生命保険相互会社 B 班】

～ 保険を体験“人生を変えるシミュレーション”～

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

明治40年に創立した保険企業。保険料収入・総資産において、日本生命保険、第一生命保険、明治安田生命に次ぐ4位である。キャッチコピーの「あなたの未来を強くする」を軸とし、“住友生命「Vitality」”未来を変えていく健康増進型保険や、介護保険、医療保険などの幅広く保険を扱っている。「伝統と革新」の志に基づく商品開発力が強みとなっている。

3 提案の概要

私たちの班は住友生命の商品を若者にアピールしたいと考え、広告配信と『保険を体験！～人生を変えるシミュレーション～』を提案する。

広告については、アンケート結果より若者がよく使用すると考えられる YouTube・Instagram で広告を配信する。同じくアンケート結果よりストーリー性のある広告が最善と考える。ストーリー性のある広告にし、最後まで見てもらうことで住友生命や住友生命の商品に対して興味・関心を持ってもらう。また、ホームページに移動できるようにリンクを貼り、これから説明するシミュレーションシステムとの融合を図ることで、より多くの顧客を獲得できると考える。

シミュレーションについては、保険の基礎知識やしぐみについて楽しみながら学ぶこと、合わせて、住友生命の商品をアピール・おすすめするシステムである。広告とつながるよう、このシミュレーションシステムでは広告で登場した人物を主人公としいくつかのシチュエーションを作り、進めていく。それぞれのシチュエーションで選択肢を作り、利用者本人がそれを選んでいくことで効率的に保険についての知識を学べる。更に、自分に置き換えて考えることもできると考える。また、具体的なデータ・数値を表示することで利用者にインパクトを与える。同時に、シミュレーションで使用したデータに関連する保険の基礎知識やおすすめの住友生命の商品が表示し、そのページに移動できるようにする

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

保険について学ぶ機会がない若者が、保険をよく理解せず、保険に加入しないまま生活し続けると、人生におけるリスクへの備えができなくなる。そうなると、もし何かあったときに、多大な負担がかかり、後悔する。もし、私たちの提案が実現されたら社会への影響として、このような負のサイクルに陥る若者を減らし、手助けをすることができる。また、住友生命が問題点だと考えている、若年層の保険離れに関しても解決できると考える。

また SDGsへの貢献としては、3番〈すべての人に健康と福祉を〉、4番〈質の高い教育をみんなに〉の達成が見込まれると考える。3番については、シミュレーションシステムによって、若い世代を中心に住友生命の商品をおすすめすることで若年層にも健康を提供できると考える。4番については、シミュレーションシステムを通して若いうちから保険について学ぶことができるので若い世代の保険に対する意識が高まると考える。

5 企業への発表を終えて


○ 企業からいただいた指摘や意見

- ・スキップされないために広告の冒頭はどのような場面を配信するのか。
- ・保険について興味や関心のない若者が本当にシミュレーションシステムをやってくれるのか。

○ 発表を終えて考えたこと

- ・広告をスキップされないようにするためには、広告の冒頭で視聴者に不安を与えることができる場面を配信し、視聴者がその後どうなるのか気になるような広告にするのが良いと考える。
- ・現在住友生命が SDGs 達成のために行っているイベントの際、その場でシミュレーションを一斉に行うことでシミュレーションの認知度も上がり、利用者が増えるのではないかと考える。

6 資料抜粋

<h3>広告から始まる あなたの人生物語</h3> <p>①広告の配信 ②『保険を体験！ ～人生を変える シミュレーション～』</p>	<h3>企業について</h3> <ul style="list-style-type: none">▶住友生命保険相互会社▶キャッチコピー 『あなたの未来を強くする』▶保険事業を通じて社会公共の福祉に貢献する▶『Vitality』リスクを「減らす」保険
<h3>①広告の配信</h3> <ul style="list-style-type: none">▶YouTube・Instagramで広告を配信する▶ストーリー性のある広告で興味をひく▶ホームページに移動できるようにリンクを貼る	 <ul style="list-style-type: none">▶目的 ・保険の仕組みや基礎知識を若者に知ってもらう ・住友生命の商品をアピールする▶内容 ・いくつかのシチュエーションを作る ・選択肢をつくり、ゲーム感覚で楽しみながら保険を学べる
<h3>取り組み後の社会の姿 SDGs</h3> <p>▷3 すべての人に健康と福祉を ↳シミュレーションを通して住友生命の商品に関する事業を推進することで、若い人を中心によりたくさんの人に保険と健康を提供できる。</p> <p>▷4 質の高い教育をみんなに ↳シミュレーションを通して保険について学ぶことができ、若者の保険に対する意識が高まる。</p>	<h3>まとめ・感想</h3> <p>○まとめ ・おおまかな基礎知識がないと保険をアピールできないが、私たちの提案するシミュレーションでは、簡単かつ分かりやすく保険を学べるので若者の保険に対する意識が高まると考えられる</p> <p>○感想 ・現在ある広告は繋がりがあってわかりやすくユーモアもあって感動した ・住友生命のSDGsへの取り組みが広範囲にわたっていて驚いた</p>

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通して、私たち自身保険の仕組みについて学べることが出来た。また、それをわかりやすく伝えるために既存する広告からメリット・デメリットを考え、より良くするために自分の意見をしっかりと伝えることが大切であると改めて学んだ。

○ 感想

提案を考えていく中で、仲間と論争になり、ヒートアップすることがあったが、だんだん相手の意見を最後まで聞き、その意見を踏まえて自分の意見を言えるようになった。とても成長できたと思うし、班のみんなが納得する、より良い提案になったと思う。また、役割を分担することで、それぞれが責任を持ってゼミ活動を取り組めたと思う。何度も丁寧に対応していただいた住友生命保険相互会社の方々には、大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

前もって準備することをおすすめします。私たちは先輩からのアドバイスを受け、夏休みや放課後に集まるが多かったのですが、最後は慌ただしくなっていました。話し合いが進むにつれて1つのことを決めるのに時間がかかるようになるので、そういったことも見込めると余裕をもって準備ができると思います。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1931年創業、1947年日本ケミカルコンデンサ株式会社設立。東京都品川区に本社を置き、新潟の聖籠町や、アメリカをはじめとする国外にも工場を構える多国籍企業である。どの電子機器にも使われているコンデンサの生産において多大なる信頼を得ている。

企業理念 『環境と人に優しい技術への貢献』

3 提案の概要（企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く）

私たちの班は日本における問題と、日本ケミコン様の課題を考え、それを両方解決できるような提案をした。近年日本では東日本大震災をはじめとする大きな自然災害が増えておりそれに伴い被害額も増えている。避難所で被災者が不安であることの一環に連絡手段がないというものがあった。日本ケミコン様が抱える課題として、知名度が低いということが主に10代を対象としたアンケートで分かった。日本における課題を解決することができる商品を開発することで、日本ケミコン様の知名度が上がると思った。その商品とは「乾電池式携帯電話」である。その名の通り乾電池で動く携帯電話で、乾電池の電力を効率よく連絡機構に繋ぐために日本ケミコン様の優良なコンデンサを利用したいと考えている。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

乾電池式携帯電話の利点の一つ目は、災害時に、家族の安否を素早く確認することができることである。事実、東日本大震災の時に連絡手段として供給されたのは固定電話であり、たくさんの被災者が家族や友人との連絡を求めて列を作った。現在の日本で災害が起こることを考えるとこのような状況は密となり、集団感染の元になってしまう。二つ目は、コンセントを必要としない点である。災害時には停電が発生したり、避難所の使えるコンセントが限られていたりなど何かと不便である。乾電池式携帯電話は乾電池で働くのでこのような状況においても対応することができる。

SDGsへの貢献として、11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策をがあげられる。気候に関する災害や自然災害が起きた時に対応したり立ち直ったりできるような力を日本に持たせることができる。

5 企業への発表を終えて

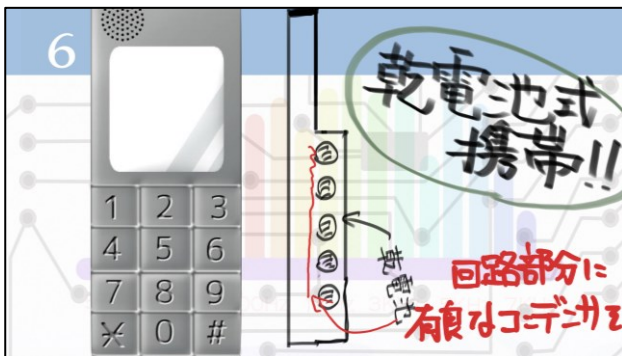
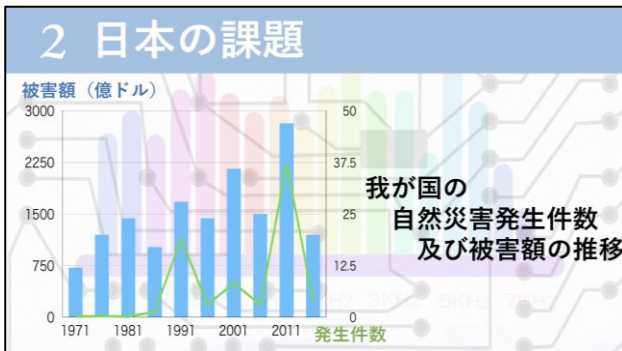
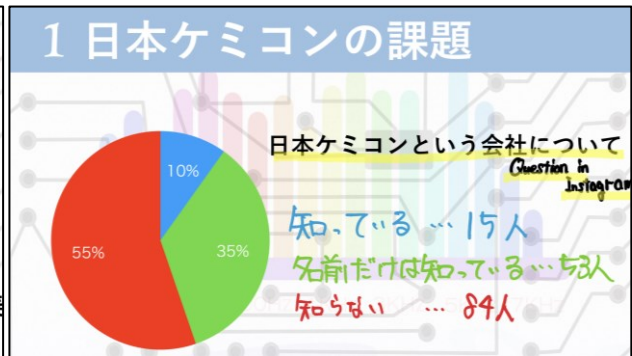
○ 企業からいただいた指摘や意見

- ・ 高校生らしいアイデアで二つの視点をうまく繋げていた
- ・ デメリットについても考察した方が良い
- ・ 被災者に使用方法をどのように伝えるか考えておくべき

○ 発表を終えて考えたこと

元々、災害時に配布という形でこの乾電池式携帯を提供するつもりであったため、会社側の利益としては十分で無いと考えた。しかし、SDGsの観点から長い期間で考えれば最終的に日本ケミコンさんの利益になるような案だと思う

6 資料抜粋



7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通して、今日本が抱える課題、世界が抱える課題の重大さをことあるごとに感じた。そしてプレゼンを作り原稿を考える中で人に物を提案する難しさ、人を納得させる難しさを知った。自分達が社会人になった時に、その困難を少しでも気楽に解決できるような力はついたと思う。

○ 感想

予想していたよりも時間がなく、厳しい状況の中で、班のメンバーと協力して一つのものを作り上げることができ、また、忙しいながらも楽しみながら情報を集めたり、プレゼンを作ったり、原稿を考えたりすることができ、とても良い経験だった。

丁寧に対応していただいた日本ケミコン株式会社の方々に大変感謝しています。

○ 後輩へ

活動では、自分の関心があるものないものいろいろなものを調べて整理しなければなりません。班のメンバーで適切な役割分担をして、楽しみながらこの活動を続けていってください。

カメラ×AI

【日本電気株式会社 A 班】

～カメラで守るペットの安心～

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

創立 1899(明治 32 年)創立。事業はハードウェアの製造だけでなく、様々な分野で展開を広げており、5 つの事業をおこなっている。世界の人々が相互に理解を深め、人間性を十分に発揮する豊かな社会の実現に貢献することを企業理念としている。

3 提案の概要 (企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く)

私たちの班は、日本電気株式会社の AI 技術の高さを生かし、AI を搭載したペット用監視カメラを提案する。また、カメラの映像をスマートフォンと連携したアプリを使用することで、ペットの様子を見ることが出来る。AI には、ペットの普段の行動などを学習させる。そこで、異変を読み取ると飼い主に知らせるというシステムとなっている。カメラには AI によるペットの行動記録の機能や飼い主へのしつつけのアドバイス機能がついている。そして、期待される利点としては、このカメラが多くの人に使用されることで、各媒体からの情報を集めて、より正確なアドバイスができるということが挙げられる。今後の展開としてはペットの見守り用のサービスだけではなく、一人暮らしの方の防犯用や、高齢の両親の見守り用など暮らしに合わせたそれぞれのプランを提供できるようにする予定である。このようにすることで、ターゲットを絞らず、多くの人に使用してもらえようと考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

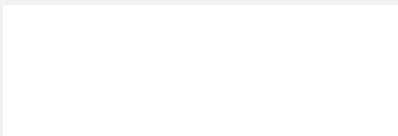

実現されたときに社会に与える影響として、第一には私たちの提案のゴールである、愛するいのちを守れることである。いつでもどこでもペットの安全を確認することが出来、さらに人工知能の学習機能によって、飼い主への躰のアドバイスができるようになれば、安全を守りながら、負担も軽減されるという一度に 2 つの利点が生まれると思われる。犬やこの提案で猫などのペットたちも住み続けられるような暮らしをつくるきっかけとなれたら、持続可能な開発目標の目標 11、「住み続けられるまちづくり」にも繋がられる。今後の展開の例として一人暮らし向けプランを挙げているが(パワーポイント参照)、これにより一人ひとりの防犯対策の質が上がり、犯罪を減らせたり、家族の形態に合わせたプランを作り出していくことで、よりSDGs へ貢献できる。

また、日本のさらなる技術の発展させることが出来る。現在、世界では人工知能(AI)への関心が高まっている。今回の提案からの人工知能の情報が日本の人工知能の技術向上に発展されれば、それに対抗して各国も人工知能の開発が進み、日本から持続可能な開発目標の目標 9、「産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成に貢献できると考えられる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見(※箇条書きでも文章でも構わない)
 - ・モノのサブスクリプションは難しく、利益が出にくいいため企業側のメリットが少ない。
 - ・ペットユーザーにとって、ペット用監視カメラは必要だと思ってもらえるのか。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ペットユーザーに対して必要と思ってもらえることは出来るのかという質問を頂いた。このことに対しては、ペットの姿を確認できる事で飼い主は精神的負担の軽減が見込まれ、ペットは異変を飼い主へすぐに伝えられるなどのメリットがあるため、必要だと思ってもらえると考えた。
 - ・モノのサブスクリプションでは企業側の負担が多く、メリットが少ないことが分かったので、本体は一括にし、サービスだけを月額制に変更した方が良いと考えた。

6 資料抜粋

<p>Camera×AI ～カメラで守るペットの安心～</p>  <p>NECA班</p>	<p>企業の強み</p> <ul style="list-style-type: none">• 日本を代表する電機メーカー• SI(システムインテグレーション)などICT整備が強み• 5Gを始めとしたネットワーク技術や、世界トップクラスの生体認証、AI、IoTといった先端技術を開発している。
<p>提案概要</p> <ul style="list-style-type: none">• AIを搭載したペット用監視カメラ• 連携したスマートフォンのアプリで、ペットの様子を見ることができる。• AIに普段の行動などを学習させ、異変を読み取ると知らせるシステム	<p>想定する使用例</p> 
<p>今後の展開</p> <p>○暮らしに合わせたそれぞれのプラン →ペットの見守り以外のサービス</p> <p>〈例〉 <u>一人暮らしプラン</u></p> <ul style="list-style-type: none">• アプリから、鍵の閉め忘れなどを通知• AIの表情認識機能による使用者への体調や過ごし方に対する提案	<p>企業プレゼンを受けて</p> <ul style="list-style-type: none">• ペットユーザーに対して必要と思ってもらうことは出来るのか →ペットの姿を確認できる事で ペット…異変を飼い主へすぐに伝えられる 飼い主…精神的負荷の軽減• モノのサブスクは利益が出にくいけどどうやって生み出すのか →本体は一括、サービスは月額制に変更

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、インターネットで資料を調べていくと、私たちが普段使わないような用語出て来るので意味を調べる時にも時間を取られた。NECはIT系の会社であるので、特に難しい用語がよく出てきたため、用語を調べるのも大変だった。リモートでの東京研修であり、細かい文字では見えないので、なるべく大きな文字でスライドを作ったところは良かった。文字を大きく、文を短くすることで見やすく、わかりやすいスライドになったと思う。プレゼンでは、私たちの班は企業からの質問は無かったが、もっと考えなければならない点(特に利益の面)へのアドバイスを頂き、それらは校内発表で生かす大事な材料となった。

○ 感想

時間がなく、放課後の活動はほぼやっていなかった。その代わりに、LINEでグループを作り、連絡や情報共有を常にしていた。部活で忙しいメンバーのために夜に発表の合わせをLINE通話で行い、発表の時はしっかり集まっていたメンバーはよく出来ていた。初めは、本当にアイデアが浮かばず、とりあえず仮の提案書を作成したという感じでしたが、NEC様の回答とアドバイスのおかげで今回の提案を考えることが出来た。

○ 後輩へ

常に連絡を取り合う事が大事です。きっと部活などで放課後や土日も空いていないメンバーもいると思います。そんな時は、LINEを活用してください。LINEに話し合ったことのメモを貼り付けておくだけでも、話し合いに参加出来なかった人にも伝わりますし、自分でも思い出すためにつかえます。発表原稿は完璧に覚えてください。スラスラ発表した方が印象が良いです。スライドの動かし方はメンバー全員ができるようにしておいた方が良いです。

1 メンバー

--	--	--

2 会社概要

明治 32 年創業の大手電気メーカー。システムプラットフォーム事業、ネットワークサービス事業、パブリック事業、エンタープライズ事業をグループ主要事業とし、50 ヶ国以上の国、世界の 301 拠点で事業を展開している。また、5G をはじめとするネットワーク技術があり、その中でも AI、IoT、生体認証などは世界トップクラスの技術力を誇る。その技術力により、「世界で最も革新的な事業」が選ばれる『Top 100 Global Innovators3』に 8 年連続で認められている。

3 提案の概要（企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く）

私たちの班は、日本電気株式会社の強みを生かし、NEC がパソコンだけでなく AI でも優れていることを多くの人に知ってもらい、現在、深刻な問題である食品ロスに働きかけるために提案をした。AI を使った食品ロスに働きかける Npay というアプリを提案した。商品を購入する際にこのアプリを使ってスマホ決済することでアプリに買った商品名の情報が入力され、商品名の情報から賞味期限を予測して、賞味期限が近づくとアプリに通知が来る。消費者は食品を無駄にしたり、買い過ぎを防げる。このアプリが広まることで日本での食品ロスを減らすことができると考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、食品ロスが減るといことがあげられる。食品ロスは世界的に深刻な社会問題であり、日本は其中でも個人から出る食品ロスが多く、食品ロス全体の約半分は個人から出ているものである。データとしては個人から出る食品ロスの量は年間133キログラムであり、これはアジアでワースト1位なのである。もちろん食品ロス対策はすでに実施されているが家庭向けのものは少ないように感じた。私たちはそこに注目してこのアプリを考案した。具体的には、企業側のメリットとして NEC の AI 技術をより身近に感じてもらうことで NEC のほかのサービスの利用者が増えるのではないかと考えている。利用者側からは買ったものを忘れてしまい腐らせてしまう『もったいない』が削減できる、というメリットがあげられる。このことから SDGsの目標、12番のつくる責任、つかう責任を達成することができる。

また、買い過ぎを防ぐことにより日本の多すぎる輸入が減少し、食料が十分に行き届いていない国などにも食料が回りやすくなることで SDGsの2番の『飢餓をゼロに』にも貢献できると予測している。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見（※箇条書きでも文章でも構わない）
 - ・ どうやって利用者に食品ロスへの関心を持ってもらうのか
 - ・ 既にあるスマホ決済アプリと連携すれば NEC 側の手間が減るのではないのか
 - ・ スーパー、コンビニと連携すればより効果的なのではないか
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 食品ロスへの関心を持ってもらう方法を考えなければならない。
 - ・ 収益をどうやって得るのか考えなければならない。
 - ・ 既にあるスマホ決済アプリやスーパー、コンビニとコラボすればより効果的に宣伝できるのではないのか。

6 資料抜粋

Npayの機能について

基本的な機能は、一般的な決済アプリと変わらず、専用アプリを用いて支払いを行うスマホ決済です。ただし、他のスマホ決済とは違う大きな特徴があります。それは、

- 買った食品が賞味期限近くになると知らせてくれる
- 自動で家計簿を作成する
- 賞味期限が切れそうな食品を使った料理のレシピをAIが検索してしらせてくれる

世界ランキング

各地域と日本における一人あたりの食品ロス

アジアでワースト1位

他の国と比べて消費者から出る食品ロスが圧倒的に多い!!

NEC側のメリット

- 食品ロスにアプローチしていることをより宣伝できる!
- NECのAI技術を宣伝できる!
- NECをより身近に感じられる!

NECがパソコンだけでなく、AI技術でも優れていることをたくさんの人に知ってもらえます

NECって聞いたことあるけど意外と身近なんだ!

NECってAIもすごいんだ!

消費者側のメリット

家計簿を自動で作ってくれる
無駄に買ってしまうことを防ぐ
食品を腐らせる「もったいない」を防ぐ

↓

食費が浮く
冷蔵庫の中身がわかりやすくなる!!

食品ロスに関するSDGsは…

食品ロスを減らして世界中に食品を行き渡らせる! 飢餓をゼロに
食品を買うことの責任を自覚する! つくる責任 つかう責任

2 飢餓をゼロに

12 つくる責任 つかう責任

例えば…

Npayをインストール

商品詳細

スマホ決済!!

購入!

キュウリの... 3日~7日 賞味期限

3日後

より簡単に、より確実に賞味期限の情報がわかる!

そろそろキュウリの賞味期限です! おすすめのレシピ

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて学んだことは、コミュニケーションの大切さだ。たくさん話せば距離が縮まるのでプレゼン準備の時も批判を気にせずアイデアを出すことができ逆によくないと思ったことをズバズバ言えるようになることでよりよい案にでき、お互いの考えていることを共有できたのでよかった。また私たちの班は人数がとでも少なく一人あたりの仕事量が多かったが分担をうまくやるなどして行えた。

○ 感想

発表ギリギリで案が変わるのは予想外な出来事だった。そのため毎日放課後まで残り、案の練り直しをするのが大変だった。しかしそこで妥協せず家族からも意見を取り入れてまだ改善点はあるものそこはプレゼンの発表の仕方を工夫して寸劇を取り入れたりするなどしてカバーができたと思う。私たちの案にアドバイスを下さったり、相談に乗ってくれた先生方や、率直な意見をくれた家族には感謝しかない。ありがとうございました。

○ 後輩へ

提案が思いついても、いい意味で疑う心を持つということと他人からの意見をよく聞くということです。私たちは半年間考えてきた案が本番約2週間前になってよく調べてみると難点がたくさん出てきて、ギリギリになって案を変えました。そのようなことになると案も練り直すことになるので大変でした。よって後輩の方々には案を考えたらずまずその案が本当に可能なのか疑うことをおすすめします。また私たちの案は主婦向けに作ったので自分たちの家族とも相談して作るとニーズに沿った案を作ることができたことから、身近な人を巻き込むとリアルな声を聞くことができ面白いです。

Consolve でお悩み解決！

～誰もが過ごしやすい社会にするために～

【シティユーワ法律事務所 A 班】

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

シティユーワ法律事務所は、在籍弁護士169名（内外国弁護士4名）、在籍司法書士4名、及びその他スタッフで構成されている国内の法律事務所である。また、この弁護士数は国内第 7 位であることもあり、多様な専門性とチームワークを有している。主な事業内容は企業法務、金融、証券など、10種類以上の分野での事業展開が行われている。そして、World Law Group という、世界各国の一流の法律事務所のみから構成されたネットワークの、日本で唯一のメンバーファームでもある。

3 提案の概要

私たちの班は、シティユーワ法律事務所の多様な専門知識と弁護士数、そして、チームワークに注目し、女性、社会人に向けた相談アプリを提案する。現代の日本では、女性の妊娠、出産によって職場でのマタニティハラスメントが起き、それによる働きづらさ、ストレスなどが原因で職を失う、ということがあり、実際に、雇用や働き方に不満を持つ女性が大勢おり、新聞に取り上げられるなどして社会全体の問題にもなっている。また、再就職した後も、賃金に差が出るなど、男女での職場環境に違いが生じることも多々ある。また、超少子高齢化社会となったため、介護難民問題などにより、親族の介護をせざるを得ない状況になってしまったひとは、男女問わず雇用において不利な立場になってしまう。そんな肩身の狭くなった人たちに気軽に、手軽に弁護士に相談できる環境をつくるために、シティユーワ法律事務所の強みを活かした相談アプリを製作することを提案する。私たちが提案するアプリの特徴として、パワーポイント資料にあるものの他に、アプリ内で相談、返答を終えたものから、相談者側の同意によって、掲示板方式でアプリ内に掲載することができる機能、基本無料相談であるが、有料サービスを利用することで決められた時間内に返答が来るようになったり、弁護士をある程度選ぶことができるようになる(女性の弁護士にして欲しいなど)機能があり、企業側にも利用者側にもメリットが生じる形になっている。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときにしゃかいに与える影響として、まず、多くの人が弁護士や法律事務所に対してプラスの印象、頼りになるという印象を持つようになり、アプリだけでなく、直接弁護士や法律事務所を積極的に利用するようになり、解決策の早期発見、迅速なトラブル防止に繋がることで、公平な社会の実現、ジェンダー平等の形成に大きく貢献できると考える。実際に 2011 年にインターネット上で行われたアンケートでは、弁護士に相談したいと思った人のうち、実際に相談する人は少ないことから、弁護士や法律事務所をもっと身近に感じてもらう必要があると考える(パワーポイント資料参照)。以上のことから、持続可能な開発目標(SDGs)の5番[ジェンダー平等を実現しよう]、10番[人や国の不平等をなくそう]、16番[平和と公平をすべての人に]の達成が見込められると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・アプリの細かいところまで説明してもらってよかったです。
 - ・アプリにするというアイデアが、とても新鮮でした。
 - ・最近の若い方はツイッターのプロモーションでアプリをダウンロードしたいと思うのですか。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・若い人だけでなく、社会人全体に響くような相談アプリに合ったより良い宣伝方法を考えてみたい。
 - ・広告や有料サービスによる細かい利益の見積もりとアプリ製作にかかる費用をしっかりと調べ、より実現可能な形にできるようにするにはどうすればいいかを考える必要があったなと思った。

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

2003年2月に設立した日本最大級の法律事務所。所属弁護士の多様な専門性と経験をもとに企業活動に求められるほぼすべての分野にわたる法務活動を提供している。また、日本で唯一 World Law Group に加盟し、世界中の法律事務所と提携することで、依頼者のニーズに応える盤石の態勢をとっている。

3 提案の概要

私たちの班は、シティーユーワ法律事務所の強みを生かし、企業価値を高めるものとして高校生や中学生を対象としたオンラインセミナーを提案する。現代の日本において、女性弁護士が少ないということや学生の法律や政治に対する関心が低いという問題がある。学生に関心を持っていただき、女性法曹人口の増加を図るためにも、弁護士からの講義やオンライン裁判を中心としたオンラインセミナーを提案する。

講義では、弁護士の仕事内容についてなどをお伝えし、オンライン裁判で実際に簡易的な裁判を体験することで、より身近に法律や弁護士について考えていただけると考える。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献


実現されたときに社会に与える影響として、1つ目として女性の法曹人口が増えることだ。セミナーを通じて女性の方々に女性が法曹になるメリットや法律の魅力を伝えることで女性の法曹人口増加につながると考えられる。また、高校生や中学生を中心としたセミナーやオンライン裁判を行うことでこれからの職業選択の1つとして考える方が増え、早い段階で法曹になることを視野に入れることでそれがより実現しやすくなり、法曹人口の増加に、つながると考えられる。

そして、高校生や中学生を対象としたセミナーやオンライン裁判を行うことで、持続可能な開発目標(SDGs)4番(質の高い教育をみんなに)と、女性の法曹人口増加を促すことから5番(ジェンダー問題を解決しよう)の達成が見込めると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見(※箇条書きでも文章でも構わない)
 - ・ ターゲットを中・高校生に絞るという発想は高校生ならではの提案で良いと思う。
 - ・ 女性の放送人口を増やそうとする取り組みは、日本弁護士連合会でも行われている。
 - ・ 女性が産休や育休から仕事復帰するのが難しいという点において、弁護士は資格を持っているため、他の職業よりも再び仕事に就きやすいと思うが、それについてどう考えるか。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 若い世代の人が普段法律に関わる機会が少ないため、もっと身近に感じられる工夫が必要である。
 - ・ これからオンラインでの裁判がスタンダードになっていくと考えられており、模擬オンライン裁判を体験することで実際の裁判のイメージができるようになるかもしれない。

6 資料抜粋

<h1>シティユーワ法律事務所</h1> <h2>法曹×教育</h2>	<h3>企業の強み</h3> <ul style="list-style-type: none">①<u>専門性</u> 様々な資格・バックグラウンドを持つ弁護士が在籍②<u>広範な取扱分野</u> 不動産や労働法、国際取引など多くの分野の法業務を網羅③<u>組織力</u><ul style="list-style-type: none">・在籍弁護士数が全国7位・国内事務所と渉外事務所(国際案件を扱う)が融合④<u>World Law Group</u> 世界85カ国、58の法律事務所と連携
<h3>提案内容—オンラインセミナー</h3>  <ul style="list-style-type: none">・名前：法律家になLAW!・セミナー内容<ul style="list-style-type: none">①講義…職業・企業説明、法学部の学生の話②交流会…参加者同士で話し合う(後のオンライン裁判のため)③オンライン裁判…10人で1グループになり1人の弁護士が進行・評価 ターゲットによって扱う内容を変える④個別相談…希望者のみ 企業や企業について質問に答える	<h3>企画のメリット</h3> <h4>社会</h4> <ul style="list-style-type: none">①<u>他国に比べて少ない日本の法曹人口の増加</u> 弁護士の増加によってより手厚い弁護が受けられる②<u>女性が弁護士を志すきっかけになる</u> 弁護士として働く女性のアドバイスや体験談を提供 →弁護士としての働き方を知ってもらい不安を軽減 <h4>企業側</h4> <ul style="list-style-type: none">①<u>シティユーワ法律事務所の評価や知名度の向上</u>②<u>将来の人材確保につながる</u>
<h3>解決がもたらす社会貢献</h3> <ul style="list-style-type: none">①<u>日本全体としての未来の法曹人口が増える</u> セミナーを通して中学生、高校生に早い段階から職業の選択肢の一つとして弁護士を考えてもらえる②<u>女性の法曹人口が増加する</u> 女性ならではの視点から考えられる女性弁護士の増加により弁護士選択の幅が広がる	<h3>感想・まとめ</h3> <ul style="list-style-type: none">○まとめ<ul style="list-style-type: none">・オンラインセミナーを通して、弁護士人口特に女性弁護士の増加を図ることができた・質の高い教育の提供と、ジェンダー問題解決への取り組み○感想<ul style="list-style-type: none">・弁護士という職について、知る機会があまりなかったのでも良い経験になった・SDGsの取り組みの重要性と難しさを感じた・役割を分担して効率よく発表準備を進めることができたので、協力することの大切さを再確認した・シティユーワ法律事務所様からいただいたご意見や良かった点を今後の活動につなげていきたい <p style="text-align: center;">ありがとうございました</p>

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、課題を話し合い、改善策を出すことによって自分が詳しく知らなかった分野についても深く考える良い機会になった。また現在社会にはたくさんの課題があり、自分からその課題を知ろうとする姿勢や協力しようとする姿勢が大切だと思った。

○ 感想

今年度から企業から出されるミッションがなく、自分たちで課題を見つけて提案しなければならなかったため、現状を詳しく知る必要があったのが大変だった。中間発表まで意外と時間がなく、仲間と仕事を分担することが大切だと感じた。話し合うことで意見がまとまったり、新たな発見があったりして課題について深く考えることができた。私たちの提案についてたくさん意見を下さり、丁寧に対応してくださったシティユーワ法律事務所の方々には本当に感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

提案内容を決める際に現在の課題から考えるとアイデアが出しやすいです。話し合いをしていくうちにさらにいろいろなアイデアが出て内容を追加していくことがあると思いますが、課題と最終的な提案内容に違いが生じてしまうことがあるので、課題を明確にしておくが良いと思います。また、自分たちは理解していても、初めてその提案を見る側からするとわからない点があったりするので、他の班と内容を見せあったりして、アドバイスをもらうことをおすすめします。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1926 年設立の大手化学メーカー。東京都千代田区に本社を置き、資本金は約 1200 億円、2 万 2000 人以上の従業員を有している。塩ビ・化成品事業、半導体シリコン事業、シリコン事業、電子・機能材料事業、加工・商事・技術サービス事業、機能性化学品事業の 6 つの事業分野を中心とし、1960 年代に海外へ進出してから現在では 19 ヶ国 93 拠点に販売拠点を置き事業を展開している。そして塩化ビニル分野、半導体シリコン分野では世界シェア 1 位、シリコン分野で世界 4 位、時価総額では日本の化学メーカーで 1 位、世界の化学メーカーでは 11 位と日本のみならず、世界的に見ても強い影響力を持っている企業である。

3 提案の概要

私たちの班は、信越化学工業株式会社の強みを生かし、現在世界で問題となっている環境問題の解決に近づくために、「PVC レインパーカー」を提案する。PVC レインパーカーとは信越化学工業株式会社の塩化ビニルを用いた服である。現在日本で年間で消費されている 1 億 3000 万本の傘のうち 8000 万本はビニール傘であり、国内の紛失物の大半である 31%を占める傘だが、紛失物届けは取得数に対するわずか 1.8%に留まっていることから日本は傘を大切にしている意識が低く、資源を無駄にしていると考えた。そこで長所として耐久性、耐薬性、耐疲労性が高く、低コストで大量生産できる塩化ビニルをレインコートに使うことでこの問題の解決に近づけると考えた。またターゲット層を若者や子供などのよく外出をする人にし、レインコートではなくレインパーカーとして普段着でも使えるようなデザインにし、店舗販売時に PVC レインパーカーを購入したお客様にはクーポン券を配布する。そうすることで、より多くの人に買ってもらえるのではないかと考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、第一には資源の無駄遣いを防げることだ。従来のレインコートは主に石油を原料としており、主にナイロンやポリエステルが使われている。そこで信越化学工業株式会社が製造している塩化ビニルは石油資源への依存度が低く、製造過程での環境への負荷も小さく、原料の 6 割が天然由来の塩であることからこれをレインパーカーに使うことで環境への負荷を小さくできると考えた。このことから SDGs の 12 番「つくる責任、つかう責任」の達成に近づけると考えた。また PVC レインパーカーを販売することで得た売り上げの一部をユニセフなどを通して発展途上国に寄付をすることで貧しい人々の衣服や薬、食料などの助けになり、SDGs の 1 番「貧困をなくそう」の達成に近づけると考えた。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・塩化ビニルのシャカシャカした質感は高級感を求める高齢層には受けが悪いのではないかと？
 - ・販売方法までイメージして提案したグループはあまり無かったので、よく考えている。
 - ・商品においては、もっと具体的などころ、着心地や質感などまでイメージできると更に良くなる。
 - ・ビニール傘の廃棄に着目した目の付け所がいい。
 - ・「利益」は事業を進めるにあたって非常に重要なので、そこを重視して進めることが事業の存続においてとても大切。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・パーカーの素材については、内側に綿や羊毛など、肌触りの良い素材を用いることで、着脱もスムーズにでき着心地の良いものになるのではないかと考えた。
 - ・裏地である程度は抑えられるものの、塩化ビニルで雨具をつくる以上、シャカシャカした質感から脱するのは難しいため落ち着いた色のバリエーションも用意することで、高齢層にも受け入れやすい形にする。

6 資料抜粋

<h1>PVCレインパーカー</h1> <p>荷物にならず、耐久性が高く、普段着としても違和感なく使うことができる、小さめのレインコートを作る</p>	<h2>信越化学の強み</h2> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都千代田区に本社を置く、日本の大手化学メーカー ・1926年9月16日に設立 ・資本金 約1200億円 ・従業員数 22,783人 ・塩化ビニル分野、半導体シリコン分野で世界シェア 1位 ・シリコン分野で世界シェア 4位 ・時価総額で日本の化学メーカーで1位、世界の化学メーカーで11位
<h2>解決すべき社会の課題</h2> <p>①日本では年間で1億3000万本の傘が消費され、そのうちの8000万本がビニール傘 国内の紛失物の31%が傘であるにも関わらず、取得数に対する紛失届の割合は1.8%ほどである</p> <p>②現在、服の素材である化学繊維は石油が原料であるものがほとんど</p>	<h2>塩化ビニルの長所・短所</h2> <p>◆長所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐久性→長期間力を加えても変形しにくい ・耐疲労性→他の樹脂に比べ、繰り返し使える ・低コスト→大量生産しやすい <p>◆短所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温時の衝撃強度が低い →耐衝撃性改良樹脂により改善できる ・常用耐熱温度が低い →常用耐熱温度が60～70度のため日常生活では問題ない
<h2>企業側のメリット</h2> <p>従来のレインコートは石油を原料とする、ナイロンやポリエステルが多いが、原料の6割が天然由来の塩である塩化ビニルを使用することで環境への負荷を小さくすることができる。</p> <p>↓</p> <p>『12 つくる責任 つかう責任 12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。』に貢献できる。</p> <p>売り上げの一部をユニセフなどを通じて発展途上国に寄付する</p> <p>『1 貧困をなくそう 13 各国において最低限の基準を含む適切な社会保障制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。』に貢献できる</p>	<h2>まとめ・感想</h2> <p>◆まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐久性が高く、費用を安くできる塩化ビニルは服の素材として適している ・実際に塩化ビニルは服の材料として用いられている <p>↓</p> <p>レインコートの素材としても十分に使用できる</p> <p>◆感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信越化学は様々な分野で世界一だったり、世界シェア上位だったりしたので非常に驚いた。 ・SDGsと企業の利益を同時に考えるのは大変なことなのだなと思った。 ・発表の時に企業の方々からわかりやすい説明もしてもらい、大変ありがたかった。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

私たちはゼミ活動を通じて、話し合いをすることの大切さを学んだ。一人で提案する内容について考えたり調べるよりも、班員のみんなでアイデアを出しあったり、良いところや悪いところを指摘し合うことで、一人では思いつかなかった新たな考えを生み出すことができた。また根拠を考えることが重要だと感じた。根拠があることで、より提案に信憑性が増す。

○ 感想

初めの頃はまだ提案の方向性が定まらなかったが、より良い提案をできるようにみんなで協力して案を出し合い、いいアイデアを考え出すことができた。提案をうまく行うことができるか不安だったが、信越化学工業株式会社の方々には親切に聞いてくださり、また、自分たちが思い付かなかった視点からの意見をいただき大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

今回の研修は企業に出向いての発表ではなく、オンラインでの実施であった。機械を通じての発表だったため、お互いに聞き取りにくい部分があった。今回のように、オンラインでの開催になった場合は大きな声ではっきりと発表してほしい。また、発表内容について販売方法について説明したところ、企業の方からお褒めの言葉を頂いた。商品を販売するうえで販売方法はとても重要になるので、ぜひ考えてもらいたい。

中間発表ではパワポ、原稿の完成がギリギリになってしまい、発表もばたついてしまった。限られた時間の中でより良いものをつくるために、計画的に活動を進めてほしい。

シリコーンボックス

～環境に優しい新製品～

【信越化学工業株式会社 B 班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1926年に化学肥料・石灰窒素を生産する「信越窒素肥料株式会社」として設立された大手化学メーカー。産業や生活の基礎になる素材、製品を作っている。1960年代には、海外にも進出し、今ではあらゆる分野で世界トップシェアを誇っている。

3 提案の概要（企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く）

私たちは企業から頂いた「SDGs へ貢献するため、人間社会の持続的発展と環境負荷抑制を両立する素材について提案、新規製品または既存製品の提案を行う」という課題から、安全性や耐久性が高く、人にも環境にも優しいシリコーンを使った「シリコーンボックス」を提案する。段ボールの代替として、運送業者やホームセンターなどの企業に収納や引っ越し用として販売したいと考えた。

厚さはシリコーンの強度と長く使用することを考え、3mm から 5mm とし、硬さは、物を安定して保管・運送するため、スマートフォンのシリコンケースをイメージした。また、1 番の特徴は、ファスナー・マジックテープにより、折りたたむことができる点だ。段ボールに比べてかさばらず、保管しやすいため、ゴミとして捨てられる量を減らすことができると思う。他にも、外から中身を判断できるよう、色を付けることを考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときの社会への影響として、第一に考えられるのは、環境問題の改善だ。シリコーンは構成成分の約 6 割が水とケイ素由来であり石油依存度が低く、またエネルギー消費と材料の使用の改善によって実質的におよそ 9 倍もの CO2 排出量の削減効果を生み出すことができる。また、段ボールの代替品としてシリコーンを活用することで、シリコーンは紙の原料である木を使用しないため森林伐採の必要はなくなる。

このように、温室効果ガスの排出量削減や森林保護など、環境問題の解決への貢献が期待できるため、持続可能な開発目標(SDGs)の 7 番[エネルギーをみんなに、そしてクリーンに]、15 番[陸の豊かさを守ろう]の達成が見込まれると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ そもそもシリコーンは箱としての素材には向いていない
 - ・ 販売方法まで考えてきた提案は過去になかった
 - ・ 折りたたみ式の箱はおもしろい
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ シリコーンの活用法について調べ足りなかったことを痛感した。
 - ・ シリコーンは汎用性が非常に高いので一つのことにとらわれずにアイデアを出せば出すほど面白くなると思う
 - ・ 値段設定など、もう少し根拠を述べて、説得力のあるプレゼンにすればよかった。

6 資料抜粋

<h3>シリコンボックス</h3> <p>～環境に優しい新しい製品～</p>	<h3>企業について</h3> <p>「特色」ある6つの事業</p> <table border="0"><tr><td>1. 塩ビ・化成品事業</td><td>建築、土木</td></tr><tr><td>2. シリコン事業</td><td>自動車、化粧品原料</td></tr><tr><td>3. 機能性化学品事業</td><td>医薬品、害虫防除剤</td></tr><tr><td>4. 加工・商業・技術サービス事業</td><td>設計、メンテナンス</td></tr><tr><td>5. 電子・機能材料事業</td><td>家電の各種モーター</td></tr><tr><td>6. 半導体シリコン事業</td><td>家電、デジタル機器</td></tr></table>	1. 塩ビ・化成品事業	建築、土木	2. シリコン事業	自動車、化粧品原料	3. 機能性化学品事業	医薬品、害虫防除剤	4. 加工・商業・技術サービス事業	設計、メンテナンス	5. 電子・機能材料事業	家電の各種モーター	6. 半導体シリコン事業	家電、デジタル機器
1. 塩ビ・化成品事業	建築、土木												
2. シリコン事業	自動車、化粧品原料												
3. 機能性化学品事業	医薬品、害虫防除剤												
4. 加工・商業・技術サービス事業	設計、メンテナンス												
5. 電子・機能材料事業	家電の各種モーター												
6. 半導体シリコン事業	家電、デジタル機器												
<h3>シリコンボックス概要</h3> <ul style="list-style-type: none">▶ 厚さ・・・3mmから5mmシリコンの箱 (イメージはスマホケース)▶ 大きさ・・・段ボールと同じサイズ (32cm×52cm×31cm)▶ 折りたたみの仕組み・・・隣の面とファスナーorマジックテープで接着▶ 色は赤、青、黄、緑、白などの半透明の色	<h3>シリコンボックスの強み</h3> <ul style="list-style-type: none">①耐水性→雨の中、水周りでの使用が可能 さらには定期的な洗浄も可能→衛生的②高い耐久性→長期使用が可能③半透明→色分けして物を管理できる④折りたためる→管理が楽												
<h3>デメリット</h3> <ul style="list-style-type: none">▶ 黄ばむ可能性がある▶ 滑りにくい▶ 耐摩耗性が低い▶ マジックテープでの接着部分の問題	<table border="0"><tr><td><h4>企業様へのメリット</h4><ul style="list-style-type: none">・身近なところで企業名を目にする回数増 →知名度UP・環境への配慮をアピールできる →好感度UP</td><td><h4>社会へのメリット</h4><ul style="list-style-type: none">・CO2削減 →SDGsへの貢献</td></tr></table>	<h4>企業様へのメリット</h4> <ul style="list-style-type: none">・身近なところで企業名を目にする回数増 →知名度UP・環境への配慮をアピールできる →好感度UP	<h4>社会へのメリット</h4> <ul style="list-style-type: none">・CO2削減 →SDGsへの貢献 										
<h4>企業様へのメリット</h4> <ul style="list-style-type: none">・身近なところで企業名を目にする回数増 →知名度UP・環境への配慮をアピールできる →好感度UP	<h4>社会へのメリット</h4> <ul style="list-style-type: none">・CO2削減 →SDGsへの貢献 												

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

相手に分かりやすく伝える為にすべきことを学んだ。情報収集をする際は詳細に調べ、まず自分たちの理解を深めることで、分かりやすい説明になると感じた。スライド作りや話し方 1 つでかなり印象が良くなるため、今後活動する際に本選のチームを参考にしたい。

○ 感想

限りある時間の中で案を考えるのはとても大変だった。中間発表後に提案内容を1から考え直したため、かなり急いで作業しなければならなかったが、班員と協力して仕上げる事が出来たので良かった。

丁寧に対応して下さった信越化学工業株式会社様には大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

放課後や夏休みを上手く活用して、計画的に作業することが大切です。また、班員との話し合いがとても重要なので、できるだけ話し合いの時間を多く取ってください。案は先生方に見てもらうことで改善点が見つかり、より良い発表に繋がります。積極的に動きましょう。応援しています。

学習くん

～ 持続的な学習をするために ～

【株式会社東芝 A 班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1875 年田中久重が創業し、日本初の電信設備メーカーとして設立されました。その後家電などで事業を拡大し、今では「エネルギーシステムソリューション」「インフラシステムソリューション」「ビルソリューション」「リテール&プリンティング」など人々の生活に必要なものを作られておられます。そして持続可能な社会に貢献するため、製品やサービスをグローバルに提供しておられます。

3 提案の概要（企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く）

私たちの班は、解決すべき社会の問題より、「持続的な学習」を可能にするために、「学習くん」を提案します。提案は 2 タイプあり、東芝様のリチウムイオン二次電池を搭載したボタン式とスタンドを用いた充電式のシャープペンシルです。学習時間を計測し、データは Bluetooth を用いてアプリに送られます。アプリでは、学習時間の記録、ランキング、通知などを見ることができます。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGs への貢献

実現されたときの SDGs への貢献は、継続的な学習が可能になることです。学習習慣が身に付くことにより、質の高い学習が出来るようになり、その結果、全ての学習者が SDGs を達成するために必要な知識を習得出来るようになると考えられます。このことから、SDGs の4番[質の高い教育をみんなに]の達成が見込まれます。

また、「学習くん」は友人との競争意識を高める商品でもあり、競争していく上で友人関係を広めていくことができ、その結果「学習くん」がより一層さまざまな人に広まって、新規顧客の獲得に繋がると考えられます。そうして得られた新規顧客が「学習くん」を使い、友人と競争してさまざまな人に広まるという良循環が生まれると考えられます。この循環により、社会全体に継続的な学習習慣が身に付き、質の高い教育が受けられると考えます。

5 企業への発表を終えて

○ 企業からいただいた指摘や意見

- ・提案の価格設定は、アプリの金額が含まれているのか。
- ・シャープペンを握ってる時間＝学習している時間なのか。学習の定義をどう捉えるか。
- ・学習を妨げる 1 番の原因に着目しなかったのはなぜか。
- ・どのような過程を経て学習という分野に至ったのか。

○ 発表を終えて考えたこと

質問への回答

- ・販売価格はアプリ代を含む。
- ・スイッチ式で学習時間を計るため、計測するのはシャープペンを握っている時間のみではない。
- ・YouTube は自分の意志が強く作用するので、自分自身で解決して欲しかったから。
- ・株式会社東芝様の強みを生かして、新しい分野に事業を拡大できると考えたから。

6 資料抜粋

解決すべき社会の課題

→ 継続的な学習習慣が身につかない

高校生の学習時間が少ない割合が高い

提案理由

1. ターゲット層の学生のシャープペンシル使用率ナンバーワン
2. 勉強の妨げとなる友人を活かす
3. SDGsの目標「持続可能な開発に必要な知識と技能を獲得」を達成する

学年	シャープペンシル	ボールペン	鉛筆	その他
中学生	85%	85%	82%	66%
高校生	82%	84%	77%	61%
大学生	87%	85%	68%	51%

学年	シャープペンシル
中学生	96.4%
高校生	95.9%
大学生	94.0%

提案①

- ・シャープペンシルのグリップの上部の部分にボタンを取り付ける
- ・ボタンにBluetoothとリチウムイオン2次電池を搭載
- ・ボタンを押すと勉強時間を計測する

提案②

- ・時間計測が可能なスタンドを用意する
- ・スタンドにシャープペンを挿入できる程度の穴をあける
- ・シャープペンをスタンドから抜いたときから再度入れるまでの時間を計測する
- ・スタンドは有線でつながれている

会社に期待される利益

- ・SDGsの目標(持続可能な技能の獲得)を達成できる
- ・経済的利益
- ・明確に消費者に商品の利点をアピールできる

消費者にもたらされる利益

- ・継続的な学習が可能に
- ・SDGs目標の「持続可能な知識及び技能」を習得できる
- ・友人と競争していくうえで関係性をより深めることができる

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、根拠を考える大切さを学んだ。提案を作る際にその提案の説得力を増すために根拠ということが必要になるが、その時にただインターネットの画像を読み込むのではなく、実際に学校の人にアンケートを取ってその資料を使うことによって、より説得力のある提案をすることができた。

○ 感想

提案の内容を練っていく際に、費用の面で企業か、消費者の利益を優先するかでとても難しかった。結局消費者の利益を考えすぎてしまい企業への利益が少なくなってしまった。

何度も丁寧に対応していただきとても学びのある活動をすることができました。ありがとうございました。

○ 後輩へ

提案内容が決まったら、そのことについてどんどん深く掘り下げていくことが大切です。幅広い視点をもちよく考えて提案するようにしてください。また提案を裏付ける根拠も大切で、今の時代では簡単にアンケートを行うことができるので、実際に学校の人にアンケートをとるのがおすすめです。

発表では緊張して原稿がとんでしまったので、ある程度完成したら原稿を考え、発表の練習をするといいと思います。自分たちにか出来ない提案が出来るように頑張ってください。

最新設備のサービス付き高齢者向け住宅

【株式会社東芝 B班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

明治8年創業の大手電機メーカー。家電やエネルギー事業など、多岐に渡る事業を展開してきたが、今はインフラ設備や電子デバイスなどの生産を行っている。また、その高度な技術を活用した太陽電池や量子暗号通信技術は、CEATEC AWARD 2021で表彰され、今後の事業に期待を集めている企業である。

3 提案の概要

私たちの班は、東芝のAI技術や電子デバイスといった高度な技術を利用し、最新設備の介護施設を提案する。現代の日本の少子高齢化により、年を重ねるごとに介護職員1人あたりにかかる要介護者数が増加している。さらに、介護施設での入居者への虐待なども問題になっている。そこで、東芝の技術を利用した、暑さストレス推定を導入し、入居者の健康情報を収集するバイタルケアバンド、人物認識AIで入居者への虐待や異常を早期発見できる生活実態チェックシステムの2つのデータをAIで解析することにより、入居者の健康状態をリアルタイムで介護職員全員が把握することや、その解析データに基づいて設備の効率化を図り、一人ひとりにあった最適な環境を提供することができる。

また、建物自体の構造として、3階建てでフロアごとに10人と介護職員数人で基本的に共同生活をする、ユニットケア型を採用した。これにより、できる限り入居者の精神的な負担を軽減できる。加えて、従来の多室型に比べ、個別ケアがしやすくなる。また、入居者の健康状態に合わせて階を分けることで、さらに介護をしやすくなると思う。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、まず、介護者の負担を軽減できることが考えられる。介護職の辞職理由1つとして、身体的負担が大きいことがあげられるが、この施設が実用化されることにより介護者の身体的負担を減らせるため、この問題を解消することができる。それにより、離職率が下がり、悪いイメージを変えられると考える。そして、要介護者への虐待も年々増加しているが、生活実態チェックシステムを使用することにより、入居者やその親族に安心を与えることができる。さらに、一部の仕事ではあるが、アンドロイドやAI技術で人の要らない介護が実現する可能性も考えられる。

快適で安全なスローライフを提供すること、入居者が他者との関わりによって心の健康を保つことができることや最新のAI技術により、介護スタッフの労働環境の改善・負担軽減をすることができる。このことから、持続可能な開発目標(SDGs)の3番[すべての人に健康と福祉を]、8番[働きがいも経済成長も]を達成できると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ 人との関わり、入居者の精神的なストレスをどうフォローするのか。
 - ・ 介護で1番大変な仕事は要介護者が入浴するときですが、その負担を減らす仕組みも必要である。
 - ・ パワードスーツなどで、肉体的負担自体を減らした方がいいのではないか。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 3階建ての構造で、階が上がるごとに、介護のレベルを上げていく仕組みだが、緊急時、避難するのが大変になるのではないか。しかし、3階建て程度ならば、そこまでの弊害は出ないと考える。
 - ・ 入居者の状態を目視で確認する必要はなくなったものの、肉体的な負担はそこまで減っていない。この提案に加えて、疲労を減らす、器具や仕組みを考えていかなければならない。
 - ・ 介護者の肉体的負担をさらに減らすことができれば、受け入れられる人数も増やすことができるはずだ。

6 資料抜粋

**最新設備の
サービス付き高齢者向け住宅**

～介護をもっと**楽**に、入居者も**快適**に～

- ・ 東芝の技術を利用して、介護職員の負担を**軽減**する。
- ・ 入居者に対する**虐待** **粗悪な扱い**を**減らす**。



・ 東芝の長所

- 知名度 ← 技術への信頼
- 電子デバイス
- インフラ整備
- ビルソリューション

2. 提案

▶ 現在の日本

超高齢社会 …人口の約30%が65歳以上

いずれ、介護者がいなくなる
→ 高齢者の**孤独死の増加**
また、介護施設での高齢者への**虐待**(上図)



提案の詳細



社会への影響

- 介護士の負担が減る
- 離職率の**低下**
- アンドロイドやAI技術の活用
- 介護施設の**可能性**
- 一人ひとりに**合った**ケアができる

まとめ・感想

○ まとめ
まだ掘り下げられる部分はあるものの、高齢者関連の問題は必ず対処しなくてはならない。この提案は、これからの日本にとって、重要であるものと考えている。

○ 感想

- ・ 東芝の技術の多様性に驚いた。
- ・ 提案を練れば練るほど、問題点や疑問点が浮き彫りになり、時間がなかったが、自分たちの主張は余すことなく伝えることができた。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

根拠となるデータはインターネットや現実世界をよく見れば、いくつも転がっているので、それらをどのようにまとめて、裏付けのとれた提案をするのが難しかった。しかし、その中でも、聞き手がひと目で分かるような資料も心がけなければいけない。聞き手がどう見て、どう聞くのかも意識しながら、原稿や資料を作った方がよい。

○ 感想

私たちの班は、2つの案が廃案となり、時間がなく、他の班よりも話し合う時間も提案を練る時間も少なかったが、その中でも自分たちの提案の長所と伝えたいことをしっかりプレゼンできた。しかし、入居者の精神的負担や、入浴時の介護者の肉体的負担など、もっと深く、具体的な部分に対しては盲目になっていた。

○ 後輩へ

残り1ヶ月から、新提案を考えた私たちの班が言えることではないですが、やはり、計画的に提案を練っていくことが重要です。細かい部分、ターゲットの人達の行動や悩み事など、深く考えれば、熱意のある、より良い提案となるでしょう。私たちの班は、東芝の方との事前のやり取りが1度しかなく、後に出た質問や疑問などを聞くことができませんでした。事前のやり取りでは、具体的なことやホームページに載っていない、独自の質問を考えると良いでしょう。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1935年設立の大手IT企業。パソコンの製造やスーパーコンピューター富嶽の開発などが有名だが、他にも様々な業種をグローバルに展開している。特にITサービスの分野で日本1位、世界でも8位とITサービスを中心に提供している。環境問題への対策を積極的に行うなど、SDGs達成に向けて様々な取り組みを行い、国際社会に貢献している。

3 提案の概要

私たちの班は、富士通株式会社の強みであるAI技術を生かしたアプリを提案する。私たちは富士通株式会社の課題としてSDGs12番つくる責任つかう責任を挙げた。機械の製造を行う上で今の時代、次々と新しい商品を更新することが求められている。しかしそんな中、これからの社会では同じ商品を長く使い続けることが重要になってくるのではないかと考えた。そこで家電の劣化や修理を発見し修理をより効率的に行えるようサポートするアプリを提案する。この提案では家電をある程度使っていて買い替えを考えると予想される30代から50代を対象とする。消費者が家電の写真や映像を撮影してアプリに送信することでAI学習技術が劣化や故障を判定する。故障が見つかった際にはその原因まで特定して、修理の際1回の訪問で完璧な修理ができるよう修理者にAIが必要な道具や手順を提示する。

富士通株式会社ではすでに「建造物の映像からひび・錆の進行状況を判定」と「適切な部品修理によって初回修理訪問時の解決率の向上」という活動をAIで行なっている。それをAInshightに取り入れることでより確実な提案となると考える。

この提案では家電をある程度使っていて買い替えを考えると予想される30代から50代を対象とする。全国各地に修理をする人を派遣して訪問修理を行う。なるべくどのメーカーの製品も修理できるようにAIに他社の製品を教える必要がある。この二つの課題は解決に時間とコストがかかるためさらに検討が必要だと考える。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

社会の環境を良くすることやSDGsの12番、つくる責任、使う責任に貢献することができる。

普段から利用している家電の故障を事前に発見し故障を防ぐこと、より長く製品を使い続けることで消費者が使う責任を感じられるようになる。さらに、AIが身近な存在であることを体験し富士通株式会社が行なっている他のAI事業に興味を持ってもらえる。このような具体的なメリットが見込めると考える。廃棄されるものが少なくなるので、AInshightは環境に良いだけでなく消費者や富士通にとっても良い取り組みとなる。このように持続可能な社会や多くの人が助かることに繋がる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・修理を続けるのは部品会社や修理業者にとってもメリットがあるのでいい案かもしれない。
 - ・ほかの家電メーカーとも協力して事業を広げることができる。
 - ・デメリットをどうやって解決するのか、もっと考える必要がある。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・大学や企業を選ぶ時は自分の興味のある所へ行くのがいいかもしれない。
 - ・練習の時より何倍も緊張してしまったので、もっと練習を重ねるべきだった。
 - ・実際に現場で働いている方の意見を聞くことができたのでとても自信が付いた。
 - ・自分たちが考えた案を褒めていただいたことが、努力が報われたようで嬉しかった。

6 資料抜粋

Ainsight
(AI + insight)
～AIの力で故障を見抜く！～

AI学習技術と家電の画像から劣化や故障原因を判定し、訪問修理を効率的に行うアプリ
同じものを修理して長く使うために。

- ①家電の種類を選択
- ②簡単な質問に回答
- ③家電の写真を撮る
&稼働中の動画を撮る
- ④AIで故障原因を特定
- ⑤訪問修理を扱う場所へ
連絡が入る
- ⑥修理予算見積もりを提示
- ⑦訪問修理の日程決め
- ⑧訪問修理を行う

→ 建造物の映像からひび・割れの進行状態を判定
→ 適切な部品手配により初回修理訪問時の解決率を向上

お見積もり	出張料	部品代	工事代	合計
費用 (円)	3000	10000	2000	15000

今回はAI診断のみの見積もりです。修理費の見積もりは上記記載の通りです。

メリット(企業)

- エコやアフターサービスで利益を得るといふ今の傾向にあっている(SDGsも)
- 修理をすることで利益を得るに加え、他者の商品に買い換えることを防ぎ、相対的に他者と差がつく
- 定期的な修理を行うことが主流になれば利益にも繋がる

メリット(消費者)

- 従来の訪問修理より申し込みやコストの見積もりができる
- コストが減らせるのではないかと

デメリット(企業)

- 修理で利益を得ようになるには時間がかかる
- 古い商品の部品を長い間生産し続けなければいけない

デメリット(消費者)

- 新しいものに買い換える機会が減る
- 普及が遅くなってしまう

アンケート結果

家電が壊れて困った経験はあるか

ある	18
ない	3

家電が壊れたら

買い換える	17
修理する	4

● 買い換える理由
修理にお金と時間がかかる
新しいものが欲しい
直し方がわからない

● 修理する理由
エコだ
出来るだけ長く使いたい
使い慣れている

● 家電を買い換えて困ったこと

- 機能を使いこなせない
- 設定が大変
- 同じ型が見つからない
- 慣れるまで時間がかかる

● 訪問修理で困ったこと

- 知らない人が家に居るのは少し抵抗がある
- 訪問修理の日まで壊れたまま生活しなきゃいけない
- 性能は古いままなのに値段が新品を買うのと同じくらいかかった
- 日取りが面倒くさい

まとめ

- ▶ Ainsightで同じ商品を長く使い続けることで、つくる責任、つかう責任を身近に感じることができるようになると考える。
- ▶ SDGsの国際的な目標に貢献し、持続可能な世界の実現を目指す中で富士通にも大きなメリットがあると考えている。

感想

- ▶ SDGsと富士通株式会社の活動を絡めて考えることで、社会全体のことと、自らの将来のことをよく考えることができた。
- ▶ 提案を考えるうえで、企業と消費者のどちらにもメリットを持つような提案にすることが難しかった。
- ▶ 富士通株式会社の皆様には、とても丁寧に対応していただき大変感謝している。

この結果から、買い換えるという意見がまだまだ多いのが現状。
私達の提案は時間とお金を節約出来る。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、ただ企業への提案を考えるだけでなく、企業への利益や解決された後の社会をSDGsと絡めて考えながら、企業に提案することができた。校内発表の時には、自分たちの伝えたいことを、相手にわかりやすく伝えるために、資料に使う画像や表現、グラフなどを工夫することが大切だと思った。

○ 感想

企業へのプレゼンテーションで良かった点は、原稿を見ずにリモートではあったが、相手の顔を見ながら発表できたことや、手でジェスチャーをしてわかりやすく伝えることができたことだと思う。また反省点は、リモートでスライドが見づらいので企業の方に見やすいようにシンプルなデザインにする方が良いことと、フェイスシールドがあったのではっきりと伝わる声量で話すことだと思う。

提案書の段階から丁寧に対応していただき、質問にも的確に答えてくださって大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

作業には早めに取り掛かり、余裕を持って仕上げるのが良いと思う。授業だけでは時間が足りなくなってしまうので、放課後や夏休みを利用して活動を進めると良いと思う。企業へ行ったプレゼンテーションでは、実際にそのシステムを利用したうえで見えてくるデメリットへの対応が不足していたので、質問されたときにスムーズに答えられるように様々な質問への対応を考えておく必要があると思った。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1935年創業の大手 ICT 企業。コンピューティング、ネットワーク、AI、データ&セキュリティ、コンバーギングテクノロジーをキーテクノロジーとしている。ICT サービス市場で国内トップ、世界でも7位の実力を誇る。高田高校にて、情報処理教室のパソコンや先生方の使うパソコンも富士通製である。

3 提案の概要

昨今の日本では、IT 化が進みパソコンを使う機会が多くなってきたが、その中でパソコンが苦手だと言う友達を見かけることもあった。そこで私達の班は、企業の強みを生かし、このような状況で役に立ちたいと思い「高性能 AI 付きパソコン「premo」を提案する。このパソコンは主に、(1)「友達感覚でわからないところを聞ける AI」と(2)「大学生でも使いやすい便利な新機能」の二つが柱である。(1)は、パソコンの使い方に迷った時に AI に聞くと教えてくれる機能。(2)は資料の4番目の図のように下画面のタッチパッドを撤廃し、カーソル機能を持つスライドパッドを設置。SD カード収納スペースやタッチペンも付属。上画面はタッチパネルで、キーボードもタッチパネル化。AI のヘルプに対応して点灯など可能。



4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、一つは若者のパソコン能力の向上による優秀な人材の育成である。主に大学生の期間にこのパソコンを利用することによってパソコンの基本的な知識、タイピング能力が身につく、社会に出る優秀な若者が増え、社会全体としての利益がますます増えると考えられる。またこのような新しいパソコンがでることによって、パソコン産業がさらに活発になり、使用者にもっと便利なパソコンを提供できると思う。さらに AI 技術が導入されつつある現在、このような高度な AI 技術が搭載されているパソコンを開発することによって、社会全体として AI 技術が向上し社会に大きく貢献できると考える。また現在教育の現場では、タブレットやパソコンを使った授業が増えており、今後さらに増えていくと思われる」。しかし全ての人がタブレットやパソコンを使いこなせるわけではないので、どうしても人によって教育の質が変わってしまう。このような中でこのパソコンを使うことによってパソコンが苦手な人でも使いこなすことができ、SDGs の4番「質の高い教育をみんなに」を達成できると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・なぜタブレットやスマホを使いやすくするのではなく、パソコンにこだわったのか
 - ・日本の若者のパソコンの使用率が低い原因は、パソコンの扱いが難しいからだけではなく他にもあるから、調べてみるとおもしろい
- 発表を終えて考えたこと
 - ・いまの AI 技術では、どのくらい、人間のような抽象的な会話ができるのか
 - ・パソコンは今後どのくらいまで使われ続けるのだろうか

6 資料抜粋

<div style="text-align: center;"> <h1>プレモ</h1> <h2>～新世代のパソコン～</h2> </div> <p>パソコンが苦手な人がたくさんいる コロナ禍で使う人が増えてきた 授業で習う機会が少ない やり方が分からない人が多数存在</p>	<div style="text-align: center;"> <h3>富士通の強み</h3> </div> <ul style="list-style-type: none"> ICTサービス市場で国内No.1 パソコンの知名度 らくらくホンにしている音声認識AI スパコンを作る技術力 
<div style="text-align: center;"> <h3>プレモについて</h3> </div> <ol style="list-style-type: none"> 友達感覚で話せる AI付きパソコン 大学生でも操作しやすい便利な機能 	<ul style="list-style-type: none"> フリーズ、バグなどに対応 タッチパネル化したキーボード 作業別のチュートリアル 色々なカスタマイズが可能  <p>キーボード</p> <p>タッチペン格納</p> <p>スライドパッド</p> <p>クリックボタン</p> <p>SDカード収納スペース</p>
<div style="text-align: center;"> <h3>使用者のメリット</h3> </div> <p>パソコンを使うことが苦手な学生が ↓ premoを使用して ↓ パソコンの便利さ可能性に気付く ↓ 技能を身につける → 仕事の幅が広がる</p> 	<div style="text-align: center;"> <h3>まとめ・感想</h3> </div> <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> プレモは大学生にとっても便利なものと思われる 今までにない画期的な新機能を搭載してるから、話題性は十分にあると思われる <p>○感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 富士通が持っている素晴らしい技術には驚かされた 企業の方に優しく対応していただけて嬉しかった 人前で発表するという貴重な体験ができた 

7 感想・後輩への一言

○学んだこと

知識が足りず活動が滞ることがあったので、早い段階から文献、先例などについての情報収集を念入りに行うことが大切。また顧客側と企業側両方に利益があって、かつ斬新であるアイデアを作るのは難しいことも分かった。片方に利益が偏ってしまい、均等にしようとしてアイデアが淡泊になるなどの問題が多くあった。

○感想

適材適所で役割分担をはっきり決めることで活動が円滑に進み、担当部分に専念して力を入れることができた。また放課後に集まり、通話で会議をすることで話し合いを重ね、良いアイデアを作ることができた。途中イメージが固まらない時もあったが、各々考えをまとめて会議で持ち寄り話し合うことで、細かい部分まで突き詰めて作ることができた。本番においては、とても緊張したが良い経験になったと思う。温かく対応してくださった富士通の皆様、ありがとうございました。

○後輩へ

早めに行動し始めましたが、最終的には時間が足りなくなり、駆け足気味になってしまいました。発表自体は想像よりもすぐなので、アイデアも発表も高い質にするためには計画的な行動が大事です。具体的な案を作るためにターゲットを明確にすると活動がスムーズに進むと思います。アンケートや聞き込みで他人の意見を聞くことは、多角的な視点を獲得できるので大切です。またアニメーションやイラストを活用して工夫を凝らしたパワポを用意すると良いと思います。

発展途上国の交通状況を改善しよう

【大成建設株式会社 A班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1873年10月創業 1917年12月 28 日設立

グループ理念は『人が生き生きとする環境を創造する』

大成スピリット『自由闊達 価値創造 伝統進化』

スーパーゼネコン5社のうちの一つであり、スタジアム、ダム、超高層ビル、地下鉄などの大規模な土木工事を行っている。『建設の指揮者』とも呼ばれている。どんな種類の建築物の工事も請け負うプロフェッショナル集団であり、建築の売上比率は 70%以上である。災害があった際の家のサポートも行なっている。地球温暖化が進み、台風や津波による被害が増えると考えられ、先を見越した事業展開を行なっている。海外事業も行っており、社会の持続的発展に貢献している。1930 年「烏山頭ダム」2002 年「マル島防波堤」など様々な海外実績を積み上げている。

3 提案の概要

私たちの班は大成建設の掲げる目標の中に 2 兆円の事業規模というものがあるため海外事業を行うと形でこの目標に貢献しようと思い、このような提案をした。またターゲットは発展途上国のなかでも周りからの印象が強かったケニアを選んだ。提案の一つとして、未舗装道路の整備修復を上げる。画像認識 AI を用いて未舗装道路での交通量の多い範囲を優先して事業を行う。保水性舗装というものを使い雨によって道がぬかるみ、交通困難になることを防ごうという考えだ。また環境に潤いを持たせるために道路脇に植樹帯を設置しようとも考えている。提案の二つ目として交通渋滞の解消をあげる。航空写真と画像認識 AI を用いて道路の交通量を推定し、渋滞情報の把握、信号機の有無または時間間隔の調整を行う。また、道路幅の拡張、歩道の拡張、バス専用道路、自動車専用道路の増加も考えている。また航空写真を見たところ信号だけが理由じゃないことがわかった。電気の供給が遅れていることが問題であるため、発電所の設置も考えている。

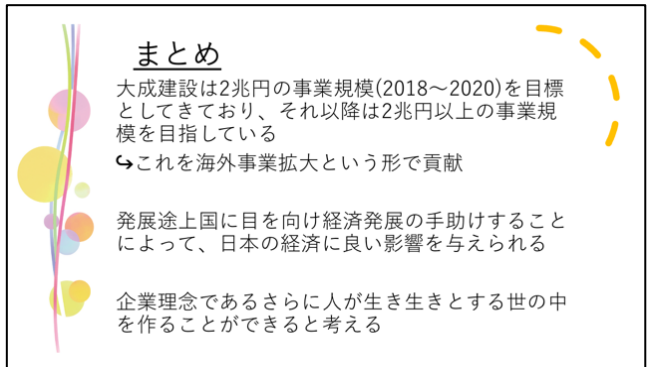
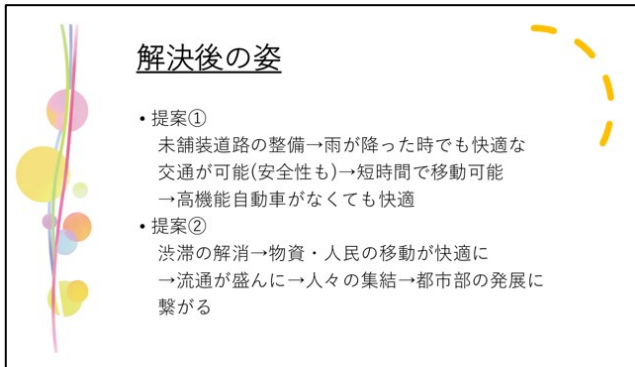
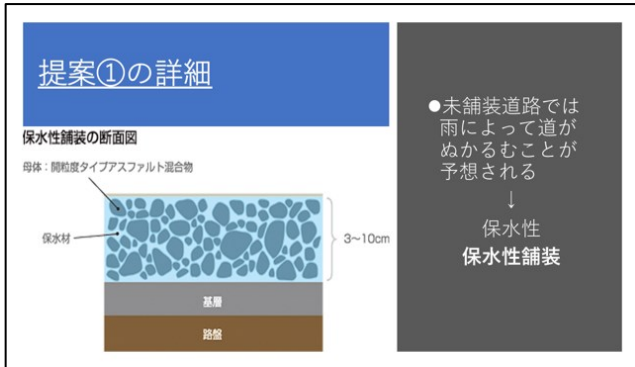
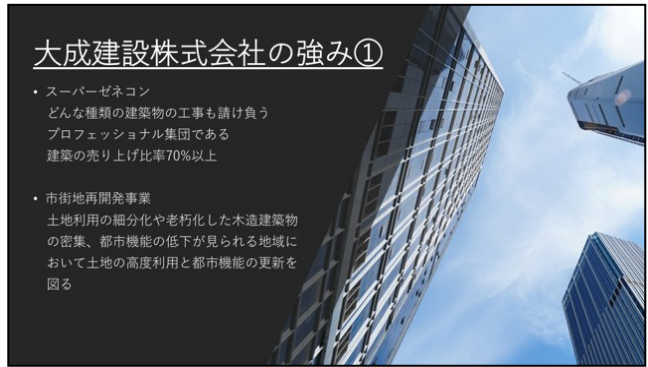
4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されると未舗装道路が整備されることにより、安全かつ快適な通行をすることができ、短時間での移動が可能となることが予想される。高機能自動車がなくても快適に移動できる。渋滞を解消できると、物資や人民の移動が快適になり、流通が盛んになる。そして人々がそこに集結し、都市部の発展に繋がると考えられる。このように発展途上国に目を向けてそこで課題を解決することできると、日本経済に良い影響が出ると考えられる。発展途上国が開発されることで、日本の企業がその国に進出することができ、そこで利益をあげることができると考えられる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ 交通渋滞の原因は信号の有無や時間間隔の問題だけではない。航空写真を見たところ、電気の供給がおくれているのも原因の一つである。発電所の設置はどうか。
 - ・ 発展途上国の国の中からケニアを選んだ理由が周りの人からの印象が強かっただけでは、ケニアじゃなくてもいいんじゃないか。エビデンスが弱いと感じた。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 保水性舗装にどれくらいの費用がかかるか考えてみたい。
 - ・ AI をもっと有効活用できたのではないかと考えた。
 - ・ 企業の方々から言われた通りエビデンスがもっとしっかりしていれば説得力が増したのではないかと考えた。

6 資料抜粋



7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

私たちはゼミ活動を通して、様々な視点から物事を捉える重要性を学んだ。自分たちで見つけた課題から提案に結びつけ、その提案の詳細を考えていく上で限られた視点からしかみていなかった。またエビデンスをしっかり考えることが重要だと感じた。エビデンスがないと「なぜ」という部分で説得力に欠ける。発表時の時の身振り手振りの、声の大小、抑揚、トーンなども大切だと感じた。

○ 感想

それぞれ部活などがある中で、合間をぬって集まり、話し合い、夏休みなども利用して、情報を共有し、各々が自分たちで考えた提案に関われるようにして進めることができた。提案の詳細についても、もっと具体的かつ独創的な内容を考えられればなお良かった。また、AI の使い方など丁寧に教えてくださった企業の方々には感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

話し合う際、実現性があるかないかにかかわらず、取り敢えず多くの案を出すことをお勧めする。幅広い視点から物事を捉えることが重要である。自分たちは部活動禁止の期間があったため、放課後集まることができたが、放課後集まるのは部活動などもあるため、少し厳しいかと思う。だから、集まった際に質の高い話し合いにする必要がある。また役割分担をしっかりと家で調べたりできることは家で情報を収集することが必要だと思う。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

明治6年創業の大手総合建設会社。建築工事、土木工事以外にも、不動産業などの広範な事業領域を有し、大規模な建築工事や土木工事の実績が多いことが特徴。海外事業にも力を入れており、おもに発展途上国の開発に貢献している。東京オリンピック2020で使用された東京新国立競技場の建設にも携わっている。

3 提案の概要

私たちの班は、大成建設株式会社の強みを生かし、企業価値を高め、現在の日本の課題を解決するものとして、全世代型マンションを提案する。現在の日本社会は、高齢社会と呼ばれ、介護施設のひっ迫や高齢者の孤独死、核家族化による地域のつながりの希薄化などの問題が起こっている。ここで私たちが提案するマンションは、どの世代の人も暮らしやすい環境を整え、世代間のコミュニケーションを促進することによる問題解決を目的としている。

具体的な施設として、一階には有料老人ホームを想定した介護施設、世代間交流の場である図書館と屋外の公園、屋内に雨天時に公園と同様の役割を果たすレクリエーション施設である「こどもの家」を設置する。二階には移動の負担を軽減するために、高齢者向け分譲マンションと通常の分譲マンションを、三階とそれより上の階には、分譲マンションと賃貸マンション、個人用賃貸ルームを設ける。マンションの立地は地方都市を想定している。多数の施設が共存することで、世代間の交流を促している。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献


施設内の図書館や共有スペース、公園を活用しイベントを行ったり、日常からも多くの人が会話をする場となったりと、人と人とのコミュニケーションが増えるきっかけとなり、街の活性化につながる。また、高齢者の見守り体制の確立や、子どもたちへの遊び場や学習の場の提供も行える。このように、さまざまな世代の生活の質を向上させ、生涯学習の場所として機能し続けることが期待される。また、東京23区において2015年には、3000件を超えた高齢者の孤独死の問題や2017年において全2400万世帯中52.4%を占める核家族世帯における問題の解決に貢献することができる。このスタイルが確立され、普及することでゆくゆくは世界中の同様の問題に対する解答にもなりうる。

また、高齢化社会の問題を解決することと、どんな世代の人も暮らしやすい環境を作ることから、持続可能な開発目標(SDGs)の3番[すべての人に健康と福祉を]、11番[住み続けられるまちづくり]の達成が見込まれる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいたご指摘やご意見
 - ・ 最近では分譲マンションよりも賃貸ルームの需要が増えてきているのでそちらに重点を置くのもよい。
 - ・ 高校生の「不真面目な」視点から見て欲しい施設を追加するのもいいかもしれない。
 - ・ 同じ場所に住むだけ交流は生まれるのか。積極的に交流を促進する方法があるとよい。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 賃貸ルームの需要を加味して他の施設を個人の利用にシフトすると、より柔軟にニーズに対応できると思った。
 - ・ 高校生が欲しいであろう、Wi-Fi環境を整備したカフェなどの施設も需要があると気づいた。
 - ・ 当マンションの交流施設である公園などでイベントを行うことで、コミュニケーションを促進できると考えた。

6 資料抜粋

<p>大成建設の強み</p> <ul style="list-style-type: none"> • 規模が大きく、資金力がある • 広範な事業領域 • 特に海外事業など大きな事業の活動実績 	<p>提案：全世代型マンション コンセプト すべての世代が同じ建物内に暮らす</p> <ul style="list-style-type: none"> • 世代間のコミュニケーションを促進 • すべての人が暮らしやすい建物に！ 								
<p>まとめ</p> <table border="1"> <tr> <td>4F</td> <td>分譲・賃貸マンション+個人用賃貸ルーム</td> </tr> <tr> <td>3F</td> <td>(同様)</td> </tr> <tr> <td>2F</td> <td>高齢者向け分譲マンション+分譲マンション</td> </tr> <tr> <td>1F</td> <td>介護付き有料老人ホーム+図書館+こどもの家 周辺に公園</td> </tr> </table>	4F	分譲・賃貸マンション+個人用賃貸ルーム	3F	(同様)	2F	高齢者向け分譲マンション+分譲マンション	1F	介護付き有料老人ホーム+図書館+こどもの家 周辺に公園	<p>期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> • 世代間のコミュニケーションが増える → まちの活性化にも • 高齢者の見守り体制の確立 (介護施設の送迎も改善) <p>⇒ さまざまな世代が集まる場として 機能し続ける！</p>
4F	分譲・賃貸マンション+個人用賃貸ルーム								
3F	(同様)								
2F	高齢者向け分譲マンション+分譲マンション								
1F	介護付き有料老人ホーム+図書館+こどもの家 周辺に公園								
<p>発表を終えて 企業の方からの質問・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> • 賃貸ルームの需要が増えている • 学生のための施設もあるとよい (Wi-Fiが使えるカフェなど) • 同じ場所に住むだけでなく 交流が生まれる方法を！ (共有スペースでイベントを開催するなど) 	<p>最後に...</p> <ul style="list-style-type: none"> • 多くの機能を備え、様々なニーズに応える • 核家族化や高齢化が進む社会… <p>→ より質の高い暮らしを！！ → 多くの世代が集う生涯学習の場を！！</p>								

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

提案をするにあたっての根拠の大切さがよくわかった。しっかりとした資料やデータで根拠を示すことができれば、提案の説得力が増し、提案の質の向上にもつながると思った。また、企業の方は、実現のしやすさよりも新しいアイデアを求めていることに気が付いた。

○ 感想

夏休みまでに提案の詳細を明確にすることができず、提案完成時も課題が多く残ってしまったが、班員一人一人が提案の作成やより良い発表に貢献することができた。また、企業についての多くの新しい情報を知り、「このようにしてこの国を支えている人たちがいるのか」とリアルな社会に触れることができ、とても面白かった。

丁寧に対応していただいた大成建設株式会社の方々には大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

時間が限られているので、大変ですが早めにテーマを決めるべきです。決まったら、その分野についてよくリサーチし、メンバー全員が理解できている状態にします。そうすれば企業の方への質問も出てくると思います。発表の準備は必然的に時間が足りなくなり、放課後に集まることも必要になってきます。発表の構成としては、提案の根拠と、提案が課題へどう対応するのかをはっきりさせるとわかりやすくなると思います。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

「日本発、世界へ」を基本方針に「食」に繊細なこだわりを持つ国民性を生かし、日本ならではのオリジナリティあふれるビジネスを展開する。パソコンやスマートフォンによる飲食店のインターネット検索サービスや飲食店等の経営に関わる各種業務支援サービスの提供などを主にし、日本ミシュランタイヤ株式会社との連携による「クラブミシュラン」運営や、大口株主である東京地下鉄との提携サービスである「レッツエンジョイ東京」など他者との連携サービスも豊富な会社である。

3 提案の概要

私たちは、株式会社ぐるなびから「ぐるなびが行うべきこれからの新たな飲食店支援策」というお題をいただいた。そのお題と現在の飲食店の課題を踏まえて、私たちは「ふるさとのあの味を残そうプロジェクト」を提案する。現在の飲食店の抱える課題は、新型コロナウイルス感染症対策のための時短営業や酒類の提供の禁止、県をまたぐ移動の禁止による収益の減少などが挙げられる。この提案は、地元を離れているぐるなびユーザーがぐるなびサイトを通して地元の行きつけの飲食店に寄付をするという企画である。また、寄付をした人はその飲食店の料理や、実際に飲食店で使われているドレッシングや調味料、割引券といった返礼品をもらうことができる。寄付金の一部はぐるなびの利益となる。

このプロジェクトを行うことで先ほどあげた現在の飲食店が抱える課題である収益の減少が抑えられ、閉店する店が減るだけでなく、ふるさとを離れた人もふるさとの料理を楽しむことができると考えられる。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、閉店する飲食店の数を減らすことができ、飲食業界の衰退を止めるきっかけになることがあげられる。新型コロナウイルス感染の影響で飲食店の経営を辞めようと思っている事業者たちの多くは、これまで営業出来なかったことによる経済的問題と再開しても客が戻ってくるかわからないことからやめてしまうことが多い。そこで私達が考えたプロジェクトを行えば寄付によって経済的な問題も解決でき、応援してくれる人がいるということも知れて、飲食店経営者が再び頑張るきっかけになると考える。また寄付額の目安として、私たちが地元を離れている社会人を対象に「地元の飲食店に寄付したいか」という質問に対して 65%の人がそう思うと回答し、その中で「いくらまで寄付できるか」という質問の回答を集計したところ一人当たり 2,415 円という結果になった。この結果から飲食店に相当な支援になると考える。飲食店の閉店を防ぐことや、応援してくれる人がいると知ることによって 8 番の「経済成長も働きがいも」の達成がみこまれる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・発表の構成や資料がよく出来ている
 - ・実現の可能性が高くて良い
 - ・利益モデルについてのアドバイス
- 今後の実用化に向けて必要なこと
 - ・集まった寄付金からぐるなびが得る収益の割合について決める。
 - ・協力してくれる店を募集して、返礼品などについて一緒に考える。
 - ・試験的に実施してみて、効果と改善点について調べる。

6 資料抜粋

<h3>提案の内容</h3> <p>自分のふるさとの飲食店にお金の支援をして 飲食店はお礼に料理やその店の物を送る というサービス</p> 	<h3>提案の理由</h3> <p>①感染症の影響を受ける地方の飲食店を救うため</p> <p>コロナ禍で営業をできない飲食店 ↓ コロナ収束の前に閉店してしまう</p> 
<h3>提案の理由</h3> <p>②なかなか地元に戻れない都市の人々のために ふるさとの味を味わってもらうため</p> <p>なかなか地元に戻れない人が多いことや お取り寄せグルメが流行っていることもあり ニーズがある</p> 	<h3>その飲食店にいくらまで寄付できるか</h3>  <p>平均して 1人当たり 2,415円</p> <p>→ 飲食店に相当な支援になる</p>
<h3>解決された理想の姿</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 地方の飲食店の収益が上がる • 利用者のふるさとの活気を守れる • ぐるなびの知名度や利用者、加盟店の増加につながる 	<h3>ぐるなびのメリット</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 寄付金の一部がぐるなびの利益になる • 飲食業界の衰退を抑えられる • ぐるなびの知名度が上がり、利用者・加盟店が増える

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

パワポに情報を入れ過ぎないようにし、図やイラストを使って誰が見ても分かりやすくすることを意識した。また、メンバーと情報を共有することが大切だと学んだ。

○ 感想

今の状況下で飲食店に関する提案をするのは難しかったが、私たちだからこそ考えられる提案を考えられたのが良かった。また、時間が無い中で新たな飲食店支援策を協力して考えられて良い経験を積むことができた。丁寧に対応してくださった株式会社ぐるなび様、協力して下さった先生方には大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

チーム内でしっかりとミーティングをした方がいいと思います。。班の中の数人だけで話を進めてしまうと他のメンバーは置いていかれてしまい、良い提案が出来なくなってしまいます。提案の具体的な内容をチーム全員で共有しておく、話し合いがスムーズになり、提案の内容にも具体性が出て、いいプレゼンになります。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

平成 12 年発足の飲食店情報提供サービス会社。パソコン・スマートフォン等による飲食店等の情報提供サービス、飲食店等の経営に関わる業務支援サービスなどを行なっている。「プロモーション」では、加盟飲食店・消費者を対象とした食に関するトレンド調査、データベースを活用した商品開発を実施している。

3 提案の概要

私たちの班は、貴社から頂いた「ぐるなびが行うべき新たな飲食店支援策」というテーマをもとに、コロナウイルス流行により相次ぐ飲食店の閉店と、飲食業界の衰退を食い止めるべく、飲食店出店希望者のサポートをする「レンタラント」というシステムを提案する。レンタラントとは、飲食店開業希望者に一定期間、営業場所を貸し出すサービスである。コロナウイルスの影響で飲食店が減少しているという現状を知り、私たちは少しでも飲食店数を増やしたいと思った。しかし、開業には膨大な資金や労力、開業場所が必要であるという様々な壁があり、なかなか開業するまでに至らないこともまた事実である。そこで、レンタラントにより通常よりも安い費用で開業できるサービスを提案する。

仕組みとしては、飲食店開業希望者に店舗の準備期間を約2週間、出店期間を約3ヶ月与え、ぐるなび側からは飲食店用店舗と経営ノウハウを提供し、飲食店側はぐるなびに売上の3～4割支払うと同時に、ぐるなびに加盟するという仕組みである。ネット上で希望者を募り、ぐるなび側が審査し利用者を決定する。その後、契約期限や貸し出す店舗、内装についての打ち合わせを行う。出店期間中は、毎週「今週の振り返り」を行い、アドバイスをする。出店期間終了後は、今後の希望者自身の店の出店に向けた相談も行う。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、第一には外食産業が盛り上がることだ。私たちはレンタラントを考察した際、身近な人を対象として「コロナウイルス収束後、外食に行く回数は増えると思うか」アンケートをとった。その結果、約8割が「はい」と回答した。このことから、外食産業の需要は高まると考えた。レンタラントの導入により、社会のニーズを満たすことができると考える。

また、「働き始めやすい環境づくり」や「新店舗の増加」によって、飲食店業界に賑わいを取り戻すことで、持続可能な開発目標 (SDGs) の8番「働きがいも、経済成長も」の達成が見込められると考える。

5 企業への発表を終えて

○企業からいただいた指摘や意見

- ・現在、レンタラントと似た取り組み導入のために試行しているので、今回の発表を聞いて驚きました。
- ・飲食店の開業には多額の費用がかかり、開業者をサポートするため、店舗の紹介をするアイデアはとても良いと思いますが、開業の際は働き手の収集も大変であるため、働き手の紹介もした方が良いと思います。
- ・実際にレンタラントの利用者が自身の店舗を持つようになった際の具体的な支援方法も考えられるとより良いと思います。

○発表を終えて考えたこと

- ・働き手の人材紹介についても思案したい。
- ・レンタラントの利用者をいつまでサポートしていくかも具体的に考えたい。

6 資料抜粋

飲食店サポートのために

～貸店舗を利用して飲食店出店希望者をサポートしよう～

〈課題〉
ぐるなびが行うべき
これからの新たな飲食店支援策



ぐるなびについて

ぐるなびとは…
飲食店と利用者を繋ぐ会社

強み
飲食店との強い繋がり

サポート方法

- ・ 人材採用・育成
- ・ 予約・売り上げ・発注等管理
- ・ 経営ノウハウ等の情報提供

➡ **新しくお店を始めたい人のために**

提案内容

レンタラント

【飲食店開業を目指す人に店舗を貸し出すサービス】

貸店舗：元飲食店の空きビルを活用
対象者：飲食店出店希望者
募集方法：ネットで募集→審査・決定
実施期間：目安3ヶ月


飲食店

飲食店用店舗・ノウハウ

← 売上げの3～4割・ぐるなび加盟


ぐるなび

提案の根拠



通常よりも安い費用で開業できるサービス

利点・効果



飲食店

- ・ 安く飲食店を始められる
- ・ 悩んでいる人の**第一歩**に



ぐるなび

- ・ 飲食店を**サポート**できる
- ・ 加盟店舗数が増える
- ・ 利益の一部が**還元**される



SDGs

8番 働きがいも経済成長も
働き始めやすい環境づくり
新店舗により飲食店業界が賑やかに

まとめ・感想

◎まとめ

〈課題〉 コロナの影響で飲食店が減少している

〈提案〉 **レンタラント**

- ・ 安い価格で店舗提供
- ・ ぐるなびの経営ノウハウ提供

〈効果〉 飲食店を始めたい人の第1歩となる

◎感想

- ・ 飲食業界の現状をふまえ、飲食店経営者をサポートするサービスを考えることができた。
- ・ ぐるなび様からアドバイスをいただき、実際に事業を起す上で考慮すべきことが多くあることを知った。

7 感想・後輩への一言

○学んだこと

ゼミ活動を通じて、物事を考えるにはその知識だけではなく、色々な分野や角度から見つめることが大切だと感じるようになった。また、グループ活動を行う際、互いの意見を尊重し合うことの大切さを改めて感じた。

○感想

自分たちで課題を見つけ、まずはその課題に対しての情報収集からのスタートであったので、アイデアが固定するまでに時間がかかり、大変だった。様々な方面から考え、互いに意見を出し合い、協力し合いながら発表まで至ることができ、とても達成感を感じた。また、私たちのアイデアに対して、丁寧にアドバイスをいただいた株式会社ぐるなびの方々に大変感謝している。ありがとうございました。

○後輩へ

解決したい課題を設定したら、どうしてそのような課題が生まれているのかを細かく調べること、また、アイデアを出し合った後、実際に行ったらどのようなメリット・デメリットがあるのかを具体的に考えることをお勧めします。課題の背景をよく知ることで、アイデア出しのヒントになったり、提案内容を考える上での内容との矛盾を防いだりすることができると思います。また、メリット・デメリットを具体的に考え、修正していくことで、提案内容のグレードアップを図ることができると思います。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

カメラ、ビデオを始めとする映像機器、プリンタ、マルチメディア機器や半導体・ディスプレイ製造装置などを製造する日本の大手精密メーカー。1973年に世界一のカメラメーカーを目指し創業し、そこで培った光学技術を核に多角化を進めてきた。また、50年代半ばから世界市場に目を向け事業を展開してきた結果連結ベースで74%が世界の売り場になっている。

3 提案の概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響で家で過ごす時間が増えたことにより多くの人が映像を見る機会が増えた。そこで私たちの班はスマホやパソコンなどの小さな画面ではなくもっと大きな画面で臨場感溢れる映像を全ての人に楽しんで欲しいという思いを込め、透明スクリーンを利用したプロジェクターを提案する。従来の白いスクリーンは明るい場所だと見えにくく、映像が平面的である。しかし、透明スクリーンは明るい場所でも鮮明な映像を映し出すことができ、背景と馴染むことで映し出した映像がまるでその場にあるかのように感じる事が出来る。また、透明なため影ができず、視界を邪魔するものがなくなる。

スクリーンに脚をつけることによって高さを調節できたり、置く場所を変えられるため好きな場所に置いたりすることができるようにした。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

○社会への貢献

商品全体の売り上げ増大

インパクトの高い商品を売り出すことにより、この製品はもちろん、Canonの技術をはじめ既存の商品にさらに注目が集まることが期待される。技術発展の促進があげられる。

まだ主流になっていない技術に挑戦することで他の企業に良い影響を与えると思う。

きっと個々の企業内でさらなる技術の向上や改良が行われ、世界の技術が進化していく。

消費者への利益としては生活水準と充実感の向上がある。

新型コロナウイルスによる外出自粛のため私たちは多くの不安やストレスを抱えている。解消

○SDGsへの貢献

産業と技術革新の基盤を作ろう

「強靱なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」

5 企業への発表を終えて

○ 企業からいただいた指摘や意見

- ・ コロナで在宅時にDVDを見る機会が増えて、透明スクリーンが欲しいというアンケート結果から始まったので、自宅での透明スクリーンかと思いましたが、実用例は商用中心で、ストーリーがずれた印象を持ちました。
- ・ チーム活動で分担して数ヶ月経つと、最初のストーリーからからズれてくるのは当然だと思います。仕事をしている私たちでさえズれていきますから。最終的なプレゼン資料としてまとめる上では、ストーリーの軸はぶれないほうがいいでしょう。最初を変えるか、最後を変えるか？
- ・ A チームの場合であれば、現状のプロジェクションマッピング、スクリーンへの投影における課題(問題、良くない点)をまず定義し、透明スクリーンを利用することで、課題解決を図るというストーリーでもアリだと思います。

○ 発表を終えて考えたこと

- ・ 透明スクリーンに出せる値段やどれくらい売れるのかを考えたい。
- ・ 消費者が一番使いやすい大きさを考えてみたい。

新感覚！ 臨場感溢れる透明スクリーン

私たちが考えるCanonの強み

・ブランド力
→製品力、技術力の確立
信頼性の高さ、支持力

順位	ブランド	ブランド価値 (100万ドル)
1位	TOYOTA	31570
2位	HONDA	17673
3位	SONY	12438
4位	Canon	10484
5位	Nintendo	9182
6位	Panasonic	4287

中国で企業好感度ランキング
日本企業で堂々1位！

-Japan's Best Global Brands 2009-

引用 <https://www.itmedia.co.jp/news/spu/0902/19/news009.html>
<http://msk.executive.itmedia.co.jp/executive/spu/0901/01/news061.htm>

仕組み

<http://blog.mobilehacker.jp/2016/10/899volume.html?m=1>

透明スクリーンを利用したプロジェクターとは…？

*** 従来のプロジェクター**
→壁の白いスクリーンにうつします

↓

*** 提案するプロジェクター**
→透明なスクリーンにうつします

透過スクリーンタイプの利点

- ・人の影が出来ない
→会議中などの小さなストレスの解消
- ・壁ではなく部屋などの中心に設置することができる
→正面からではなくとも見ることが出来る
- ・フィルムにするのも視野に入れることが出来る
→ガラスや床、天井につけるなど、利用の幅が広がる

まとめ

アドバイス、質問

- ・提案の商品に価格設定や収支計算があると良い
→より現実的にするため

意見

- ・Canonの課題をよく分かっていて
- ・提案する商品の課題で左右反転になるとあったが問題は無い

感想

企業の方の専門的なカメラについてのお話や、企業についてよく知ることが出来てとても良い経験になりました。今回の経験をもとに、これからも探求し続ける心を忘れずに、学習を続けたいと思います。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、同じ班のメンバーに自分の意見や考えを積極的に伝えお互いの意見を尊重し合う大切さを改めて感じた。プレゼンを作っていく中で初めに考えていた内容と結論のズレが生じてしまう事があったためチーム内で内容を把握し問題点を共有し、考えていくことが重要だと感じた。

○ 感想

昼休みや自宅での時間を活用しより良い商品の提案ができるようにした。なかなか提案内容が決まらなかったが、実際に商品の模型を作ったりして提案内容を決定することができた。

沢山の意見やアイデアをくださったキャノン株式会社様にはとても感謝しています。ありがとうございました。

○ 後輩へ

チームで授業以外にも時間を見つけ集まったり連絡を取り合うことをお勧めします。授業内では気づけなかったことに気づき内容をさらに深めていけるとと思います。また、役割分担をし班全員で課題に向き合っていくことが大切です。自分の役割を責任をもって果たすことでより良いプレゼンテーションになるとと思います。班員以外の意見も聞くといいでしょう。先生だけでなくクラスの仲間に相談することで違う視点からのアドバイスやアイデアを得ることが出来ると思います。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1937 年設立の OA 機器の総合メーカー。おもな事業内容として、オフィスビジネスユニット、イメージングシステムビジネスユニット、産業機器などを展開している。米州、欧州など海外売上高比率がきわめて高い。16 年 12 月に医療用機器を手がける東芝メディカルシステムズ(TMSC)を子会社化した。1949 年の上場以来、年間での赤字は一度もない。海外での特許出願も重視しており、2014 年末時点での特許・実用新案の保有件数は、世界全体で約 9 万 2000 件である。米国特許取得件数における日本企業中のキャノンのランキングは 11 年連続 1 位を獲得している。

3 提案の概要

私たちの班は、Canon の強みを生かし、それを違う形で広げていき、よりたくさんの人に Canon の商品についてもっと知ってもらうことを目的としてフォームの確認ができる製品『SpoAir』を提案する。スポーツをするにおいて、フォームは怪我の防止のために重要である。また、日本での選手育成をするために今までにない製品が必要なのではないかと私たちは考えた。フォームがスポーツにおいて重要である理由は怪我の防止の他にも疲れにくくなり、リラックスでき、楽にプレーができる。無駄を省くことでパフォーマンスが良くなるということだ。今まで私たちはフォームの確認を 1 人ですることはほぼなく、誰かの手を借りないといけなかった。そのため、自分のペースでの練習をしづらく効率が悪いというのが問題としてあげられる。また、自身を客観視することが出来ず、自分の目でどこが悪いのか確認しにくいというのが考えられた。そこで、私たちは機械が角度や距離を測ってくれ、自分一人でも撮影、分析ができる製品を提案する。

4 実現された時の社会への貢献、SDGs への貢献

SDGs、社会への貢献として考えられる点は 3 つある。1 つ目はすべての人に健康と福祉を供給できるという点だ。近年日本では高齢化が進み高齢者の割合が多くなっている。しかし、すべての高齢者が健康に過ごすことができる訳では無い。この商品を使うことでスポーツに興味を持ち、楽しく健康に過ごすことができるようになると考えられる。2 つ目は産業と技術の革新に貢献できるという点だ。様々な分野での産業や技術が成長している中、新たな商品が開発されることにより様々な視点から物事を見ることができ、より高性能な技術を生み出すことができると考えられる。3 つ目はパートナーシップなどの「繋がり」を大切にすることができるという点だ。良い商品は 1 つの企業や会社だけでは生み出すことができない。多くのスポンサーや企業が連携することによって素晴らしい商品が開発されると考える。これらを SDGs に当てはめると、3 番[すべての人に健康と福祉を]、9 番[産業と技術革新の基盤を作ろう]、17 番[パートナーシップで目標を達成しよう]の達成が見込まれると考える。

5 企業への発表を終えて

○企業からいただいた指摘や意見

- ・ 提案内容がソフトウェアかハードウェアどちらかはっきりしていない。
- ・ 1 年後、2 年後にの利益がどれほど増えるか予測を立てておくと言得力が増しより良い。

○発表を終えて考えたこと

- ・ 宣伝方法をより具体的に提示して伝わりやすくすべきだった。
- ・ SDGs との関連性をはっきりと伝えるべきだった。

6 資料抜粋

企業の強み



- ①各事業分野で世界トップシェアの製品を持つ
- ②「多角化」と「グローバル化」で製品・地域それぞれにバランスが取れる
- ③医療機器も手がけている



スポーツマンのための 持ち運べる小型カメラ

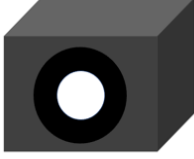
スポエア
SpoAir

○提案理由
東京オリンピックが開催され、スポーツに対する関心や興味が高まったと考え、スポーツに関する商品を提案したいと思った。

小型カメラでフォーム撮影→スマホアプリと連動→様々なフォーム分析が可能

高さ 7.5cm
横 7.5cm
幅 5.0cm

持ち運び可能

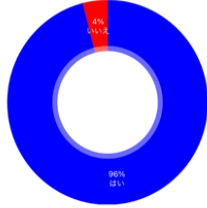


○ナイトモード
○焦点距離16-25mm

映像比較

軌道確認

自分のフォームを確認したい と思ったことがあるか



96%

「はい」と回答

総回答300件

提案実現のメリット

- 利用者側
 - ・選手の育成
 - ・より効率的にスポーツができるから脱却→注目度up
 - ・正しいフォームによる怪我防止
- 企業側
 - ・固定化された企業イメージから脱却
 - ・今までと異なる利用者が増える

●解決されるSDGs

- ①スポーツによる健康促進→3(全ての人に健康と福祉を)
- ②分析という珍しい技術→9(産業と技術革新の基盤を作ろう)
- ③選手と指導者の間でより良い関係を築く→17(パートナーシップで目標を達成しよう)

まとめ・感想

○まとめ
この『Spo Air』はこれからのスポーツにおいて必要であり、実現可能なものと確信する。
どのような性能になるのかもっと詳しく調べることが必要である。

○感想
製品を考えて行く中でどういうものが手に取りやすいのか、ターゲットをどうするのか、値段をどうするのか、今まで自分たちで1から製品を考えたことがなかった分、考えることが難しく苦労した。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通して、1 から商品を考えることの大変さや、その商品が社会にどのような影響を与えるのなど、主観的ではなく、客観的に物事を見て判断することが大切だと学んだ。また、SDGs を視野に入れて、今後の経済活動を考えることの必要性を学んだ。発表時には、自分たちの考えを分かりやすく伝えるための根拠や資料などを工夫して作ることが大切だと感じた。

○ 感想

時間が少ない中、週に1回のMC探求の時間を大切にしたり、休日に集まって話し合いを進めたりして、時間を有効的に使うようにした。作業を分担したりして、メンバー全員で助け合って進めることが出来た。とても丁寧に対応していただいたキャンオン株式会社様には大変感謝している。本当にありがとうございました。

○ 後輩へ

パワーポイントで作るスライドは分かりやすくインパクトのある画面を作ることが大事だ。アニメーションを使いフォントを見やすくするなどの工夫、実際のアンケートやデータを使うことが有効だと思う。あらかじめ企業のことについて十分に調べることでアイデアを実現するための手助けになると考える。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1995年の創業以来半世紀以上にわたり、日本におけるエネルギーの安定供給に貢献している。長年の石油・天然ガスの E&P(探鉱・開発・生産)で培った、豊富な実績と確かな技術力を保有。また、脱炭素社会の実現へ貢献するため、カーボンニュートラル技術の確立や商業化に向けた取り組みを進めています。

3 提案の概要

私たちは JAPEX の課題を「E&P 事業の過程で CO₂が排出される」と定めた。これを改善するものとして、藻類培養ビル「MOYUX」を提案した。MO(藻)×YU(油)×X(JAPE「X」)で MOYUX とした。この施設では「ボトリオコッカス」(緑藻の一種で光合成を必要とする)と「オーランチオキトリウム」(有機物をエサとして増殖)という二つの藻を培養する。これらは共にオイルを生成する。建物は階層構造であり、《屋上》では光合成を必要とするボトリオコッカスを育て、を CO₂吸収させる。次に水槽の水は《四階ろ過室》で水とボトリオコッカスを分け、オイルを抽出する。この際発生したしぼりかすを《3 階オーランチオキトリウム水槽》に溶かし入れエサとする。そして水槽の水を《二階ろ過室》でろ過、《地下一階貯水槽&温度調節室》で調温し、ポンプで組み上げて屋上水槽に戻す。(循環型)という仕組みだ。このビルは油ガス田や火力発電所に隣接させそれらから排出される CO₂を吸収する。このように「MOYUX」は CO₂をエネルギー資源に変えることが出来る画期的なビルである。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響は地球温暖化の対策に繋がるということだ。温暖化によって、世界の平均気温は上昇を続けている。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第5次評価報告書(2013～2014年)によると、1880年から2012年の間に0.85℃上昇したという結果が出た。地球温暖化の原因は二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの増加である。現在日本の一年間で排出される二酸化炭素の質量は110億トン。日本の人口は1億2500万人国民1人当たり、8.8トン。MOYUX 一台あたりで、CO₂を7672トン吸収すると、 $7672 \div 8.8 = 872$ 人分程度。これは、わずか0.000698%でしかない。しかしこれは大きな一歩であり、このようなものが普及することで、地球は変わるのではないかと考える。解決されるSDGsは7番「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」と13番「気候変動に具体的な対策を」である。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ どうして今までに、このような藻類を利用した施設が普及してこなかったのか。
 - ・ 高校生らしく、斬新な考えでよかった
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 難しい言葉や専門的な言葉もあり、初めて見る人の立場となって考え、よりわかりやすい言葉にしなければならない。
 - ・ 自分たちがイメージするものを相手に理解してもらうことは非常に難しい。
 - ・ 抑揚をつけ、特に伝えたいことを強調する練習が必要だと思った。

6 資料抜粋

<div style="text-align: center;"> <h3>ChangeCO₂</h3> <p>～これからの未来を考えて～</p> <p>藻類を利用して排出されるCO₂を削減し、新たなエネルギー資源を生み出す</p> <p>CO₂ 吸収 ⇒ 藻 生産 ⇒ オイル</p> </div>	<h3>JAPEXの概要と強み</h3> <p>石油・天然ガスを掘削し、消費者に輸送・供給 = E & P 事業</p> <p>技術本部において探鉱、開発、生産、輸送までの一貫操業ができる!!</p> <p>しかし E&P事業の過程でCO₂が排出される</p> <p>➡ JAPEX…炭素税などの対応が求められる可能性がある 環境…地球温暖化の加速に繋がる</p>
<h3>MOYUXの構造</h3> <p>ポンプ式水汲み上げ機</p> <p>ろ過機械装置</p> <p>ろ過機械装置</p> <p>貯水槽(地下) & 温度調節機</p> <p>光合成</p> <p>しぼりかす</p>	<h3>オイル生産量</h3> <p>ボトリオコッカス + オーランチオキトリウム ⇒ MOYUX 1台で合計で年間約</p> <p>11.25t + 2500t ⇒ 2511.25t</p> <p>オイルが炭化水素とすると</p> $2511 \times \frac{120}{142} \times \frac{1}{12} \times 44 = \mathbf{7672.5t}$ <p>のCO₂を吸収していることになる!!</p>
<h3>提案実現のメリット</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●CO₂を削減できる ●バイオ燃料を生産できる ●炭素税の負担軽減につながる ●CO₂の排出を削減した地球に優しい会社という印象が持たれ、JAPEXのイメージがUP! 	<p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> •CO₂を吸収し、新たなエネルギー資源を生み出してくれる「MOYUX」は、これからの地球温暖化に対処してくれると考えられる。 •また、経済効果にも期待ができる。 <p>○感想</p> <ul style="list-style-type: none"> •藻類からオイルが抽出でき、また、予想以上のCO₂を吸収してくれることに驚いた。 •JAPEXの皆様が、質問に丁寧に回答して下さい、大変ありがとうございました。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

環境に対しての利益と、企業に対しての利益を同時に満たすもの考えることは難しいということを学びました。また、相手に伝えやすい PowerPoint の作り方や、話し方を考え、身につけることができました。調べていく中で、新たに知った環境のことや知識が多量にあり、知識面でも多くのことを学びました。

○ 感想

話し合いをしていると、次から次へと疑問や問題が出てきて、納得のする提案まで辿り着くのに、かなりの時間がかかりました。また、化学的な視点と経済的な視点を両立させることも非常に難しかったです。しかし、長い間試行錯誤したおかげで、自分たちでも驚くような完成度の高いものになったと思います。

○ 後輩へ

私たちが一番伝えたいことは、チームワークの大切さです。仕事を分担し、協力することでメンバー全員の方で作り上げることができます。また、話し合いの際には客観的な視点を失わないように、考えを述べる役割とそれを聞いて意見する役割とに分けて班内でもミニプレゼンテーションを開きました。一人でできることには限界があります。仲間を信じ、愛して一つのものに向かってみてください。また、MC 探求の時間では絶対に足りないので、昼休みや放課後などの時間も使うことをお勧めします。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

石油資源開発(JAPEX)は、東京に本社を置き、国内を中心とした石油・天然ガスのE&P(探鉱・開発・生産)を担う会社として1955年に創業。また、天然資源のみならず、ガス発電などの発電、供給を行い、将来の国産エネルギーとして期待されるメタンハイドレートの生産技術の確立、商業化を目指している。強みとして、地層構造を調べる三次元地震探査技術、CCSなどの先端技術を保有している。

3 提案の概要

私たちの班は、JAPEX の強みである3次元地震探査技術を生かした、新たな持続可能エネルギーとして、地震発電を提案する。現在、JAPEX では、枯渇性資源に頼り、二酸化炭素を排出するエネルギー供給を行っている。そこで、この発電方法を提案する。

場所の予測が可能で、継続的に発生する、火山性地震を利用する。火山周辺地域で、3次元地震探査を用いて、揺れの増幅に適した地層を見つけ出し、発電装置となる支柱を埋める。支柱上部に水を入れ、油圧発電装置を取り付ける。これにより、地震の揺れで支柱内の水を振動させ、波力発電のしくみを応用して発電することができると考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、二酸化炭素が排出されないことから、地球温暖化などの環境問題が解決されるということがあげられる。日本では、現在発電方法の約 75%を火力発電が占めており、日本が排出する二酸化炭素のうちの約 40%が火力発電によって発生している。大量に排出された二酸化炭素は、地球温暖化だけでなく、異常気象や海面上昇なども引き起こしてしまう。地震発電が実現され、日本のエネルギー供給の大部分を占めるようになれば、これらの環境問題の解決に繋がる可能性がある。また、日本の地震が多いという特徴を生かしているため、地震のマイナスイメージをプラスにできるという利点もある。今後地震の予測ができる時代になったら、より様々な場所で、大きなエネルギーを得ることができると考えられる。

自然現象を利用し、石炭、石油を使用せずに発電できることから、持続可能な開発目標の 7 番[エネルギーをみんなに、そしてクリーンに]、13 番[気候変動に具体的な対策を]の達成が見込まれると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ エネルギーの貯め方について、もっと詳しく調べ、考えたほうが良い。
 - ・ 3次元地震探査は、現在まで、地下深くに埋まっている資源を調べるために使用していたため、今回の地下表面に使用するという方法は、目から鱗だった。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 現在ある蓄電方法を生かした、エネルギーの貯め方を考えたい。
 - ・ もっと効率良く発電できる方法があるのではないか。
 - ・ 支柱の埋め方や埋める深さによって、発電効率が変わるのではないか。

6 資料抜粋

～地震発電～

持続可能なエネルギー供給

二酸化炭素を排出しない、環境に良いエネルギー供給をできるようにする

企業の強み

- 石油・天然ガスの探鉱から供給までを自社グループで完結できる
- カーボンニュートラルへの取り組み
例：CCS(CO₂の回収・貯留)
- 新エネルギー開発に意欲的
例：メタンハイドレート

•3次元地震探査技術

利用する地震

•火山性地震 →

メリット：場所が予測できる
発生回数が多い
継続的に起こる

デメリット：規模が小さい

揺れを増幅して小さい揺れから大きなエネルギーを

火山性地震、孤立型微動発生回数

発電の仕組み

3次元地震探査によって揺れを増幅できる地層を探す

地震がおきると…

そこに発電装置となる支柱を埋める

支柱が振動を受ける
↓
支柱の中(上部)に水を入れて、水を揺らす
↓
水の揺れから電気を起こす(波力発電の仕組みを生かす)

地震発電のメリット

- 地震のイメージを良い方向に
- 枯渇資源に頼らない発電
- 日本の地震が多いという特徴をいかす
- 災害時に電力を供給できる
- CO₂を排出しないクリーンな発電

企業のメリット

- 先端技術の使用によるイメージのUP
- 他に例のない発電方法により注目を集める

7 2014-2016年 EPCO 地球エネルギー

全ての人々に手ごろで信頼でき持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

↓

自然現象を利用しているため石炭、石油を使わない

↓

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策をとる

↓

気候変動=地球温暖化=CO₂原因

13 気候変動に具体的な対策を

まとめ・感想

○まとめ

- CO₂を排出しない、環境に配慮したクリーンなエネルギー供給である
- 他に例のない発電方法によって企業に注目が集まる

○感想

- JAPEXの数々の独自の技術がたくさんあり、驚いた
- 企業の皆さんからお褒めの言葉や、適切なアドバイスをいただき、とてもありがたかった

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、提案をする際に提案内容を裏付けるデータの提示、文字の大きさなどのスライドの見やすさを意識するようになった。また、個人で考えたことをグループで共有することで新たに気づくことがあり、意見の共有が大切だと感じた。

○ 感想

発表が近づくにつれてグループでの協力が深まり全員で最後までやりきることができてよかった。活動を始めたころは何を提案すればいいかが中々決まらず、中間発表ギリギリになり苦労した、そんな中で先生からアドバイスをもらい提案内容を深めることができ、とてもありがたかった。

○ 後輩へ

活動を始めた最初は何を提案したらいいかわからないと思うので、まずは軽く思い浮かんだものでも文字に残しておくことが大事だと思います。また、自分たちが考えたアイデアを先生に共有することで自分たちの気づかないことを教えて下さると思うので、ぜひ相談することをおすすめします。パワーポイントなどの提出は部活の大会やほかの科目でやらなければいけないことが出てくるので、期限一週間前にはある程度仕上げておくことが重要だと思います。

NEWSELECT

～自分が読みたい記事を選択できるシステム～

【株式会社朝日新聞社 A 班】

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

1879 年(明治 12 年)1 月 8 日に大阪で創立した新聞会社。新聞以外に、高校野球や吹奏楽・合唱コンクールの主催、展覧会やイベント事業の運営などを行なっている。

3 提案の概要

私たちの班は、新聞のコストが高いことや新聞を読む習慣がないといった理由から近年の新聞購読者が減少していることを課題とし、それを解決するために自分が読みたい記事を選択できるシステムを導入することを提案する。新聞を読まない人達にとって、新聞は 1 部の量が多いため全て読みきれなかったり、読み始めても毎日継続できないということが問題点として挙げられる。そこでまずはそのような人達に、自分の読みたい記事に興味を持ってもらうことから始め、そこから視野を広げ様々なテーマに関心を持ち、購読者にとって身近で継続しやすく、更にコストの削減を図るといったシステムを考えた。

この提案の 1 つの問題点は、読みたい記事だけ選んで読むということは読者が様々なテーマに触れる機会を妨げ、新聞の良さである「広い視野を持つ力が身につく」というものが失われてしまうことである。そこで全てのテーマの要約をテーマ別に掲載したものを 1 つの記事とし、それを全ての購読者に配布することで各々が選択したテーマ以外のものにも触れる機会を作り、この問題を解消できるのではないかと考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGs への貢献

実現されたときに社会に与える影響として、第一には新聞購読者が増えるということが挙げられる。私たちが考えたこのシステムでは、自分が興味のあるテーマの記事を選択できるということから、従来の新聞と比較して手に取りやすさと継続しやすさという点で優れていると考えられる。現在、新聞購読者の約 8 割を高齢者が占めているが、このシステムを導入することによってより多くの世代の人達に新聞を読んでもらえるだろう。

また選択式の新聞にすることにより、新聞 1 部の作成にかかる紙の量が減ることが想定される。更に、新聞を印刷する上で余分に印刷された新聞や家庭から出る読み終わって必要なくなった新聞をリサイクルすることは紙資源の使用量の削減になると考えた。このシステムを導入した場合、家庭ごとに選択する記事が異なるため、記事ごとのおおよその発行部数を推定できたとしても余分な新聞の発行を抑えることは難しい。そこで新聞の再利用を今より促進できれば、廃棄物の発生防止に繋がると考えた。このことから、SDGs の 12 番[つくる責任 つかう責任]の達成が見込まれる。

5 企業への発表を終えて

○ 企業からいただいた指摘や意見

- ・ インターネットが普及している中で紙新聞の問題解決に取り組んだが、紙新聞にこだわる理由はなにか。
- ・ なぜ紙新聞はなくならないと思うか。
- ・ 新聞を選別し、配達する際にかかる手間を改善するにはどのようにすればいいと思うか。

○ 発表を終えて考えたこと

- ・ 紙新聞がなくなりデジタル新聞が普及していった場合、インターネットを利用しない人達にとっては情報源が失われてしまうため、情報格差が広がってしまう。それを防ぐために紙新聞は必要だと考えた。
- ・ 現在の新聞購読者の約 8 割が高齢者であり、高齢者にとって新聞は紙であるということが一般的なのではないかと思った。
- ・ 各家庭に番号を配布しその番号と新聞に割り振る番号を一致させることで配達員の手間が軽減されるのではないかと考えた。

6 資料抜粋

【提案企画】

NEWSELECT

NEWS × SELECT

◎自分が読みたい記事を選択できるシステム

量が多く、手に取りにくいことが問題
↓
誰にとっても手に取りやすく、継続したいと思える新聞
自分の読みたい記事から興味を持ってもらう

【朝日新聞社について】


- 事業内容
 - ・新聞、デジタルメディアによるコンテンツ事業
 - ・展覧会のイベント事業
 - ・スポーツ大会開催
- 強み
 - ・知名度の高さ
 - ・デジタル配信コンテンツの豊かさ

【提案詳細】

□社会 □経済 □政治 □国際
□スポーツ □IT・科学 □文化・芸能 etc...

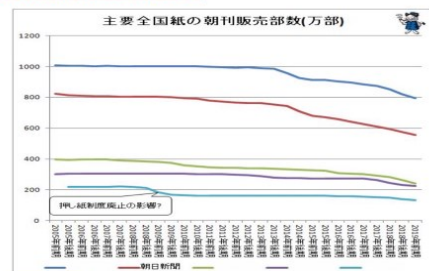
↓
自分が読みたい記事を選択

手に取りやすい
継続しやすい



コスト削減

新聞購読者の減少



<https://news.yahoo.co.jp/byline/fuwarako/20191003-00145036>

【今後の未来とSDGs】

- ・自分が興味のある分野を選択出来るようにすることで、新聞を手に取りやすくなり、習慣として読めるようになる
- ・安価で手に入るようになる→**購読者が増える**

○新聞1部の作成にかかる紙の量が減る
○新聞紙は再利用が可能である

↓

紙資源の使用量の削減、廃棄物の発生防止

感想

- ・高校生のうちではなかなかできない貴重な経験ができた。
- ・途中、行き詰まることもあったが、プレゼンを完成させた後の達成感が大きかった。
- ・班のみんなで、課題解決のために話し合い、協力することができた。
- ・課題解決の方法や、プレゼンの仕方を学ぶことができた。
- ・プレゼンはとても緊張したが、企業の方々が真摯に聴いてくださり、とても嬉しかった。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

解決すべきだと自分達で考えた課題に対して、提案を深めるために話し合うことはとても大切だが、視野が狭まってしまいうこともあったため、アンケート等を実施して、他者の意見に触れることも大切であることがわかった。また、その意見を組み込んだ提案を仕上げることの難しさを知った。資料を作成していく中で、データを用いる場面が多々あったが、年代が古すぎたり、情報が伝わりにくかったりすると説得力が欠けてしまうので、その点にも気をつけながら資料を選別する必要があると思った。

○ 感想

この活動を通じて、高校生ではなかなかできない貴重な体験をすることができたと思う。活動を進めていくごとに、新たな課題が見つかり、行き詰まることも多かったが、その分プレゼンを完成させた後の達成感は大きかった。また、企業の方々には真摯に私たちのプレゼンを聴いてくださり、多くの質問やアドバイスを頂けてとても嬉しかった。朝日新聞社の皆様、本当にありがとうございました。

○ 後輩へ

初めはとにかくたくさん問題点と解決案を出し、そこから現実的に実現可能なのだろうかなどといった点から自分たちの提案が企業の方にとって利益になるかを考えて意見をまとめていくと良いと思います。班で意見がある程度まとめてから詳しい内容を考えていく過程でとても時間がかかるので、なるべくそこに時間が使えるように余裕を持って活動が進められると良いと思います。班で企業のためにこうしたいという目標を明確に決めて頑張ってください。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

株式会社朝日新聞社は全国紙「朝日新聞」を発行する日本の新聞社である。ニュースサイト「朝日新聞デジタル」の運営も行う。産業経済新聞社「産経新聞社」などとともに大阪を発祥とする新聞社であり、現在でも登記上の本店は大阪に置いている。新聞以外に雑誌、書籍の出版や芸術作品の展示、公園などの文化事業や全国高等学校野球選手権大会といったスポーツ大会などの開催など幅広い事業活動も行う。

3 提案の概要

私達の班は、若者の紙離れ、政治的無関心、インターネットの急激な普及などの今日の状況を踏まえて、朝日新聞デジタルに、新機能である「ニュースマスター(子供向け学習コンテンツ)」を追加することを提案する。現状として、朝日新聞のみならずどの新聞社も発行部数及び売り上げの減少という大きく深刻な問題を抱えている。このような状況に陥った一つの要因として、急速なスマートフォンの普及があげられる。それにより、わざわざ紙の新聞を購入して記事を読まなくても、ネット上にある記事によって情報を手に入れることが可能になった。朝日新聞社は電子新聞「朝日新聞デジタル」というサービスを行ってはいるものの、利用者数の増加は鈍い。そこで私たちは、将来の日本を担う存在である小中学生に向けたクイズ形式ゲーム「目指せ！ニュースマスター！」を考案した。このゲームでは、政治のみならずスポーツ、その他近頃の出来事に基づいたクイズが出題される。それに答えて、正解した場合、ポイントを獲得することができ、それによって自らのアバターが成長する。また課金をすることによって便利な機能やキャラスキンが手に入る。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

ターゲットである小学生と中学生が、この機能を利用し、遊んでいく中で、新聞特有の堅苦しさをなくし、自然な流れで世の中の出来事に詳しくなることができる。そして詳しくなるにつれて、社会科目の勉強に意欲的に取り組めるようになり、大学入試にも恩恵をもたらす。そして彼らが家庭を持った後に朝日新聞を購読し、また自分の子供にも目指せ！ニュースマスターを使用させることにより、良いサイクルが形成されていく。これが選挙における若者の投票率の低下に一矢報いるであろうと我々は考えた。そしてこれは SDGs の4番である「質の高い教育」に強く結びつく。

5 企業への発表を終えて

朝日新聞社の皆様からは、この機能を小中学生のみならず高校生にも利用してもらうにはどうしたらよいか。というご指摘を頂いた。またこの提案を大学入試「特にAO入試」にからめていくのはどうかというご意見もいただいた。他には、若者を相手として考えた際に、遊び要素を持たせたアイデアという点でよいというお褒めの言葉もいただいた。

6 資料抜粋

目指せ！ニュースマスター！～新聞の危機を解決～

提案内容

- ・アプリ「朝日新聞デジタル」に子ども向けニュース学習コンテンツ「目指せニュースマスター」を追加する

提案理由

- ・企業の課題の解決につながる
- ・子供が利用→将来的に朝日新聞デジタルの購読者数が増加
- ・子どもの利用→親が購読するきっかけになる
- ・社会の課題の解決につながる
- ・幼いころから新聞を読む→世の中の出来事への関心が高まる

背景

- ・インターネット・スマホの普及

株式会社朝日新聞社の強み



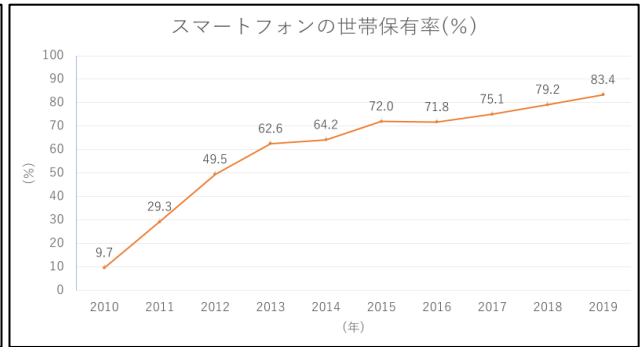
- ・知名度が高い新聞社
- ・日本の全国紙の中で第2位の発行部数
- ・デジタル新聞に力を入れている

朝日新聞 DIGITAL


クイズ形式で楽しく新聞を読める学習コンテンツ
自分で作成したキャラクターの育成ができる



→Level up



提案の利点



将来の購読 親の購読 社会への関心

まとめ・感想

- ・**まとめ**
- ・「目指せ！ニュースマスター！」によって将来的に購読者数の増加が見込めると考える
- ・ターゲット層である若者に効果的な提案である
- ・**感想**
- ・新聞業界の厳しい状況を知ることができた
- ・若者と新聞をつなげるにはどうしたら良いかというところが最も難しかった
- ・株式会社朝日新聞社の方々に温かい雰囲気での発表を聞いていただけたことがありがたかった

7 感想・後輩への一言

○学んだこと

このゼミ活動を通して、分かったことがある。それは、悩み苦しむぶつかり合った先に画期的な案が生まれるということである。よいアイデアがでなくてもがき苦しむことは決して悪いことではない。むしろ自分たちは、社会に出てから経験するであろうことをこのような形ではあるものの経験させていただいたと思ってる。協力する力がこの先も大いに必要になることを知った。

○感想

自分たちは旧案を現実的に考えていく段階で壁に直面した。今思うと、もっともっと班員で話し合っただけで旧案に画期的なアイデアを生み出し付け加えてもよかったのかもしれない。だが私たちは、旧案の要素を含んだ新案を提案することに決めた。正直、自分たちは、夏休みの活動が少なすぎた。それによって夏休み明けの締め切りなどに間に合わせるのに精いっぱいになってしまった。班員全員でぶつかり苦勞し悩みぬいて何かを生むのがゼミ活動なのだと思う。それからはみんなで活動する機会が増えたので、いい発表ができたのだと思う。

○後輩へ

ゼミ活動を行っていく上で一番重要といっても過言でないことは、班員全員で議論し、悩みぬくことです。そのほうが、より良いアイデアも出ます。決して特定の人だけで話を進め、ほかの班員の人に共有できていないという状況を作ってはいけません。そして締め切りにギリギリになり、徹夜しなくてはならないという状況にもなりません。LINEグループなどをうまく活用して、役割分担をしっかりと、よい発表ができるように、頑張ってください。

骨にゴムを組み込んだ傘

【横浜ゴム株式会社 A 班】

～ゴムの力でビニール傘の廃棄を減らそう～

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

大正6年創業の大手企業。タイヤ事業のほか、スポーツ用品や情報処理サービスなども行っている。特にタイヤ事業では世界有数のプレミアムカーの技術承認を取得しており、企業の強みとなっている。

3 提案の概要

私たちの班は、横浜ゴム株式会社について調べたうえで、企業の解決すべき課題として、「タイヤ事業以外でのイメージがない」ということが浮上した。この課題を解決すると同時に、環境課題に取り組むことにより、企業イメージ向上を狙えるものとして、骨にゴムを組み込んだ傘を提案する。大量生産と大量消費が当たり前の現代社会では、使わなくなった物の不法投棄や、ゴミとなった物の廃棄方法など多くの課題を抱えている。

そこで、私たちが目をつけたのは不法投棄が多いビニール傘である。今日の日本は一人あたり約3,3本の傘を所持する傘大国であるがゆえに破損による不法投棄や廃棄量も多いことが現状だ。この問題を解決するために、骨にゴムを組み込んだ破損しにくい傘をつくるという考えに至った。傘に使用するゴムは硬度40°のシリコンゴムである。シリコンゴムは耐熱・耐寒・耐侯・耐油性に優れているため、傘に使用する素材として最も適しているといえる。このシリコンゴムを、傘の主な破損原因であるダボという部分に使用することで、曲がっても折れる可能性が極めて低い傘を作ることが可能になり、それにより横浜ゴム株式会社の企業イメージの向上と不法投棄や廃棄による環境破壊を防ぐことができると考える。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、不法投棄や廃棄による地球温暖化や環境破壊の抑制につながるということが挙げられる。現在の日本ではビニール傘のほとんどが埋め立て処理されており、これを続けていけば近い将来限界を迎えることは明らかである。また台風が多い日本では、駅や道端などに壊れた傘が不法投棄されている場面をよく目にするのではないだろうか。ビニール傘に使用されているビニールは自然の力で分解することは難しく、長い時間残ってしまう。しかし、先ほどの提案が実現すれば、不法投棄や廃棄の大幅な減少が見込まれる。また、先日 Instagram で『傘の破損時に怪我をした、またはしそうなことがあるか』というアンケートを88人に行った結果、約半数である36人が『はい』と回答した。このことから、この傘は破損時の怪我の防止にも期待できるといえる。

5 企業への提案を終えて


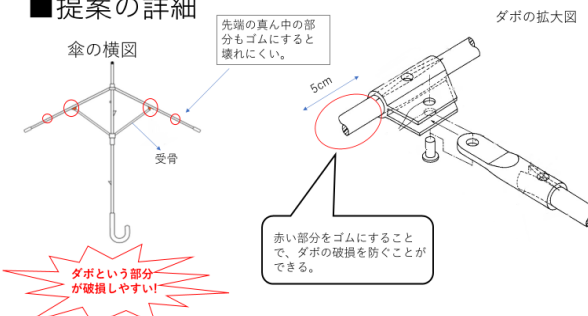

○企業からいただいた指摘や意見

- ・環境への取り組みを行う企業として社会からの評価があがることを見込まれるが、ビジネスの面で考えると実現は難しいのではないかと。

○発表を終えて考えたこと

- ・アイデアの方に時間をかけすぎてしまい、ビジネス面はほとんど考えていなかった。どちらもバランスよく考える必要があると思った。

6 資料抜粋

<p>■提案</p> <p>『 骨にゴムを組み込んだ傘 』 ～ゴムの力でビニール傘の廃棄を減らそう～</p> <p>傘の破損しやすい部分にゴムを使用し、強い風が吹いても折れにくい傘を作る</p>	<p>■横浜ゴムの強みと課題</p> <p>〈強み〉 ①数々の実績が証明する高い技術力 ②世界で数社の生産財タイヤのスペシャリティ ③多品種と少量生産が可能な生産方式 ④ニーズにマッチした商品をタイムリーに生み出す研究開発体制 ⑤充実したグローバルネットワーク</p> <p>〈課題〉 タイヤ事業が中心 ↓↓↓ <u>車などに乗らない世代に興味をもってもらえない</u></p> 				
<p>■提案の詳細</p>  <p>ダボの拡大図</p>	<p>■提案の詳細</p>  <p>①環境汚染の抑制を期待できる →破損が原因の不法投棄、廃棄の減少 →温暖化の抑制、環境問題の改善</p> <p>②傘の破損による怪我の防止 Q:傘の破損時に怪我をしそうになった、またはしたことがあるか？</p> <table border="1" data-bbox="901 806 1220 884"> <tr> <td>36</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>「はい」への投票数</td> <td>「いいえ」への投票数</td> </tr> </table>	36	52	「はい」への投票数	「いいえ」への投票数
36	52				
「はい」への投票数	「いいえ」への投票数				
<p>■横浜ゴムへの利益</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新事業として取り掛かることができる →ゴムの使い道が広がり、全世代に関心をもってもらえる ②ゴムの需要が増える ③環境問題の解決に積極的に取り組んでいる企業として話題になる →企業イメージのさらなる向上 ③日本より年間降水量の多い国に対しても有効 <p>→ 海外シェアが可能！</p>	<p>■まとめ・感想</p> <p>○まとめ ・長く愛用できる傘を作ることは、大量生産大量消費が当たり前の現代社会において重要なことであると考える。 ・環境にも人にも優しい商品である。</p> <p>○感想 ・SDGsのなかには私たちの生活を少し意識するだけで解決に貢献できるようなものがあることに気が付いた。 ・ビジネス面での提案内容が不足していたにもかかわらず、横浜ゴム株式会社の皆さんが優しいアドバイスや感想をくださってありがたかった。</p>				

7 感想・後輩への一言

○学んだこと

みんなで話し合い、考える大切さを学んだ。私たちの班は傘の構造に非常に悩み、多くの時間をかけて話し合いを行った。その結果上記のような構造に至り、さらにその案を深めるために話し合った。話し合うことは今後の生活の中で問題を解決するときにも最も重要なことだと思う。この探究活動での経験を活かしていきたい。

○感想

私たちの班は当初、別の提案をする予定だった。しかし、その提案について話し合いを進めていくうちに、実現が不可能であることが予想されたため、提案内容の大幅な変更を行った。夏休み明けまで提案の詳細が決まっていなかったが、企業の方のアドバイスをもとに、班員で話し合った。企業の方々には未熟な部分が多い私たちのプレゼンテーションを真剣に聞いてくださった。ありがとうございました。

○後輩へ

まず班員と仲良くなることをお勧めします。私たちはほとんど初対面だったので、最初のうちは何も話せない状態で、話し合いなどできる雰囲気ではありませんでした。このように仲が良くないと、話し合いも満足にできません。なので、最初の一時間は仲良くなることに徹して下さい。そしてある程度仲が良い状態で提案について沢山話し合ってください。いいアイデアが出ると思います。頑張ってください。

1 メンバー

◎ 小黒 一樹	○ 小池 咲羽	中津 慧	濑谷 拓希	藤原 柊
---------	---------	------	-------	------

2 会社概要

古河グループのタイヤ・ゴムメーカー。2016 年度のタイヤ販売額シェアで、日本国内ではブリヂストン、住友ゴムに次いで第 3 位。世界では8位である。日経平均株価の構成銘柄の一つ。ヨコハマタイヤのブランド名で知られる。ドイツのコンチネンタルタイヤの販売元のひとつ。主な事業として、タイヤ事業・MB(マルチブル・ビジネス)・ATG 事業など。

3 提案の概要

私たちの班は横浜ゴムの強みを生かし、企業の知名度を高め、乳幼児および高齢者の住宅内での事故を防ぐものとして、Rug Rubber を提案する。現状、高齢者の事故は住宅内が 70%をこえている。また、乳幼児の事故も住宅内で多く発生している。これらの問題は少子高齢化が進むにつれて、多くなっていくと考えられる。そこで、横浜ゴムの高い技術力を利用して、柔らかいゴムマットを製造することを提案する。

タイヤのリサイクル率は約 90%を誇っており、高いリサイクル率である。しかし、未だ 7%ほどは埋め立てなどがされている。廃タイヤを回収して、それをゴムチップに加工する。この製品の主な素材はゴムチップとなっているため、廃タイヤをリサイクルして、この製品は製造される。ゴムの特徴である柔らかさを活かして、住宅内での事故を軽減する。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、高齢者と乳幼児の住宅内での事故の減少とタイヤのリサイクル率の向上が考えられる。Rug Rubber はゴム製であり、ゴムの特性である滑りにくさ、柔らかさを持っている。これによって、高齢者や乳幼児の住宅内での事故での軽減につながり、その後のケアにかかる費用や負担の軽減につながると考えられるし、保護者が子供を安心して育てることができるため少子化対策になるとも考えられる。また、タイヤのリサイクル方法に、Rug Rubber の製造が加わることで、リサイクル率の向上につながり、埋め立て 0%を進めていくことができると考える。

この Rug Rubber を使用することで、高齢者が自分の足で歩けること、子供が安全に遊べることを支えていくことができる。タイヤを再利用し、リサイクル率の向上につなげられる。このことから、SDGs の 3 番[すべての人に健康と福祉を]、7 番[つくる責任つかう責任]の達成が見込まれると考えられる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・中間発表の時は外の道をゴムで舗装するという案でしたが、それを住宅内に持ってくる際に工夫した点や考えたことはありますか？
 - ・Rug Rubber の表面に何も貼ってないと、液体をこぼした時に染みてしまうのではないかと？
 - ・中間発表の時よりも提案内容に具体性が増していて、良いと思った。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・Rug Rubber の表面に薄いシートなどを貼ることで、液体などのこぼれに対策できると考えた。
 - ・もう少し具体的な値段設定を考えたい。
 - ・ゴム製品は、他の素材と混ぜることもできるので、実用化を目指すには、他の素材を混ぜることも考えたい。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1910 年創業、1920 年設立の大手電機メーカーで、IT、エネルギー、インダストリー、モビリティなど様々な分野で事業を進めている。その技術力の高さから通称「技術の日立」と呼ばれている。また、全世界に製造・販売拠点を置き、売上の半分以上を日本国外からもたらされるという多国籍企業である。

3 提案の概要（企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く）

私たちは日立製作所の進めている鉄道のインフラ事業に着目し、鉄道を中心とした公共交通機関の利便性を向上させたいと考え、多彩な機能を搭載したアプリケーションの作成、駅の改札のリニューアルを提案する。アプリケーションの作成は、既存のアプリ「Ringo pass」を活用したものを考えた。ルート検索や切符の購入、Suicaでのキャッシュレス支払いなどが 1 つのアプリで完結することができる。複数のウェブサイトやアプリケーションを経由する手間を省くことができる。また駅のリニューアルは形式として、入場時の改札の撤廃と出場時の改札のタッチレス化というものを提案する。入場時は壁に取り付けたセンサーで Ringo pass を認識し、乗車した駅を記録し、移動した後に出場時にタッチレス改札を通り、支払いが完了する、というシステムである。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

まず Ringo Pass の新機能が実装されたときには、人々の目的地への移動が円滑になることが予想される。特に、公共交通機関の利用に不慣れな人が遠くへと出掛けるとき、このアプリの機能を使うことで移動方法の検索が容易になるうえ、通知によって乗り過ぎしの心配がなくなるため誰もが簡単に目的地へと移動することが可能となる。駅の改札を撤廃した場合は、まず鉄道切符を購入する必要がなくなること、そして利用する前に改札を通る必要がなくなるため、駅での全面的な混雑が解消されると考えられる。券売機前で多くの人が行列を作ったり、改札の通り方がわからない人がいて道が詰まってしまうなどの混雑の原因が取り除かれる。

これら2つの提案によって、公共交通機関の利用者が増加し、人の移動が増えて経済が活性化したり新型コロナウイルス感染症によって落ち込んだ交通機関方面の経済効果も期待できる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ 小さい子どもや、スマホの扱いに慣れていない高齢者でもアプリを使いやすくなるような、画面の工夫がほしい。
 - ・ 券売機や改札を撤廃してしまうと、もし大元のサーバーでシステム障害が発生してしまった場合に公共交通機関が全面的にストップしてしまい多くの人が困るのではないかと。
 - ・ プレゼンの内容がこまごまとしていて、大事なところをもっと強く伝えてほしかった。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ 年齢層を広くすることはあまり考えていなかったが、子どもが電車に乗るときに方法がわからないと困ることもあるだろうから、なるべく多くの人に使いやすいような設計にすべきだと考えた。
 - ・ 今後の 5G の普及によって、ある程度のシステム障害の緩和は期待できると思うが、万が一に備えてシステムが使用不可になった場合の対策も考えなければならないと思った。
 - ・ プレゼンの内容はなるべく簡潔にして、自分たちの言いたいことを強調して伝えられるようにしたほうが良い。

6 資料抜粋

<h3>日立製作所</h3> <p>交通日本21 ～交通の未来の姿～</p>	<h4>日立製作所の強み</h4> <ul style="list-style-type: none">• 技術分野に秀でており、特に家電製品が有名• 環境性能の高い製品が多く、省エネなどへの配慮がある• 国内外で、鉄道などの社会インフラが幅を広げている• 様々な国で開発を進める多国籍企業 
<h4>交通日本21</h4> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f96;">Ringo Passへの機能追加</div><div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #4a90e2; color: white;">駅のリニューアル</div></div>	<h4>Ringo pass アプリ個で複数の交通機関が利用可能</h4> <h5>①追加する機能</h5> <ul style="list-style-type: none">• 電車、新幹線、バスの運行情報に対応• 目的地までのルート検索、表示、案内• Suicaなどで利用料金の自動支払い• 別途料金をアプリ内で支払い可能• JR東日本以外の鉄道会社との提携も検討 
<h4>②駅のリニューアル</h4> <ul style="list-style-type: none">• <u>入場時の改札の撤廃＋出場時の改札のタッチレス化</u> <ol style="list-style-type: none">1. 入場時、壁に取り付けたセンサーで端末内のアプリ (Ringo pass) を認識2. 乗車した駅が記録される3. 出場時、タッチレス改札を通り、支払い完了 ↳ タッチレス改札により 混雑が軽減 	<h4>社会への影響</h4> <ul style="list-style-type: none">• 現代のコロナ禍において接触する機会を減らすことにより、利用者が安心して利用できる。• 改札に並ぶ時間や切符を買う時間など手間がかかる時間を短縮することができる。 <p style="text-align: center; color: orange; font-weight: bold;">↓</p> <h3 style="text-align: center; color: orange;">鉄道全体の利用者の増加</h3>

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

自分が利用する立場になったら、という視点で高校生だけでなく社会人、高齢者、子供などそれぞれの立場も想像する必要があると感じた。自分達は公共の場での利便性を追求する提案だったので、誰にでも使いやすいようにすることが大変だった。また各班の発表を聞き、それぞれの企業がSDGsの達成に向けて事業を行い、努力していることがわかった。たくさんの企業が協力することがSDGsの達成に不可欠であると学んだ。

○ 感想

全員が集まらない時でも放課後に残って意見を出し合っ内容について意見を交わした。既存のものに対しての強みを見出す際にそれぞれの意見が食い違う時もあったが、なんとか最後は形にすることができた。様々な視点からとりあえず意見を出すことが大事だと感じた。協力していただいた先生方、提案に沿ったアドバイスをくださった日立製作所の方々、本当に有難うございました。

○ 後輩へ

大事なことはとにかく後回しにしないことです。夏休みが過ぎ、二学期に入ると忙しく、話し合っ内容を深く考えることは難しいです。実際に自分達もやるのが重なり期限に追われる日々が多かったです。比較的時間のとりやすい夏休みに集まるなどして、早いうちから企業について細かく調べ、内容を綿密に練ることをお勧めします。後悔のないように活動を進めてください。

水の循環が機能する貯水タンク

【株式会社日立製作所 B 班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

創業111年の歴史を持つ企業。アジアを中心に世界中に事業を展開しており、IT、エネルギー、インダストリー、モビリティなどの多方面にサービスを展開している。

3 提案の概要

世界でたくさん環境問題がある中、私たちは水不足について注目した。日本では、今現在水不足はそれほど深刻には考えられていないが、世界の一部の地域ではとても深刻な問題となっている。そして、日本でも将来水不足が深刻になるかもしれないということから、私たちは日本で実現可能な水不足解消への案を考えた。

このことを踏まえて私たちは「生活排水循環システム」を提案する。雨水を使ったこのシステムは、家の屋根の雨樋から雨水を浄水器へ届け、綺麗にした水を貯水タンクに貯め、生活水として家庭内で利用するという方法だ。洗濯排水を使ったシステムは、同様に、洗濯機から出た水を浄水器へ届け、綺麗にした水を貯水タンクに貯めて家庭内で利用するという方法である。そして、このシステムに使う浄水器は、日立製作所の井戸用浄水器を応用させたものであり、綺麗な水とそうではない水を判断するための AI 機能もついている。また、貯水タンクの入口にモーターをつけることにより、水が流れるときに電力を生み出せるようにした。これにより、この電力で AI を動かす動力とすることにより、最小限の電力で使用することができる。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

この提案が実現された時、一度使用した水を循環させるという点で水の無駄遣いを防ぐことが可能になる。また、雨水を貯水することによって災害時の急な増水を防ぎ、自然災害が起きる確率を低くできるということが予想される。そして、これらから、世界中で進んでいる水不足にすぐにはないが対処することができると思込まれる。

また、私たちの提案によって SDGs の 6番「安全な水とトイレを世界中に」、11番「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、13番「気候変動に具体的な対策を」という3つの目標を達成するのに貢献できる。このシステムによって水の無駄遣いを防ぎ、水不足解消に繋がるため6番、限りある資源を効率よく使うことによって11番、雨水を使うことによってゲリラ豪雨などの気候に関する問題に対処出来るため13番の目標達成に繋がる。

5 企業への発表を終えて

○ 企業からいただいた指摘や意見

- ・雨水や洗濯排水を浄水器を使って綺麗にしたとき、水の汚れはどうするのか。
- ・家庭だけで完結させるのではなく、公共施設や地域など大きな範囲で使用させればもっと効果を得られるのではないか。
- ・水をもう一回使うという発想もいいが、水の使用量を減らすという観点も取り入れてみると良い。

○ 発表を終えて考えたこと

- ・コストが多くかかってしまうことが問題だったが、公共施設や地域などで使用させると、コストの問題も解決するのではないかと考えた。
- ・SDGs の解決という点に限らず、消費者や企業に対するメリットについてもっとアピールできれば良かったと思った。

6 資料抜粋

水の循環が機能する貯水タンク

洗濯機・浄水器・貯水タンクを
活用して水を循環する

日立製作所の強み

1. 企業の規模が大きい
2. 日本だけでなく世界各地にも拠点を置く
3. 環境にやさしい製品を制作
4. SDGsの課題に多くの視点で取り組む

→事業を世界に拡大できる



このシステムのメリット

- ◎解決されるSDGs
 - ⑥安全な水とトイレを世界中に
 - ⑪住み続けられるまちづくりを
 - ⑬気候変動に具体的な対策を
- ◎社会全体のメリット
 - ・水の使いすぎを防げる
 - ・水不足が進む地域にシステムが普及すると水不足を少しでも解消できる

システムの詳細

- ◎システム全体について
 - ・洗濯機、浄水器、貯水タンクの3つをシステムとして購入してもらう
 - ・システム全体のコスト：40万円
- ◎浄水器
 - ・AI搭載→汚れ感知
- ◎貯水タンク
 - ・入口にモーターを設置→水の勢いで発電→AIの電力に

水循環システムの流れ



まとめ・感想

- ◎まとめ
 - ・このシステムを利用したら、水の使いすぎを防ぎ、世界の水不足解消に繋がる
 - ・世界の水不足という大きな環境問題に貢献できる
- ◎感想
 - ・水不足の事例を調べる中で、水不足について新しい知識を得た
 - ・日立製作所の皆様に細かい部分までアドバイスを頂き、大変ありがたかった
 - ・家庭だけではなく、公共施設にもこのシステムを設置したい

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

この活動を通して世界には解決しなければいけない問題がたくさんあることを知った。その中でも私たちのグループでは水問題について詳しく調べ解決策を考えたが、日本にはあまり感じることはできないとても深刻な状況にあることが分かった。このように社会問題に真剣に向き合うことができるともよかった。また、企業の方がどんなことを大切にされているのかを聞くことができるとも参考になったし勉強になった。

○ 感想

様々な問題がある中、一つに絞り込んで考えるのが難しかったが、グループで意見をたくさん出しておくことで、意見を共有でき課題に取り組むことができると感じた。時間が十分ないので一回一回の探究活動の目的をもって活動するために、各自で調べておくことが活動をスムーズに進めるために必要だと思った。

○ 後輩へ

思った以上に時間を確保できないので各自で事前に調べておくことがとても大切で、。夏休みや放課後に集まると余裕を持って課題に取り組めると思う。また、企業の方にアドバイスやコメントをいただくことは貴重な体験であるから人たちの意見をしっかり持ち企業の方の質問に答えられるくらいまで調べると良い。

ひよスク

—育児を支える子育てアプリ—

【(株) ベネッセコーポレーション A班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

1955年に株式会社福武書店として生徒手帳の製作などから事業をスタートさせ、1995年に株式会社ベネッセコーポレーションへ商号を変更。社名は「よく」を意味する bene と「生きる」を意味する esse を掛け合わせたもので、社名通り「よく生きる」を企業理念に掲げ人々の向上意欲と課題解決を生涯にわたって支援するサービスを展開している。こどもちゃれんじや進研ゼミをはじめとする子供教育に力を入れており、高い国内シェアを誇っている。学習サービス事業のほかにも介護、保育等の暮らしを支えるサービスを多岐にわたって行っている。

3 提案の概要（企業からのお題があれば、お題を明記して、それに対する提案内容を書く）

私たちはベネッセコーポレーションが行う保育・育児の事業に着目し考案した、育児を行う大人に寄り添う子育てアプリ「ひよスク」を提案する。このアプリは子育てを行う親世代のストレス軽減による教育環境の改善、子育てにおける男女平等の実現を推進する新アプリである。従来の子育てアプリとは異なり女性も男性も長期にわたり使用できる機能が多数搭載されている。無料ダウンロードで多くの機能が使用できる他、プレミアム会員を設け、月額を支払うと通常よりも多くの機能を利用できる仕組みとなっている。また、ベネッセの強みである通信教育と連携することにより、アプリの知名度増加と通信教育の利用者増加の相乗効果が期待される。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

このアプリが社会にもたらす影響として第一に挙げられるのは、「男女平等子育ての推進」である。世界各国で男女平等が当たり前となりつつある現代。しかし日本では育児に対する古い考えがまだまだ残っていると感じる。男性が子育てを積極的に楽しみながら行えるように支えるのがこのアプリであり、それにより男性の育児参加を促す効果が期待される。これは SDGs の目標にもある「ジェンダー平等の実現」に貢献すると考えられる。二つ目は親のストレス改善による「自殺、幼児虐待等の事件・事故の件数減少」である。このアプリは仕事と育児を両立している大人の息抜きの場所となることで少しでも心の健康を保ってほしいとの思いをこめて考案されている。このことから「すべての人に健康と福祉を」というテーマに貢献すると考える。また、このアプリを現在ベネッセが行っている通信教育と連携させることによって通信教育のユーザー拡大が期待されることから「質の高い教育をみんなに」というテーマにも貢献すると考えられる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・アンケート結果の提示など、提案の証拠がしっかりしていて良かった。
 - ・アプリの詳細まで考えられていて良かった。
 - ・問題提起の際にグラフを用いて話すなど、提案の順序をよく考えるとよい。
 - ・どうしてその課題を解決したいのかが分かりやすい導線で話するとよい。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・アプリ開発には多くの費用や技術が必要になるということ。
 - ・ほかのアプリとどこが違うのか、売り出し方を考えなければならないこと。
 - ・現在ベネッセが運営している子育てアプリもあるため、そこの運営の差別化を図らなくてはならないこと。

6 資料抜粋

大人に寄り添う子育てアプリ

～ 新時代の育児を支える事業展開 ～

新しい子育てアプリを開発し、大人のストレス軽減を目指す

ベネッセの強み

「進研ゼミ」、「こどもちゃれんじ」などの教育事業によって高まった

知名度
+
信頼

今まで幼児～高校生までつながるサービスで得た





ひよスク

SNS・MAP・レンピ等の計5つのアプリが搭載

無料インストール、プレミアム会員制度
通信教育との連携

アンケート結果

2. 自分が大人になったら育児で困ることがあると思う

● 思う	70
● 思わない	3



3. 育児向けアプリがあったら使用したいと思う

● 思う	61
● 思わない	12



アプリのメリット

◇社会に対するメリット

- ・男女平等子育ての推進によるジェンダー平等の改善
- ・子育てをする親のストレスが軽減されることにより、虐待や自殺件数の減少

◇ベネッセに対するメリット

- ・広告収入やプレミアム会員制度による収益の増加
- ・通信教育との連携割引による顧客の増加

まとめ

ひよスク
男性、女性ともに使いやすい子育てアプリ
大人の子育てライフに寄り添う
→社会的にも、ベネッセにもメリット有◎

→幅広い事業での活動を知る
→知名度upに繋がる
→他の事業でも利用者増加！

感想

- ・一つのサービスが私たちに届くまでにたくさんの人が関わっていることが分かった
- ・一時間MC探求に参加しただけですごく後れを取ってしまった
- ・明確な根拠を提示することで説得力が増し、提案に自信を持つことができた

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

商品開発にあたって、単純にアイデアを考案するだけではなくそれを実現化させるために売上高や経費を考えていくこと。また、社会には似たような商品が多く存在し、差別化をどう図るかが大切であるということ。

○ 感想

今回自分達で1から事業を考える事を初めて経験し、その大変さを痛感した。1つのサービス、商品が世の中に出て私達が使えるようになるまでにたくさんの人が関わり、顧客のニーズを想定した価格設定を行っている事に改めて気付かされた。自分達が大人になって企業に就職した際に、今回のゼミ活動で学んだアイデアの生み出し方や、アイデアを実現化するための手順を活かして世間の課題解決に貢献できるようになりたい。丁寧に提案を聞いてアドバイスをくださった企業の方には感謝している。本当にありがとうございました。

○ 後輩へ

提案内容を考えるにあたってまず初めに企業の課題、社会の課題について考えると思います。その際は新事業を考案することばかりではなく、その会社が行っている既存の事業についてよく調べそこから提案を考えるというやり方もおすすめです。まずは企業についてよく知り、その企業が誇りを持っている強みを生かした事業を提案できるように心がけてください。また、提案をする際は事前にアンケートを取るなどして証拠を提示できるようにしておくことが大切です。提案を聞いた人から質問が出ないほど詳細まで考え込む、もしくは質問を想定して返答を考えておくことも効果的です。

進研ゼミの継続率を上げる

【(株) ベネッセコーポレーション B 班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

ベネッセコーポレーションは 1955 年 1 月 28 日に創業。教育・福祉の分野の事業が特に強みとなっており、介護事業において老人ホームの設置数は 330 施設以上で国内でもトップクラスの施設数になっている。さらに現在は教育の分野で海外にまで進出している。

3 提案の概要

私たちの班は、ベネッセコーポレーションの課題として教育サービスの継続率が低いということが課題だと考えて今ある教育サービスに何か工夫ができないかということを考えた。そこで私たちの班は教育サービスの「ゲーム性」をより強くすることで受講者がし続けることに飽きることがなくなり、楽しさが出てくるのではないかと考えた。

私たちの班の主な提案は今あるチャレンジのゲーム性やアニメーションをキャラクターのコラボによってグレードアップすることでベネッセの受講者のやる気の増加による継続率のアップを考えた。

タブレットを使ったプランに関しては対戦型計算ゲームなど受講者の競争心を煽ることができるが、紙を用いるプランの受講者に関しては保護者の携帯端末によって写真を撮ってそれをアプリによってポイントを得られる仕組みを考えた。また忘れた時などにタブレットの特性をいかしてタブレットを用いた学習の頻度が落ちたときに通知が来るなどの機能を考えた。またプレゼンテーションの時はタブレットの利点と紙の利点を上げてそれを比較することでおたがいの良さをうまく伝えることを試みた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響は、日本の教育水準の向上だ。私たちが課題に設定した、進研ゼミの継続率の向上が行われれば、SDGs の goal4「質の高い教育をみんなに」へ貢献することになる。私たちは「質の高い教育」とは次の二つだと捉えた。入試やテストのためではなく「普段の学習では経験できない学習。経験」と、「面白い意欲を持つことが出来ること」だ。これらが向上することにより、日本の教育水準が向上し、またその教育水準は世界の教育方針としても参考にすることができると考えた。

また、日本全体の教育水準が向上することは、goal9「産業と技術革新の基盤を作ろう」にも貢献します。現在日本では、大人になってから学習をする人が少ないという現実があります。日本の教育水準が向上する、つまり「質の高い教育」が提供されれば、面白い意欲を持つことが出来るようになることで人材という観点から goal9「産業と技術革新の基盤を作ろう」にも貢献すると考える。また、他の SDGs の goal に対しても、それぞれの goal に関する「人材」の育成に関わるという点から、さまざまな影響を日本だけでなく、世界規模で与えることが出来ると思う。

5 企業への発表を終えて

○ 企業からいただいた指摘や意見

- ・ゲーム形式での学習と提案していたが、具体的にはどのようなゲームの内容を考えているのか。
- ・弊社が長い間課題としていた問題の解決について、進研ゼミもターゲットとしている高校生の視点から提案を考えていてよかった。

○ 発表を終えて考えたこと

- ・提案のゲームについて、進研ゼミ既存のキャラクターをアニメーションで動かすなど、細かなゲーム内容を考えていきたい。
- ・オンラインで他の受講者と対戦形式で学習をするなど、受講者のモチベーションを上げるための提案も考えていきたい。
- ・上記の質問も含め全体的に具体的な提案の内容が詰めれていなかったもので、細かいところまで考えておくべきだった。

6 資料抜粋

進研ゼミの継続率をあげるために

ベネッセについて

- ▶ 事業内容
 - ▶ 主要事業である「国内教育」
 - ▶ 幼児向けを中心とした「グローバルこどもちゃれんじ」
 - ▶ 事業の第2の柱となっている「介護・保育」
 - ▶ 語学教育「ベルリッツ」
 - ▶ 「その他」
- ▶ 企業の強み
 - ▶ 知名度が高い
 - ▶ 年代の幅が広い

企業の課題

以前進研ゼミをしていたという人が多い

↓つまり...

進研ゼミの継続率が低い

提案・詳細

ゲーム感覚での学習

- ▶ 進研ゼミに元からいるキャラクターにもっとアクションをつける
- ▶ オンラインでいろいろな人たちと競争・対戦
- ▶ 学習をするとポイントがたまり、そのポイントで様々なものと交換できる仕組み

↓しかし...

- ▶ タブレットで受講する人が多くなればいけない
- ▶ 紙教材で受講する人はどのように行えばいいのか

詳細

紙教材で受講する人	タブレットで受講する人
<ul style="list-style-type: none">▶ ベネッセから出た課題や自主学習したものを親や自分のスマホで撮り送る▶ ポイントがもらえる	<ul style="list-style-type: none">▶ 週一でゲームが更新される▶ 達成したらポイントがもらえる▶ 忘れていたときは通知が来る

まとめ

進研ゼミの継続率の向上

↓それによって...

日本の教育の質が向上し、世界の参考となる教育方針となる

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

情報に関してアンケートは積極的に使うべきだとわかった。インターネットの情報を使う力もとても重要だと思ったが自分で集めた情報はグラフに直したり大きく使えて使いやすかった。また SNS を用いて班員の中で情報をいつも交換し意見を出せる環境を作ることが大切だと思った。アイディアの出し方ではまず可能性や現実性を重要視せずとにかく口に出してみるほうが良いとわかった。

○ 感想

日数があるように感じていたが班員の中で毎日話したりしない限りは、学校の中で用意してくれる時間は毎週金曜日の7限ともう少しくらいしか出ないので後半は時間をもっと使ってほしいと思うようなこともあった。特にプレゼンテーションのことにっては時間をかけなければいけなかった。

企業の方々には丁寧に対応していただきありがとうございました。

○ 後輩へ

1番大切なのは話し合うことだと思います。昼休みの時間に話すことは時間が足りないゼミの活動では必須のことになると思います。プレゼン直前に焦らないように班員で協力すればより良い発表ができると思います。ここまで読んでいただきありがとうございます。このアドバイスが少しでも役に立てれば幸いです。

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

パナソニックはエアコンや洗濯機などの白物家電分野や、照明器具、配線器具などの住宅設備分野、リチウムイオン二次電池などを含む車載分野など、多岐にわたって分野を広げている。日本国内では唯一の総合電機メーカー(全部門を網羅)で、多くの部門でトップシェアを有し、家電以外の業界でも国内シェア1位を占める。既存の商品に新たな付加価値を生み出すことを得意としている。

3 提案の概要

健康と福祉をパナソニック製品を用いて人々に与える施設運営を行う。

現代に生きる人々は、年齢、職業に関係なく、昔より健康に気を使うようになってきている。さまざまな生活習慣病が問題視されている中で一人一人が自分の健康に気を使うべき時代になってきている。そこで、パナソニック社の製品を体験していただき、購入を促し、健康的な生活を送るきっかけにしてもらうことを提案する。

人々が日常的に健康に気を使う3つの場面を想定し、美容ゾーン、ヘルスケアゾーン、フィットネスゾーンを用意してパナソニックの製品を設置、製品の使用の全過程、または一部の過程を体験してもらう。この時、利用者から製品を使った際の感想をいただく。従来のユーザーの意見に比べ、より新鮮、より率直な意見を得ることができ、製品の人気度なども明らかになるので、製品の改良や生産量の増加につなげることができる。未発売の製品や試作段階の製品を体験してもらえば、利用者もいち早くその製品の存在や性能を知ることができ、企業側もその製品が使用される現場で通用するのかどうかを判断することができる考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

この提案が実現された後に社会に最も影響を与える点は、誰もがこれらの家電を購入し、より簡単に健康なる生活を送ることができるようになる社会である。購入に至らない利用者也、健康への関心が高まる効果が期待されると考えた。また、高田高校生徒中およそ190人にアンケートを取ったところ、このような【健康型複合施設を利用したいか】という質問に、7割を超える生徒が「はい」と回答していた。他にも【これらの施設で性能を実感した製品があればその場で購入したいか】という質問にも、6割を超える生徒が「はい」と回答していた。これらの結果から、製品の魅力を伝える機会を設けることで、売り上げの上昇にもつながる。そこからユーザーが増え、増えたユーザー同士でレビューが共有され、さらに売り上げが上昇、人々の生活が健康になるというプラスの流れが生み出される。その結果、SDGsの一つ《3. 全ての人に健康と福祉を》の達成にもつながると考えられる。

5 企業への発表を終えて

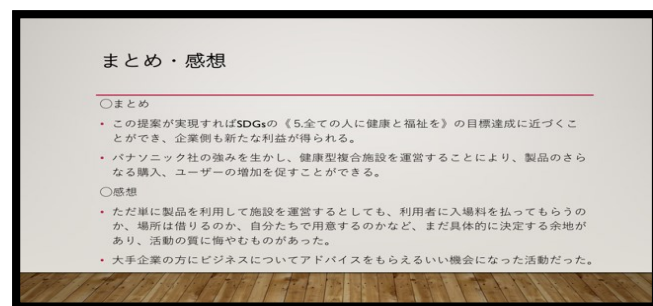
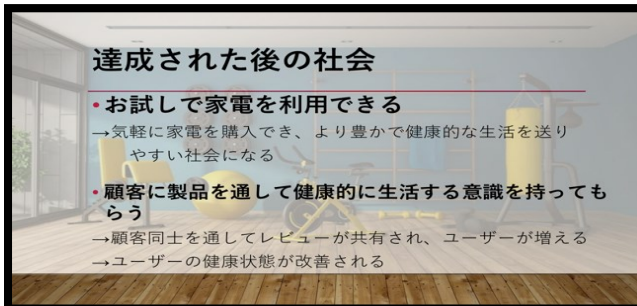
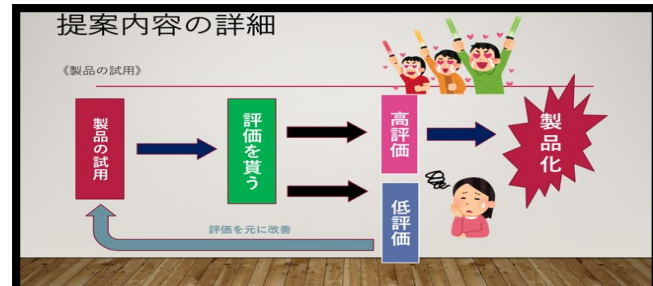
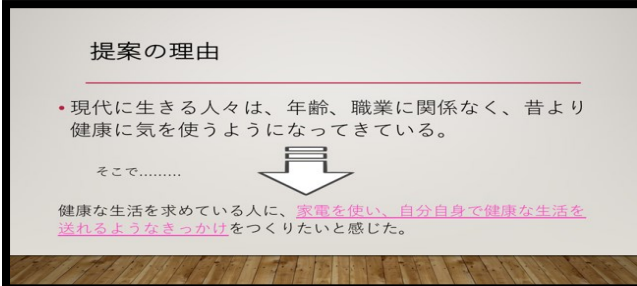
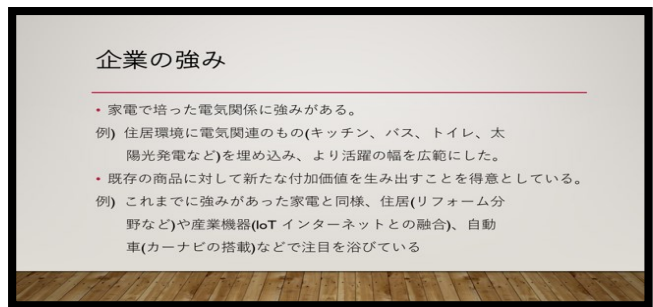
○企業からいただいた指摘や意見

- ・パナソニックの強みがよく調べられており、それがこの提案の方向性に活かされていてよかった。
- ・客から料金を取るか取らないかで提案の本質が違うものになってしまうので、その設定をしっかりとっておかないと提案として成り立ちづらくなる。
- ・体験型の施設ではなく、今流行りのサブスクみたいな感じにしてもいいのではないかと。

○発表を終えて考えたこと

- ・料金を取った方がいいのか取らない方がいいのか、またはし料金を取る場合はいくらぐらい取るのがちょうどいいのかと考えた。
- ・サブスクの要素を取り入れることでより客が利用しやすくなり、より大きな利益が見込めるのではないかと考えた。
- ・今回指摘されたところをどのように改善すればいいのか、またこの提案をより現実的なものにするにはどのようにすればいいのかなどを考えた。

6 資料抜粋



7 感想・後輩への一言

○学んだこと

今回の活動を通し、私達が学んだことは大きく二つあった。一つは自分たちにとって必要な情報を得ることだ。良くも悪くも情報過多な現代社会において、欲しい情報を得ることはバケツいっぱい砂から砂糖の粒を見つけるようなものだった。そこでアンケート調査という方法をとった。年齢層に偏りが生まれてしまうが、この方法はとても効率が高く、情報が間違っていることもなかった。二つ目は集めた情報を纏めることだった。実際に企業、他生徒らにプレゼンテーションをするため、自分達が理解できるだけでは不十分だった。私たちは役割りを二つに分け、一つの文章に担当する人数を増やすことでこの問題を解決した。

○感想

初めの頃はどのような方向性の提案で行くのかなかなか決まらなくて大変だったが、グループの全員で何度も相談して行って良い提案を考えることができたと思う。また放課後に全員で集まって作業し、自分たちの家でも原稿を考えるなど、各々ができることをやることで協力して完成させることができた。今回のプレゼミ活動を通して自分たちのプレゼン力や企画・立案する力を高めることができたのは、お忙しい中自分たちの提案に丁寧に対応くださったパナソニック様のおかげであり、とても感謝している。ありがとうございました。

○後輩へ

仲間達と前もって均等に分業するべきだと思う。自分が何をして良いかわからず、作業効率の低下を招き、内容を納得いくものにできなく最後の日程の方で苦勞することになる。準備するために設けられた時間は少なく限られており、その中で、役割を決めていないと上手く連携が取れず、時には意見の相違が生まれ、なかなか進まない。その時に時間があっても後からやらなければいけないことが溜まっていく。これはあくまで授業であり、時間が限られているので、本来の仕事を忘れず、今やるべきことを明確にし、先を見通して活動を進めた方がいいと感じた。

自然を味方に発電する車

～forever friend～

【パナソニック株式会社 B 班】

1 メンバー

--	--	--	--	--

2 会社概要

大正7(1918)年創業の世界的に有名な総合的電器メーカー。住居、電気、産業機器、自動車部品など、幅広い事業に取り組み、海外の関係会社が多い。そのため、様々な年代や国籍の人々の生活に深く関わり、世界中への影響力が大きい。また、消費者からの高い信頼性と安全性があり、とても大きな強みとなっている。

3 提案の概要

私たちの班はパナソニック様の強みを生かし、高い信頼性と安全性から世界に影響の与えられる電気製品として「自然を味方に発電する車～forever friends～」を提案する。二酸化炭素の多量な排出、様々な気候変動という問題に目を向けた結果、様々な天気に対応した地球に優しい車が必要だと感じた。車の前方にブレードを設置することでブレードの回転を利用して風力発電をし、車の上部には太陽光パネルを設置することで太陽光発電をし、消費電力を賄うことを可能にする。そうすることで、環境に優しく、自然を味方にした車ができると考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、第一に考えられるのは、自動車から排出されるCO₂が減ること。2015年度の自動車から排出されるCO₂は日本全体の約15%となり、量としては約2億トンにまでなる。更に、電気自動車の使用台数はこれから大幅に増加していくと予想されている。

これらのことからこの提案の自動車が普及すれば、SDGsの7[エネルギーをみんなに、そしてクリーンに]、9[産業と技術革新の基盤を作ろう]、11[住み続けられるまちづくりを]、13[気候変動に具体的な対策を]、14[海の豊かさを守ろう]、15[陸の豊かさを守ろう]の達成が見込まれると考える。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・ 移動手段に着目しているところが良かった。また、車を作るものとして考えていて良かった。
 - ・ 発電効率は何の数字を用いて計算したのか。
 - ・ メリットが出やすいターゲットはどんな人だと考えているのか。
 - ・ ドイツで作られている、ソーラーパネルを用いた車を参考にして考えてみてはどうか。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・ ドイツでソーラーパネルを用いた車が開発されていることや、発電効率の高いソーラーパネルがパナソニック株式会社で製造されていることから、より実現可能であると考えた。
 - ・ これから先、ソーラーパネルやプロペラが進化し、より多くのエネルギーを得ることが出来るようになると考えた。そのため、もっとたくさんのエネルギーを賄えるのではないかと考えた。

6 資料抜粋

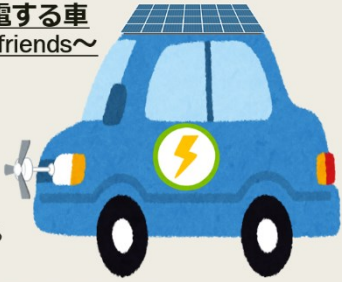
Panasonic株式会社

- 海外関係会社：20ヶ国44拠点
→世界への影響力が大きい
- 高い信頼性と安全性
- 住居、電気、産業機器、自動車部品など幅広い事業
→多くの人々の生活に深く関わる



自然を味方に発電する車 ～forever friends～

電気自動車に新たな付加価値を付け、太陽光、風力を利用して電力を蓄える



→自然と手を取り合った地球に優しい車

Panasonic株式会社様のメリット

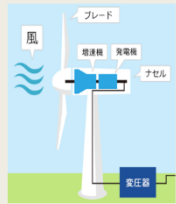
- 地球温暖化の抑制をはじめとした環境保護
- 社会問題に取り組むことによる信頼と社会貢献
- 自然を利用したエネルギーによる燃料費の削減

解決された後の社会について

- 化石燃料エネルギーを使わないクリーンな社会
- 社会問題に取り組む一員としての自覚
- 地球温暖化の抑制
- 人と産業、未来の豊かな自然との共生

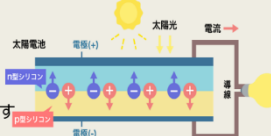
1.風力

- ①車の前方にブレードを設置
- ②車が走ることでブレードが回転
- ③増速機を用いて必要な回転数まで増幅
- ④発電機で電気に変換



2.太陽光

- ①車の上部に太陽光パネルを設置する
- ②パネルに太陽光が当たる
- ③電子の流れを利用して発電する
- ④バッテリーに蓄電
- ⑤貯めた電気を使用してモーターを回す



発電できるエネルギー量

①風力

- 1ヶ月走行距離→500km
- 自動車の速度→50km/h
- 受ける風速→14m/s

8965wh

②太陽光

- パネルの大きさを約8.7m²と仮定する
- 1日で441.5wh発電できる

13245wh

➡ 1ヶ月 約30%をまかなうことができる

感想

- ・ チームで作り上げる達成感や充実感を感じることができた。
- ・ 具体的にSDGsを考えることにより環境問題へ取り組む一員としての自覚を持つこと、また高めることができた。
- ・ Panasonic株式会社の皆さんから多くの温かいお言葉やアドバイスを頂き本当に感謝している。
- ・ Panasonic株式会社は高い技術力だけでなく、人々の幸せを願うことから感じる思いや熱意においても世界に誇ることのできる会社であると確信している。

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、相手に伝えるにはどうすればよいか、その方法、表現の仕方についてより深く考えるようになった。自分たちの主張の根拠となる部分を明確にし、実際のデータや資料を使って説得力のあるプレゼンを作ることを心がけた。常に聞く人の立場になって考えることが大切だと分かった。

○ 感想

「発電」という難しいキーワードを前に苦戦する場面が多く、授業時間だけではまとめられなかったが、昼休みや放課後に時間を作って集まり、5人で協力して一つのプレゼンを作りあげたことは非常に貴重な経験になったと思う。パナソニック株式会社の方々には、温かいお言葉と大変得難いアドバイスをいただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。

○ 後輩へ

班の仲間とたくさんコミュニケーションが大事だと思います。授業時間だけでプレゼンを完成させるのは難しいと思います。班員と話して自分たちで時間を見つけ、活動することをお勧めします。時間をかければかけるほどより良いプレゼンができると思います。また、大人の意見はとても貴重です。先生や家族にちょっと質問するだけでも、新しい知識や発想が得られます。周りの人をどんどん頼りましょう。

部活動の顧問の負担を軽減するアプリ

【株式会社テラスカイ A班】

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

平成 18年設立のクラウドシステムの開発・支援を行う企業。クラウド関連サービスを手掛け、2014 年に「セールスフォース・ドットコム」と業務提携を締結、2018 年には東京証券取引所一部に上場した。Salesforce や AWS,mitoco などのクラウド技術を応用したサービスやソリューションを企業に提供している。現在、東京本社のほかに 3 つの支店とオフィス、11 社の関連会社を持ち日本国内のみでなく世界に事業を展開している。

3 提案の概要

私たちの班は、既存のテラスカイが提供しているサービスを基盤とした教員の部活動への負担を軽減するアプリを提案する。現代では教員が部活動に割く労力はニュースで取り上げられるほど大きな問題となっている。教員は部活動の監督者として週に最大 12 時間を生徒の指導に費やす。加えて大会の際の送迎や保護者向けの文書作成、スケジュールの管理などその負担は計り知れない。そこで、テラスカイの「mitoco」というアプリを応用して、教員の部活動への負担を軽減するアプリ開発することを提案する。

上記のように主な負担の原因は生徒の指導、文書作成、スケジュール管理などが挙げられる。mitoco のトーク機能で保護者への文書配布、スケジュール管理機能による容易なスケジュール管理、さらに動画共有機能を加え、他校が行っている指導や練習を参考にすることで生徒の指導への負担を軽減することができるのではないかと考えた。また、アプリをスポーツ店と連携することによって動画を投稿した際、スポーツ店で使えるクーポンを発行することで、スポーツ店は顧客が増加し、生徒・学校はより安く備品を購入でき、企業にスポーツ店から広告費が入ることで企業が収益を得るシステムを新たに導入することを考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、まず、テラスカイの認知度が上がるこがあげられる。高校生にとって身近なスマホアプリとしてサービスを提供することで、テラスカイという会社をもっと身近なものだと思ってもらえることができる。これにより、テラスカイの他のサービスへの関心も高まり、さらなる収益にも期待できる。また、このサービスを利用する顧問にとっても大きなメリットがある。このアプリを利用して部活動の負担を減らすことができると、顧問の部活動のモチベーションアップが期待でき、顧問の学校教員としての働き甲斐も生まれると予想される。この『働きがい生まれる』というメリットは、SDGsの目標、8番の『働きがいも経済成長も』を達成することができる。

5 企業への発表を終えて

- 企業からいただいた指摘や意見
 - ・企業を対象にしていたアプリ(mitoco)を学校に利用する案が良かった。
 - ・収支計画が明確だと具体的な提案になる。特に初期費用とその後の売上の向上をよく考える必要がある。
 - ・部全体の練習メニューだけでなく、個々にあったトレーニングや練習方法を見つけられるようにすれば生徒の勉強と部活の両立に役立つのではないか。
 - ・学校の先生から実際に聞いたことなど提案の背景をもっと具体的にすると良い。
- 発表を終えて考えたこと
 - ・月額 1000 円という価格では少し手を出しづらい。
 - ・価格設定や新しい機能といった点で、今あるアプリとの差別化をする。
 - ・競技経験がない先生のために動画を共有できる機能があるが、動画を共有する側にとってのメリットをさらに考える必要がある。


6 資料抜粋

部活動の手助けをするアプリ ～教員の負担を軽減するために～

部活動の連絡や練習の計画などのものをアプリ化して使いやすくする

テラスカイの強み

- 経験と実績をもとに、様々な業態のお客様に当社のサービスやソリューションを提供
- 「ITの管理」ではなく「ITの利用」に専念できる環境を提供



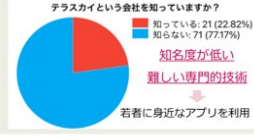
提案理由

企業の課題


テラスカイという会社を知っていますか？

知っている: 21 (22.82%)
知らない: 71 (77.17%)

知名度が低い
難しい専門的技術
若者に身近なアプリを利用



競技経験のない教員が指導する現状がある



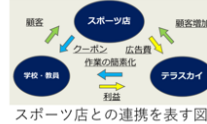
→若者に身近なアプリを使い、教員の部活動への負担を軽減する

アプリの内容

salesforce社のアプリである「mitoco」を利用する

- 利用者は初めに会員登録をしてIDを発行する
- 顧問は部員のIDを入力して、部活動のグループを作成する
- 顧問は月額使用料(月1000円)を払う

- スケジュールの作成
- トーク[チャット]
- 動画の共有など



スポーツ店との連携を表す図

この企画のメリット

- 対象となる教員→部活動への負担を軽減し、より働きがい生まれる
- 企業→利益を出すことができる
企業価値のアップに繋がる
- Sdgsについて→8番の「働きがいも経済成長も」を解決することが出来る

まとめ・感想

- まとめ
 - テラスカイを知ってもらえる
 - このアプリを使うことで部活動の顧問の負担が軽減される
- 感想
 - 私たちでも知っているような有名企業がこぞってテラスカイのサービス・製品を利用していて驚いた
 - Sdgsについて詳しく考えられる機会となった
 - テラスカイの皆様が優しく丁寧に対応して下さい、大変ありがとうございました

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、最初は全く案が思いつかなかったが、身近な問題から考えることで最終的には社会問題の解決に向けたサービスの提案をすることが出来た。インターネットには証拠となるようなその社会問題を取り上げた記事が多く載っているのでそれらを発表の際に提示することでより具体的になると分かった。また、アプリ開発には想像以上の初期費用と開発期間がかかるため、利益をあげるための収支計画を考えるのはとても難しかった。

○ 感想

夏休みや放課後の時間を使って協力して進めることが出来た。活発な意見交換や情報収集で効率よく作業できていた。私たちの提案のターゲットは先生と生徒であったが、先生や生徒が求めているものは何か、そのニーズに応えるにはどのような機能があればいいのかを考えるのが難しかった。提案書や企業プレゼン時に具体的なアドバイスをいただいたテラスカイの方々に大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

まずはその企業がどのような事業を展開しているのか、どんなことに力を入れているのかをよく知ることが大切です。企業の強みと課題を理解すれば、その企業ならではのより良い提案が出来るはず。また、実際にアンケートを取り、ターゲットとなる方々に質問してみることも大事だと思います。自分たちで考えインターネットなどで調べただけでは気づけないような視点を知ることができます。積極的に多くの方からのアドバイスを受け入れて反映させることで、より提案が深まると思います。

1 メンバー

--	--	--	--

2 会社概要

株式会社テラスカイという企業は 2006 年 3 月に創立した、様々な企業へのクラウドの支援、データの連携などのサービスを展開している企業。クラウド事業でビジネスを展開してきた経験と実績があるということ、中小企業から大企業、民間企業、役所などの公的機関など様々な業態の顧客に応じたサービスを提供していることが企業の強み。

3 提案の概要

私たちの班は、テラスカイの強みを生かし、企業価値を高め、新たな産業を構築するものとして、リモート職場体験を提案する。リモートを使って企業とのオンライン職場体験を行うための情報サイトの作成をする。サイトには、企業ごとに企業名、企業概要、体験内容が記載されており、このサイトのターゲットである学校側は、その中から企業を選ぶ。サイトに載る企業には、体験内容を選択肢から選んでもらう。PR 動画や発表などを考えている。

リモートの需要が増加している一方、新しいコンテンツであるため、リモートの良さを活かした活動の数は少ない。リモート面接やオンラインオープンキャンパスなどを参考に、学校での教育の一環としての活動で、さらに、リモートの良さを伝えられる活動があったらいいと考えた。

4 実現されたときの社会への貢献、SDGsへの貢献

実現されたときに社会に与える影響として、将来やこれから働く若者たちが仕事に就く時に、リモートワークを利用することで、地元に住み、かつ都会の会社と連絡を取って働くことが出来る。それにより多くの若者が地元に残ることで、人口流出を抑えることが出来る。

IT やプログラマーなどに興味を持つ生徒が増え、IT 企業の人材不足なども解決される。

SDGs について、新しい仕事の仕組みを作るということから、8 番の「働きがいも経済成長も」、教育の一環として組み込まれるものであるから、4 番「質の良い教育のみんなに」が解決されると思われる。

5 企業への発表を終えて

○ 企業からいただいた指摘や意見

実例での感想や収支計算があり、この提案の効果や実用性が伝わる反面、この提案に至るまでの経緯に行き違いがあったり、確証の持てない資料を使ってしまうと、根拠の前提やターゲットがよくわからなくなってしまった。特に、予備提案書で「都会への人口の流出」を掲げていたが、発表時にその文面が無くなってしまったことが残念だと仰っていた。

○ 発表を終えて考えたこと

- ・提案の根拠が何を表しているかを文字で伝え、信用性の高い資料を用意した方が良い。
- ・都会への人口の流出を提案に取り込んでおく。

6 資料抜粋

提案概要

- ▶サイトの作成
- ▶参加企業の集約と掲載
- ▶企業の選択(複数可)
- ▶開催

我が国の生産年齢人口の推移

背景

地方と都市圏の人口の差がひらいている
地方に人口を留める
ことが必要

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc141110.html>

年間5回の職場体験
2万円×5回＝10万円・・・①

年間サイト運営費
5000円×12ヶ月＝6万円・・・②

利益 ①－② 10万円－6万円＝4万円

リモート 職場体験				🛒	◀サイトモデル						
企業を 選ぶ	企業概要	参加可能 人数	体験 内容		○企業は複数選択可 企業にメイン、サブのうちから、 ひとつずつ選んでもらう						
<input type="checkbox"/> 企業A	メイン 発表	サブ PR動画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center; font-weight: bold;"> <tr> <td style="background-color: red; color: white;">メイン</td> <td style="background-color: red; color: white;">サブ</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f8d7da;">①発表</td> <td style="background-color: #f8d7da;">①PR動画</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f8d7da;">②仕事体験</td> <td style="background-color: #f8d7da;">②PRプレゼン</td> </tr> </table>	メイン	サブ	①発表	①PR動画	②仕事体験	②PRプレゼン
メイン	サブ										
①発表	①PR動画										
②仕事体験	②PRプレゼン										
<input type="checkbox"/> 企業B	仕事体験	PRプレゼン							
<input type="checkbox"/> 企業C	発表	PRプレゼン							
<input type="checkbox"/> 企業D	仕事体験	PR動画							
<input type="checkbox"/> 企業E	発表	PR動画							

提案の理由

- 訪問型職場体験が難しい
- オンライン開催の安全性
- リモートの活動を若者に

企業訪問を終えて

- 実例での感想や、収支計算などを入れたことによって提案に説得力があった
- 提案に至るまでの課題設定の流れが、分かりずらかった

7 感想・後輩への一言

○ 学んだこと

ゼミ活動を通じて、よく話し合うことの大切さを学んだ。より良い提案するには、班員全員が深く考えそれらを共有することが必要だと実感した。また、提案に至る根拠となる資料やデータは、時間をかけて作成した方がより提案に強みが出ると感じた。発表資料の作成のスキルや発表のスキルも向上した。

○ 感想

中間発表時と提案内容を変更したため、当初予定していたより短い時間での発表となった。提案内容は時間をかけて、根拠がしっかりしたものを初めのうちに固めておくと、活動を進めるうちに、提案のコンセプトがブレずに済むと感じた。調べ物などは長期間使える夏休みを利用したことは、しっかりした根拠の構築に繋がったと思う。何度も丁寧に対応していただいたテラスカイの方々に大変感謝している。ありがとうございました。

○ 後輩へ

授業の時間では絶対に足りないなので、放課後や夏休みを利用して作業することをおすすめします。発表時はリモートのために、回線が悪く、相手に伝えることが難しい時があった。予期せぬタイミングで発表が止まるがあるので、原稿も十分に暗記しておくとういいます。

令和3年度 東京研修グローバル班 実施概要

1 目的

将来の方向性を考える大事な高校時代に、学校という枠を超えて海外の高校生や海外で活躍する方々と関わり、「異文化理解」、「コミュニケーション力」、「語学力」を培う。そして、「世界の中の自分」という視野を持ち自ら行動を起こす力を育みながら、自分の将来像を描ききっかけを掴み、将来世界でたくましく行動する人材を育てる。

2 参加者 2学年 普通科：10名

3 内容

- ① ベトナム国家大学ホーチミン市校の附属校（PTNK 校）とのオンライン交流及び英語によるプレゼンテーション発表
- ② 日本貿易振興機構（JETRO）ホーチミン事務所駐在員による、ベトナムとの経済交流についてのオンライン講義
- ③ 新潟県国際交流協会留学生交流推進員とのオンライン交流
- ④ 国際機関日本アセアンセンターの協力を得て、アセアン諸国に関する学習
- ⑤ 積極的に異文化を理解し、情報を発信しようとする国際的な資質の養成
- ⑥ 各種コンテストにおける活動成果の発表

4 活動記録

- | | |
|-----------|---|
| 5月26日(水) | ベトナムについてテーマ別にリサーチ |
| 5月28日(金) | リサーチ活動、進捗状況の情報交換 |
| 6月18日(金) | リサーチ内容の情報共有 |
| 6月30日(金) | PTNK 生徒とのオンラインミーティング① |
| 7月7日(水) | JETRO ホーチミン駐在員によるオンライン講義
「ベトナムを知る ～経済発展・日本との経済交流の面から～」 |
| 7月16日(金) | PTNK 生徒とのオンラインミーティング② |
| 7月27日(火) | PTNK 生徒とのオンラインミーティング③、チーム編成・テーマ決め |
| 8月6日(金) | PTNK 生徒とのオンラインミーティング④ |
| 8月27日(金) | プレゼンテーション準備 |
| 9月10日(金) | プレゼンテーション準備 |
| 9月17日(金) | プレゼンテーション準備、中間発表 |
| 9月29日(水) | プレゼンテーションリハーサル |
| 10月1日(金) | PTNK 生徒とプレゼンテーションリハーサル |
| 10月6日(水) | PTNK 生徒とのプレゼンテーション発表
新潟県国際交流協会留学生交流推進員との交流 |
| 10月22日(金) | 校内発表会に向けての練習 |
| 10月26日(火) | 校内発表会 |
| 10月27日(水) | 校内発表会 |

Let's start revolution of Japanese education 【グローバル班 A】

1 メンバー

--	--	--	--

2 資料抜粋

Let's start revolution of Japanese education

~REASON WHY WE RESEARCHED TEACHERS DAY~

Interested in Vietnamese culture 

↓

"Teachers' Day" celebrated all over the world

↓ Japan doesn't have this holiday

Decided to research more about teachers day

What is Teachers Day?


- Show their respect and gratitude for teachers
- Students give a present, throw the party, sing a song...

Vietnamese students think about teachers

- Being friendly and joyful
- They admire their teachers

PROBLEMS OF JAPANESE EDUCATION NOW

- Classes passive style
- Knowledge-based education




↓

VIETNAM HAD THE SAME PROBLEM

- The government acknowledged it and updated their educational policy

How to make Japanese education better!

4 QUALITY EDUCATION 

Make presentations about what they've learned and share it with their classmates!

→they can understand the subject deeply, improve communication skills, and think creatively.

Make online games related to what they've learned and play them with their classmates!

→They can have fun while studying, improve technology skills, and realize how interesting studying is.

3 発表概要

Do you know Teachers Day? Teachers Day is a day celebrated all over the world including Vietnam. We discovered this day when we were researching some of the holidays in Vietnam. It caught our interest because we don't have this holiday in Japan, so we decided to research more about it.

Thanks to teacher's day, Vietnamese students have an image of them being friendly and joyful. However, most Japanese students don't have much image of them with respect.

From this, we found two main problems in the current Japanese education system. That is that classes take a passive style and a knowledge-based education is provided. Actually, Vietnam had the same problem. However, they updated their educational policy to focus more on the students and practical skills in 2005. Perhaps we can learn from this example.

To solve these problems in Japan, we suggest the following actions. Students will make presentations and online games related to what they've learned and share and play them with their classmates. By doing so, they can get practical skills and participate in classes more positively. If we do these ideas, we can make Japanese education better.

No Need to Be Perfect

I would like to write about my experiences in this program.

First, I'll explain why I decided to join this activity. One reason is that I wanted to improve my English-speaking skills. The opportunities to communicate with foreign people are not common in my life, so I needed time to use English actively. Another reason is that I wanted to improve international understanding. I think acquiring various viewpoints is necessary for my future life. For these reasons, I decided to participate in this project.

It was my first time to talk with Vietnamese people and I was happy I could understand the Vietnamese English. I talked with my buddy about Vietnamese culture I was interested in. During this project, the image of Vietnam I had changed in my mind. As a matter of fact, the educational levels are very high and the economy is growing every year in Vietnam. This is new information for me, so I was surprised. I assumed Vietnam was a poor, developing country, which I know is wrong.

I made progress in some points. For example, I improved my English skills. When I talked with my buddy, I couldn't catch his words and also couldn't speak fluently at first. I was really upset because I thought that I could communicate well in English. However, in the last moments of our online meeting, I enjoyed talking with my buddy and I felt no communicational barriers between us. Why could I communicate well in the end? I learned that having a high English ability is not enough to communicate with people. The enthusiasm for communication is also essential. If I can't understand what a person is saying, I can ask him or her to say that again slowly. When I asked my buddy to repeat what he said, he always did it for me. When I couldn't come up with the best words to say, I looked for other words I knew and I could make myself understood. My buddy understood what I wanted to say, and we always had good conversations.

From these experiences, I learned another important thing: To be confident when I talk to someone. We are using English as a second or foreign language, so there are some unique accents and pronunciations. We should make an effort to understand these non-native "Englishes" and try to communicate with each other. I became less stressed when speaking English because I knew that I didn't have to be perfect. I felt it was OK to make mistakes. What is most important is not speaking perfect English but trying to communicate eagerly. Awareness of this is now the basis of my international understanding.

I enjoyed this project a lot and I achieved my two goals; improving my English skills and deepening international understanding. I want to keep good connections with my Vietnamese friends and I want to visit Vietnam someday. I am grateful to everyone who cooperated during this wonderful program. I will continue to study English hard to work on a global scale in the future.

My confidence

I didn't have any confidence in my English ability. Although I like studying English, my English level is not enough. I didn't know what to do to improve my English ability. Then, I heard about the global course. I thought that if I join this course, I might be able to improve my English ability. So, I decided to take the global course.

This program gave me some chances to talk with high school students in other countries. It was hard for me to communicate with them at first. My buddy speaks English well and talked to me a lot. However, I couldn't clearly express myself. Not only Vietnamese students but also the members of the global course are good at English. So, I felt miserable because of my poor English ability.

There were hard things, but I learned more than that through this program.

First, I learned the importance of trying to express myself. When I talked with my buddy, I couldn't tell my ideas well, so I used gestures. Then my buddy also tried to understand what I wanted to say. In the meantime, we were able to enjoy talking. I was happy to make myself understood in English.

Second, I learned that talking with people is the best way to understand each other's countries. Before I talked with Vietnamese students online, I researched on Vietnam. Then, I felt as if I almost understood Vietnam. However, I could get more new information about it by talking with the Vietnamese students. I realized that not all information I got on the Internet is correct. Today, the Internet enables us to get various information but the information might cause misunderstanding and prejudice. Actually, the image of Vietnam changed after joining this exchange program. If we really want to understand another country, we have to talk with people living in that country and experience its culture.

In this way, I learned a lot of things from the global course. The most important thing I learned is this; Even if the language we speak and the country we live in are different, we can still understand each other. This program gave me a precious experience. Thanks to this program, my English skills have improved a little. My worries changed into my confidence. I want to continue studying English hard so that I can talk with people all over the world with more confidence in the future.

My progress

I joined this project because it looked very interesting to me. My English teacher often talked about foreign countries, so I wanted to know how different Japanese culture is from foreign countries. My English teacher comes from Vietnam, so I was especially interested in Vietnam.

We started with getting a lot of information about Vietnam. I learned a lot of things about Vietnam such as the population of Vietnam, food, and Vietnamese events. We talked with Vietnamese students online. And then, we asked Vietnamese students some questions about what we want to know during the online meeting. I was surprised that Vietnamese customs and Japanese customs are very different. For example, Vietnam has a holiday called Teachers Day. We chose this topic as our research theme because we don't have such a holiday in Japan. Researching Teachers Day, we found that the image of teachers between Japanese students and Vietnamese students is very different. Vietnamese students have an image of teachers being friendly and joyful. However, Japanese students have an image of teachers just being people who teach. We thought this situation is a problem of education in Japan. We started to think about how to solve this problem. Finding the solution was very hard. We discussed it a lot when our opinions were split. By doing so, we managed to come up with our own solution. After that, we faced a new problem. A structure of presentation was confusing. We spent a lot of time discussing it. I was glad to get a positive feedback from Vietnamese students. I was glad to keep discussing thoroughly.

Thanks to this project, I grew up a lot. The most important progress is to improve my ability to talk in English actively. At the beginning of the online meeting, I couldn't speak a lot because I was very nervous. I was afraid of making mistakes. Vietnamese students spoke English actively though it is not their official language. Vietnamese students were very kind and friendly, so I could relax and speak. They spoke slowly for me when I couldn't catch their English. I thought I had to speak English more actively even if I make mistakes. I finally enjoyed the online meeting. I can't speak English perfectly yet, but my English skills have advanced after this project.

From these experiences, I learned two things. One is to speak English actively and the other is to keep doing something thoroughly. That can be applied to not only my school life and but also my future work. I want to use this good lesson as a practical skill.

Teamwork and International Communication

Since I entered Takada High School, I have always wanted to participate in the global group for the research project in the second grade. I've always been interested in other countries' lifestyles, foods, and culture. Due to COVID-19, I knew I couldn't go to Vietnam. However, I expected the project would teach me many things, and in fact it did.

Going into this project I wasn't sure what I wanted to research about. In the global group, we were split into 3 groups depending on what we wanted to learn about Vietnam. I was placed in the group with students who had similar interests as me, which was traditional holidays in Vietnam. My group researched many things about Vietnamese holidays, and also asked questions to Vietnamese students who are called our "buddies." At first it was hard to communicate, because we were speaking to each other online, but gradually we became closer, and now my buddy and I are good friends.

Slowly but surely the final project came closer, which was our group presentation. We decided that we wanted to research about "Teachers' Day," and started working on the presentation for it. We gathered several times after school to talk about the presentation, and we also surveyed students in Japan and Vietnam as part of our research. I was in charge of the English on the presentation slides and the script. On some nights, I had to stay up late to work on it, because I didn't have time. It was challenging but I managed to do it. On the day we presented to the Vietnamese students, even though I couldn't see their faces because it was online, I was still a little bit nervous. However, we got many positive comments from the Vietnamese students and I felt happy that our hard work had paid off. I was more nervous when we had to present the presentation to our school. Unlike presenting online, there were hundreds of faces in front of us, but we were able to successfully present our research.

Working with our group I learned many things. As with any group project, there were a few conflicts along the way, but we managed to work through them. We were able to have good teamwork and give a good presentation. I also improved in communicating in English with foreign students, and learned how to write in English. I hope I can use these abilities and improve them in the future.

Win-win relationship between Vietnam and Japan

【グローバル班 B】

1 メンバー

--	--	--

2 資料抜粋

Why we researched Vietnamese economy??

1. We learned Vietnamese economy is growing remarkably
↓↓↓
2. Many countries focus on Vietnam
↓↓↓
3. Interested in Vietnamese economy

To be solved in Vietnam

- Dependence on foreign capital
- personal wage will be rise in the near future
→foreign companies may leave Vietnam
- Low educational background
→people can't good work by using their knowledge.

The current situation in Vietnam 🇻🇳

- 《Positive》
- GDP and growth rate rose after Doi moi economic reforms
 - Many companies are developing in Vietnam
(Japanese companies : SONY, HONDA ,SHISEIDO)
- 《Negative》
- Personal wage is low
 - Vietnam has a lot of labor force

What we need in the future

★What should Japan do to build a better relationship with Vietnam?

⇒Help Vietnam to raise skilled workers.

Important Things!!



3 発表概要

We researched about relationship between Vietnamese and Japanese companies. We received a lecture from Mr. Imai, who is a staff of JETRO Ho Chi Minh. And we learned that many Japanese companies advanced to Vietnam and Vietnam and Japan have a close relationship. We wonder how to continue this good relationship.

Firstly, we learned that Vietnam is capturing attention from the world. Now there are a lot of foreign companies in Vietnam. In addition, many foreign companies are developing their own factories and bases. It is because they can employ people with cheap wages in Vietnam. Also, investment cases are increasing too. Some developed countries make an investment to Vietnam. From this, we can see that Vietnam is getting attention from foreign countries now.

Secondly, the current situation of Vietnam also has a disadvantage. Developing foreign companies' factories may lead to depending on foreign capital. One of the causes lies in human resources in Vietnam. It has been trying to decrease the number of youth unemployed and unskilled by providing beginners with vocational training.

Finally, we learned it's important that companies never use Vietnam only for cheap wages to build better relationship in the future. They should help Vietnamese workers to improve their skills. For example, companies help employees get certified. We hope that Vietnam and Japan build a better relationship and develop together.

My Asset

I wanted to make friends with people who have a global point of view and inspire each other. This is one of the reasons why I decided to join the global team. Thanks to this activity, I met a lot of respected people. Meeting them became my asset.

One of them is my buddy, Kelly. Her English is much better than mine but more than that, she is charming. She always tried to understand what I wanted to say. She was pleased more than I was when I could give a presentation. Not only that, she also gave me a lot of advice, such as how to speak clearly and make a clear presentation. She is my first friend who lives abroad, and I was nervous and anxious when I contacted her for the first time, but she always smiled at me. Thanks to her, I really enjoyed chatting and talking with her. I want to go to Vietnam and see her face to face someday.

Second, PTNK students are also respected. They are so proactive. I was disappointed and passive many times because I couldn't communicate with them in English well. However, every time I saw their active attitude, I thought that I have to change my own attitude. Also, they told us a lot about the attractive points of Vietnam such as people, food, culture, and history. I want to go there and see them with my own eyes.

Also, I learned a lot from Mr. Imai, who works at JETRO Ho Chi Minh, and my teachers. Mr. Imai is an expert of Vietnamese economy, and he answered a lot of questions from us using email, even though he must be so busy with his work. Also, the teachers helped us a lot using their own time. Both acted even if there was no benefit for them. I felt their eagerness and I want to become a hard worker like them.

I appreciate the Global team members, especially my group. Our group chose the Vietnamese economy and Japanese companies in Vietnam as a topic. We caused our own problems because the economy in both countries is difficult to research and gather information about. Whenever we ran into problems, we cooperated and managed to solve the problems together. I could spend quality time with them.

By meeting people who are involved in this program and doing activities with them, I discovered a lot of my weak points and some good points. I want to become like them. These people will be my role model. Now, my goal is to become a person who can inspire other people such as PTNK students and global members, like they have impressed me.

Broadening my horizon

I want to go to many countries and see different worlds, using English in the future. I think it is boring to live just in Japan forever and thinking only about my own country. I'm interested in foreign culture, lifestyle and so on. This program was a good chance for me to research other countries' economy and culture and come into contact with foreign people. So, I decided to take part in this program.

I learned three things from this project. First, Vietnam is a very advanced country. Before my research, I thought Vietnam is still a developing country. However, it is not true. Since the Doi moi policy finished, their economy has grown. Also the GDP and population are significantly increasing. Many foreign companies in Vietnam are advancing.

Second, Japan and Vietnam are building a good relationship. A lot of famous Japanese companies are doing their business in Vietnam. Japanese bikes, cosmetics and foods are especially very popular in Vietnam. Vietnamese people have a good impression on Japanese products. The relationship between Japan and Vietnam is deeper than I thought. I think Vietnamese people know a few Japanese things but I haven't see much Vietnamese food, cosmetics, and so on.

Third, speaking English gives me confidence. When I talked with my buddy, I was very glad. This is because my buddy complimented my English. I didn't have confidence in my English. However, she said to me, "I understood your words so you don't need to worry." Her words made me happy. Then I realized speaking English will make me more confident. I felt that using some language knowledge is very useful and English will be necessary in the future. Also, Japanese English education in Japan is not enough to improve practical skills. Vietnamese English skills are better than ours. The English ability of Japanese people is ranked lowly in the world. I felt we have to get practical English skills.

In this program, I could grow my feeling for the world. For example, I started to think about other countries' problems. I've never deeply thought about the economy or labor force. I discussed how to solve their problems many times with my group members. It was very difficult and hard for us, but I felt it is important for me. There are a lot of problems all over the world, so we should think about such foreign problems. I think it's necessary to broaden our horizon.

I could learn many things thorough this program. I want to broaden my horizon more and think about various foreign problems in the future. I know it's not easy. In fact, when I discussed the Vietnamese economy with my group members, I felt it was very hard to find a solution. However, we could learn a lot of information about the economy from discussing it. Our topic was difficult. However, I felt glad to choose this topic. I don't want to waste the chance which I was given for the future. I'll broaden my horizon.

The whole wide world

I decided to participate in this program because my friend asked me to do it together and I liked doing things in English. I thought this training would be more exciting than regular Tokyo training. Also, I wanted to improve my English skills and get to know more about the world.

One thing that I especially felt throughout this training is that there are a lot of people in the world who are better than us. In this program, we had some opportunities to share information online with Vietnamese students. In Vietnam, Vietnamese is used as the official language. However, they spoke English more fluently than we could. As far as I could feel, they didn't seem to have any problems with using English even if English was not their official language. To be honest, there was a huge difference between our English skills and their English skills. There were many occasions when we couldn't understand what they were saying or what we wanted to say wasn't communicated well to them. This experience gave me a better understanding of how low the level of my English learning is and how insufficient the opportunity to use English is. Moreover, I realized not only their conversation skills but also their presentation skills in English were awesome.

What I have developed the most throughout this program is the ability to work with teammates to reach a goal. We faced some problems in advancing the activities. However, in the end, we were able to achieve our goal of completing the presentation. There were times when we couldn't come up with good ideas and continued to worry. When I couldn't communicate well with Vietnamese students, we managed to get through it by cooperating together.

There are many people in the world who are better than me in every way, even in my generation. From such a big point of view, my sense of value is very small. In order to get closer to them, I would like to make an effort for my own personal growth.

1 メンバー

--	--	--

2 資料抜粋

A RAINBOW OF IMPARTIALITY
Group C

Results

Japan		Vietnam
There has never been a constitution to accept same sex marriage	LAW	There was a law that prohibited same sex marriage
some area recognize same sex marriage	Rules	no city recognize same sex marriage
influence of religion is not so big	RELIGION	influence of religion is greater than Japan
rainbow parade(the event for LGBTQ) is held every Year	EVENTS	many kinds of event are held(Vietpride,awakening for the rainbow and such)

Causes

JAPAN	VIETNAM
Group awareness Japanese people are afraid of being different	① Influences of their religions The number of 75% of people in Vietnam have their believes Same-sex marriage -OK
	② Family concept They have strong family concept. Having children is important for

Conclusion
Everyone is unique
Sometimes, it difficult to understand others
The differences are able to make us wonderful
Let's make efforts to accept others
We can hang rainbow

3 発表概要

“Diversity and harmony” is one of the slogans of TOKYO Olympics 2020. It focuses on differences in races, religions, languages and LGBTQ. Because of the importance of this situation, we decided to focus on LGBTQ people in Japan and Vietnam.

First, we researched the current situation of LGBTQ in two countries. As we know, both in Japan and in Vietnam, there has never been a law to accept the same sex marriage. As for Vietnam, the impact of religion is bigger than that of Japan because about 75% of Vietnamese have a religion faith and religion plays an important role in their daily life.

Through our research, we found that the group oriented society prevents Japanese people from accepting LGBTQ. On the other hand, in Vietnam, the strong family concept and religions are the main barriers. There are many LGBTQ people suffering from discrimination in both countries.

It's difficult to fully understand all the people. Eliminating discrimination is also a difficult thing. However, if we can work together, a society where all people can live as themselves can be made. We hope that one day we will be able to hang the rainbow of equality by our efforts.

For equality

How can we solve international problems?

Recently, I've thought most people aren't aware of crisis though we should solve global problems as soon as possible. It's difficult to solve these problems without international cooperation, so I have wanted to talk with foreigners about how to find new solutions. That's why I applied for this program.

I found many Japanese LGBTQ people feel their human rights are not protected due to discriminations against them. Also, I learned LGBTQ people are treated as patients who have mental illnesses in Vietnam. I was shocked to hear that, so I decided to focus on LGBTQ problem to make a better society for everyone.

I worked hard with my teammates. First, we had to learn the recent situations in both countries, so we asked Vietnamese students many questions. However, I had hit a wall before I tried to find the solutions. I keenly realized the difficulty in communicating with foreigners in English. I was all running to catch up the contents of our talk. They patiently told me what they wanted to say until I could understand. Thanks to their kindnesses, I found an important thing: Good communication is established by making an effort to communicate. After I'd learned it, I have never given up telling my opinions like them. Finally, I could enjoy the conversation with them.

Then, we tried to find the solutions. At first, I've felt it's difficult because I couldn't imagine what I can do for LGBTQ people. Through my research, I noticed the core of this problem. I misunderstood that non-LGBTQ people can't stand on the same footing, so I was afraid of expressing our opinions for LGBTQ people. We tend to feel different from them, but they are not different. Everyone is different. It is a mistake to regard them as special. There are many people who have not noticed it yet, so discrimination still exists. It is the problem that their human rights are not treated as "person".

I believe the world without discrimination will come. Vietnamese students and I could make an effort together. I felt difficult in communicating with them at first because there was a language barrier, but that's just it. We became friends, overcoming it. I can say the same thing for the LGBTQ problem. How could we stop discriminating against them? We can accept and love each other with our kindness.

Thanks to this program, I could become better not only at speaking English but also at broadening my viewpoints. I could mentally grow as a person.

Individual personality

I would like to talk about my impressions on this exchange program with Vietnam high school students.

The reason why I choose this course is simple. It is because I like English and wanted to realize my dream of working abroad to help people. I can't say that I'm a good English speaker. Even if I'm not very good at speaking English, this was the big "chance" to try to know the limit of my English skills. So, I decided to take part in this program. Through this experience, I learned two things.

The first thing I learned is the big differences between different countries. I knew there would be some differences in ways of thinking, but it was much bigger than I had thought. One example can be seen in attitudes toward gender. Most Japanese have a stereotype regarding gender that women should be graceful people or should do housework and men should be patient and should do power work. These are taken for granted unconsciously. When I talked about it with PTNK students, I found that Vietnam doesn't have the stereotype which most Japanese have. I was so surprised because she said such a stereotype is unique to Japan. As we talked, I really felt the differences regarding the way of thinking. At first these differences are difficult for both sides to understand. However, I believe that the attempt to recognize and understand these differences is necessary to deepen international understanding.

The second thing is the importance of trying to communicate. As I said in the beginning, I was not confident in my ability to speak English. So, whenever I talked with my buddy in English, I was so nervous because I didn't know what I should do if I couldn't speak well. However, this was unnecessary anxiety. Even if I didn't know how to say something, I just tried my best to express it in English and managed to have a conversation, and the PTNK students seemed to understand me. The more I spoke, the fewer times I had to look up words. I have grown a lot compared to when I first started. Knowing a lot of words and grammar is important, but I learned the importance of just trying my best to communicate. Also, I thought this was the same when talking to people who speak the same language.

In this way, it was a valuable opportunity for me to learn a lot of things and become more confident in my English ability. I would like to work abroad in the future, so activities to solve a certain problem beyond national borders like this time was a step towards my dream.

The most important thing is to take any opportunity and "change yourself "

Interaction & Cooperation

The Vietnam training program is the main reason why I chose to come to Takada high school when I was in junior high school. Going abroad to learn more about other countries was one of my biggest dreams and goals. Although we couldn't go to Vietnam this year due to the coronavirus, I still can say that my dream was realized. I have gained lots of new experience and learned many things from talking to Vietnamese students and preparing for the presentation.

Instead of talking face to face, we used the Internet to communicate with them. It's quite difficult for me to understand what they said at first without gestures because their accent is different from a Japanese or Chinese person's accent. However, as I talked more with my buddy and learned more about Vietnam, I gradually became able to understand their words exactly.

By talking with my buddy, I found that I had a lot of prejudice and misunderstandings about Vietnam. For example, I had thought that Vietnam was poor because it's a developing country. However, my buddy told me that Vietnam had improved a lot, not only in economic field, but also in many other areas such as the environment and education. She also told me that Vietnamese GDP continued to increase despite the influence of the coronavirus. If I hadn't joined this project and talked to my buddy, I would never have had the chance to eliminate those misunderstandings.

Most prejudices are caused by not knowing each other. I believe that communication can help us learn more about other countries to solve this problem.

Although talking with my buddy was very interesting, I had a lot of troubles when I prepared for the presentation. I had to write everything in English, such as the PowerPoint and the draft of the speech. I also needed to practice for another speech at that time. Time was limited. I didn't have the confidence in giving a good presentation at all. It was a hard time for me.

Thanks to my group members, I made a schedule to make sure that we have enough time to practice the presentation. They also checked my PowerPoint slides and fixed it many times. Thanks to them, we could make enough time to practice our speech to make it better. Eventually, we succeeded in giving a good presentation.

Through this experience, I learned how important cooperation is. Like our conclusion of the research on LGBTQ, it's difficult to achieve a big goal alone. Teamwork is very important.

I will remember the importance of communicating and cooperating, and apply this experience to my life and study in the future.

探究活動ゼミ発表会

令和3年(2021)年10月27日 高田城址公園オーレンプラザにて

生徒代表挨拶

生徒会長

「探究学習ゼミ発表会 本選」の日となりました。

1年生の時から、私たちは探究学習を継続してきました。1年生の時には「上越地域の活性化」をテーマとして、プレゼミ活動を、そして、2年生になってからは、「SDGs（持続可能な開発目標）と関連させて、新たな商品やサービスの開発、または既存のものを改善することで、企業価値を高める提案をする」ことを



テーマとして、ゼミ活動に取り組んできました。グローバル班の生徒は、ベトナムの生徒と共に、日本とベトナムの共通の課題を発見し、オンラインで交流し学び合いました。

昨年度までの2年生のゼミ活動は、企業から与えられたミッションを解決するという形式でした。しかし、今年度は、先ほど述べたように、SDGsと関連させて、生徒が自ら課題を発見し、解決策を考えました。現在、世界中で多くの人たちがSDGsの達成に向けて、様々な取組をおこなっています。1人1人が少し意識を変えるだけで、世界で救われる人がいるのだと考える反面、世界共通の課題というと、自分たちにはあまり関係がないと思ってしまうこともあります。しかし、私たちはゼミ活動を通して、世界には解決しなければならない問題が数多くあることを、改めて認識しました。そして、多くのグループが、まずは自分たちの身近なところに目を向け、現在の世界でのいろいろな課題を、自分たちにも関係することであると捉えながら、企業への提案の作成に取り組みました。

本日は、昨日の予選会で選出された6チームとグローバル班がプレゼンテーションをおこないます。代表となった班の生徒だけでなく、春からたくさん悩み、話し合い、時にはぶつかり合いながらも、と

もに活動してきた2学年のみんなとこれまでの努力を讃えあいしたいと思います。

私たちが探究活動を行うにあたり、校友会、企業の皆様からたくさんのご支援とご協力を、また、先生方からも多くのアドバイスをいただきました。そのことに感謝をしながら、本日の発表会を、これまで活動してきた2年生、そしてこれからゼミ活動が始める1年生がともに学び、考える有意義な時間としましょう。



次第

1 開会式

開会挨拶 新潟県立高田高等学校 校長 加藤 徹男

生徒代表挨拶 新潟県立高田高等学校 生徒会長

2 企業ゼミ 発表

- ① 富士通株式会社 B班 ～プレモ 新世代のパソコン～
- ② 日本電気株式会社 (NEC) 班 ～食品ロス対策への新提案～
- ③ 株式会社みずほフィナンシャルグループ A班 ～粘って光る女性の社会～
- ④ 石油資源開発株式会社 (JAPEX) A班 ～Change CO₂ これからの未来を考えて～
- ⑤ 大日本印刷株式会社 A班 ～有機 EL で Let's Educational Life～
- ⑥ 横浜ゴム株式会社 A班

～骨にゴムを組み込んだ傘 ゴムの力でビニール傘の廃棄を減らそう～

3 グローバル班 発表

- ① Let's Start Revolution of Japanese Education
- ② グローバル班の活動を振り返って



4 閉会式

審査員が以下の観点で審査し、表彰しました

審査基準

【1】提案の有用性

- ① 企業や消費者の利益
- ② 実現可能性
- ③ SDGs の達成度

【2】提案の魅力

- ① 独自性・創造性
- ② アイディアの新鮮さ

【3】発表

- ① 論理の明確さ
- ② 聞きやすさ
- ③ チームワーク

表彰

優秀 庄山悦彦杯（「総合的」に秀でているもの）

石油資源開発株式会社（JAPEX）A班 ～Change CO₂ これからの未来を考えて～

秀逸 佐久間昇二杯（「独自性・創造性」に秀でているもの）

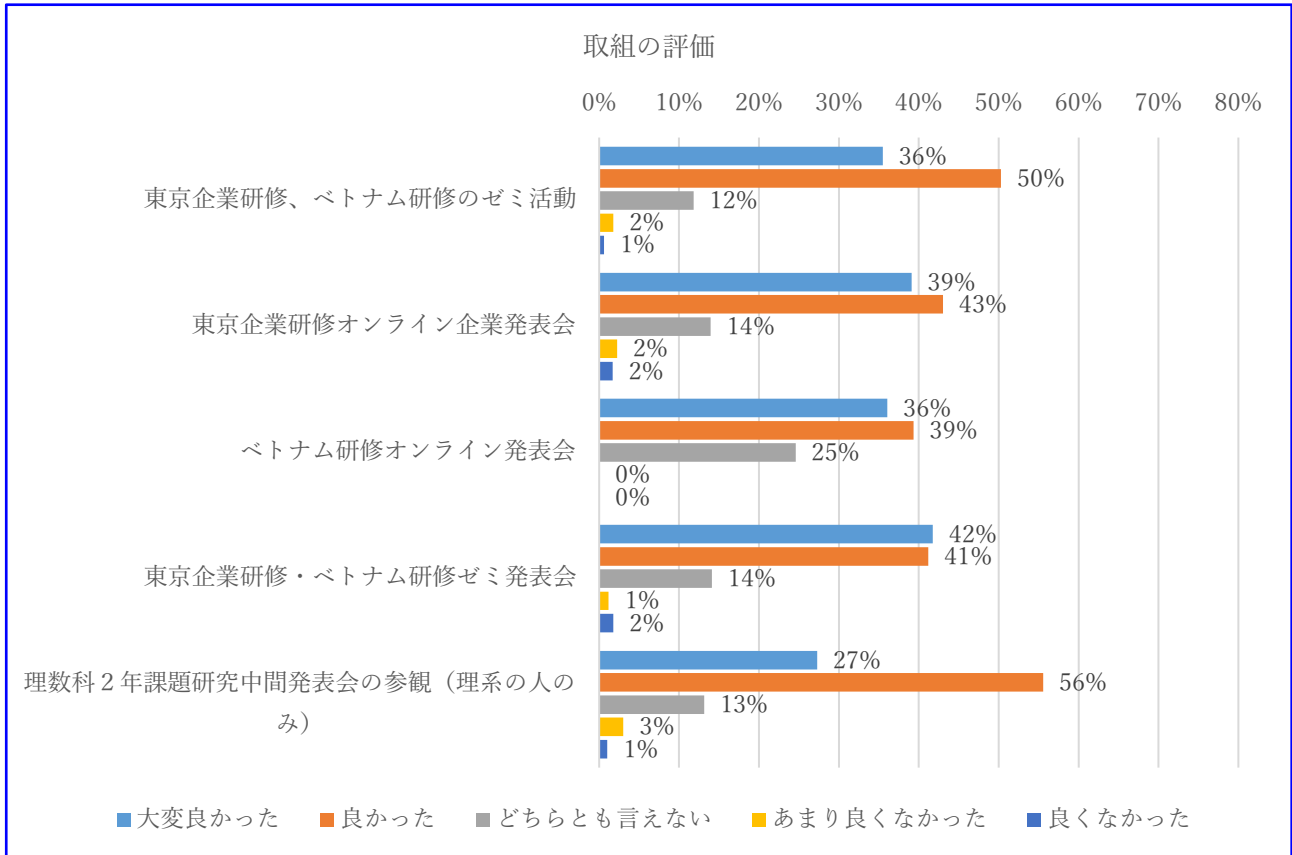
横浜ゴム株式会社 A班

～骨にゴムを組み込んだ傘 ゴムの力でビニール傘の廃棄を減らそう～



探究活動ゼミ活動 生徒アンケート結果

各種取り組みについて(抜粋)



自由記述(抜粋)

- ・仲間と協力することの大切さや、何か大きな事をやりきった達成感を学ぶことが出来ました。
- ・JAPEX様は、新聞会社や電化製品会社とは違い、私達の生活となじみのない企業ですが、調べていく内に私達の生活に必要なエネルギー資源・石油を届ける必要不可欠な企業だということを知りました。科学的な思考と経済的思考をどう組み合わせるか、どこを追求してどこを妥協するか、最も良い1つをつくるのが本当に難しかったです。
- ・解決策を考えそのエビデンスを探しわかりやすく人に伝える工夫をすることの繰り返しでした。今後もこのような場面が多いと思うので、良い経験になった。
- ・論理的な思考のトレーニングになった。
- ・よく調べて、本当にそれは可能なのか、常に疑って取り組むことが大切だと感じた。
- ・企業に自分たちの考えがしっかり伝わっていると分かって、うれしい気持ちになった。NECの方々には感謝しかない。
- ・代表6グループの発表は、より分かりやすく伝える努力が様々なところに見られた。
- ・話しかけるのも大変だった頃と比べると、すぐ話し合いに入っていけるようになり、自分の性格的な成長が実感できた。

- ・アイデアを出すということがどれだけ大変なことかということに改めて実感した。
- ・企業様に新しい企画を提案する際には、まず企業様の強みや課題は何なのかをよく理解することの大切さがわかった。
- ・ゼミ活動を通して、仲間と協力して話し合う力や課題と真正面から向き合い考える力など、様々なことが身についた。また、現代の問題を知るきっかけになり、よい経験になった。
- ・ゼミ活動を通して、たくさんのスキルを身につけることができた。
- ・自分の意見や疑問を持てるように物事を様々な視点でみるのが大切だと思った。
- ・自分の知らないことについて、1から調べて解決策を発表できたことは受験や社会に出てからも役に立つと思うので、真剣に取り組むことができて良かった。
- ・今回の経験を生かして、今後は身近なことについてもよく考えていきたい。
- ・SDGs と絡めて考えることで自分事として SDGs を身近に考えることができました。
- ・日本ケミコン様との対話では、日本やデジタルの未来について楽しく話すことができました。
- ・大変なこともありましたが、プレゼンが全て完成した時の達成感が気持ちよく、とても楽しかったです。
- ・今回のゼミ活動では、まずアイデアを出したり提案内容をまとめたり明確にするのが難しかったです。住友生命様は、保険の会社だったがいろいろな商品があり商品にも種類や働き方もいろいろあって想像以上に保険は難しいことに気付きました。
- ・昨年の2年生の発表を聴いた時は、自分にこんなことができるのかと不安に思う気持ちがあったが、実際に始めてみると、企業にむけて発表するという人生でも大きな経験になるのではないかと思い、ワクワクした気持ちで考えたり、話し合ったりすることができた。
- ・企業プレゼンでは、企業の方から評価やアドバイスとともに、多くの鋭い質問もいただきました。私たちはそこまで考えを深めていなかったため、まとまった回答はできませんでしたが、臨機応変に対応する力は身についたと思います。試行錯誤して案を練っていくことは、とても価値のあることでした。
- ・最初はチーム内で根本的な解釈の違いがあり、話し合いが進まないことも多々あったが、詳細を詰めていく中で、ゴールのイメージが一致し、改善点などまで話し合いを進めることができた。発表だけではなく、準備の段階も含めて、成果であることを実感した。
- ・一つの問題に対して多角的な視点から問題を眺め、解決策を見つけ出すことができてよかった。班の仲間の意見を聞くことで、自分では思いつかないような新しいアイデアが次々と生まれた。
- ・問題点の見つけ方、解決策の考え方、社会への影響、利益の計算まで一通りのプロセスを学ぶことができた。
- ・今まで最もグループワークを楽しめた。「自分たちの提案で人が動くのか」という観点を重視すべきだった。

第13回東京研修(2021)を振り返って

2 学年主任 鹿島 倫明

1 はじめに

今年度も昨年度同様、令和3年10月6日から実施される東京・ベトナム研修が新型コロナウイルス感染症拡大のためオンラインでの企業プレゼンテーションの実施となりました。制限のある中で、成功できたのも生徒諸君の頑張り、また校友会東京支部の多大なご支援によるものと感じています。半年間、協力していただいた企業の担当者の方々にも貴重なお時間を割いていただき、改めて関係各位に感謝申し上げます。

2 今年度の目的

- (1) 自ら課題を見付け、科学的に考え、問題を解決する資質や能力を育てる
- (2) 世の中の問題の解決に主体的、協働的に取り組む態度を育てる
- (3) それらの成果を効果的に相手に伝える力を育てる

この三つの目標を達成するため、企業から課せられたミッションの解決ではなく、「SDGs（持続可能な開発目標）と関連させて、企業価値を高める提案をする（新たな商品や新サービス、もう既にあるものを改良したもの）」をテーマとし、企業ごとのグループで活動し、提案をまとめ、プレゼンテーションを行う。これらの活動を通して、協力する力、深い思考力、高度な表現力を身につける。

3 ゼミ活動

1 年生での活動

- ・未来新聞作成、地域の課題を探る

企業への依頼

- ・昨年度の報告書発送とともに各企業へ受け入れを依頼。
(新型コロナウイルス感染症拡大が収まらない場合は、オンラインでの実施で依頼)

班編成

- ・4月上旬にオリエンテーションを行い、希望企業の研究。
- ・5月上旬に企業の決定。(1社最大2チーム、1チーム原則4人の班編成。)

ゼミノートの作成

- ・半年間の活動内容を時間毎にまとめたゼミノートを作成しました。内容は、ゼミ活動の流れや、どのような手順で進めれば良いのかをまとめ、ループリックやグループで話し合った内容をまとめられるようワークシートを付け、まとめることで提案書が完成出来るよう工夫しました。また、ゼミノートには各時間毎に自己評価や感想などをまとめられる箇所をつけ、生徒達が活動を振り返ることが出来るようにもしました。

資料作成

- ・今年度は、各企業グループに Teams 上で活動できるようチームを作成し、生徒同士が会議やファイルのやり取りが出来るようにしました。各グループの連絡や提案資料やプレゼン資料も全て Teams 上で配布、提出させました。担当教員も Teams 上のチャット機能を活用し、連絡やアドバイスをを行うことが出来ました。特に、iPad が各チームに2台割り振ることができ、企業とのオンライン会議等にカメラ付きパソコンが利用でき、作業を円滑に行うことが出来ました。

4 オンライン企業研修

会議ソフト

- ・昨年度の反省から、担当職員の負担を軽減するため使用する使用ソフトを一本化しました。当日は、大きな通信トラブルもなく、時間通りに終了することが出来ました。

オンラインプレゼンについて

- ・企業の方々には、オンライン会議の経験が豊富のため、多くの企業からプレゼン終了後に独自の企画を組み込んで頂きました。他の企業の生徒にも共有させたい魅力的な企画が多かったのが印象に残っています。オンラインでの実施の場合、各企業との日程調整や割り当て時間(今年度は1企業70分)、使用教室の確保が課題として挙げられます。

5 探究学習ゼミ発表会(10月26日予選・27日本選)

- ・昨年度同様に、予選と本選と2日間に分けて行いました。分けるメリットは、本選出場チームが大ホールで発表時のパフォーマンスを含めた準備が出来ることを考えると良いと思います。
- ・今年度は、本選出場チームのリハーサル(10分)を入れたことも生徒達にとってプラスになったのではないのでしょうか。
- ・オンライン会議を利用した審査を今年実施しました。機材等の事前の確認が必要な点や、審査員の方々との打合せを行う必要があるなど、この形での実施には担当職員の負担が大きく、改善が必要です。

6 成果と課題

- ・生徒代表の言葉にあるように、私たちの身の回りには解決しなければ課題は沢山あります。この活動を通して、一人では困難なこともグループで協力することで困難な課題も解決することができるということがわかったのではないのでしょうか。
- ・班単位でみた場合、プレゼンテーション能力は高まっています。今後は、更に内容を充実させるにはどうすればよいかという課題が見えてきました。
- ・SDGsのような全世界が取り組む課題などを解決するためには、複数の企業グループがコラボレーションして取り組む形も今後検討してもらいたいと思います。